

宮陵

NO.65

# Kyuu-Ryo



**NEW FACE  
ROKKAKUBASHI**

**NEW FACE  
HIRATSUKA**



一般社団法人神奈川大学宮陵会

# CONTENTS

- 01 会長あいさつ 一般社団法人神奈川大学宮陵会 会長 大場憲治
- 02 理事長あいさつ 学校法人神奈川大学 理事長 正野幸延
- 03 学長あいさつ 神奈川大学 学長 兼子良夫
- 04 前学長あいさつ 神奈川大学 前学長 石積 勝
- 05 大学ニュース
- 06 活躍する卒業生  
Part 1●企業で、世界で活躍するOB・OG  
Part 2●行ってみよう! OB・OGの繁盛店
- 24 HPを活発に活用している地方組織
- 26 平成27年度近畿ブロック会記念講演会「大仏造頭の心」
- 28 課外活動ニュース
- 30 神大の歴史
- 32 宮陵会だより
- 37 「神大スポーツ・文化振興賛助金募金」寄付者ご芳名
- 41 大学院トライアルコースのご案内
- 42 地域組織だより
- 57 平成28年度定時総会の開催について  
事務局よりお願い
- 60 神大百景
- 62 地域組織一覧



## ■ 表紙写真 ■

### ニューフェイス

六角橋商店街のまちなみ環境整備に伴うアーチ・街路灯の全面リニューアルに伴い、大学院工学研究科建築学専攻M1年[当時]・井上裕子さんが提案した「六角橋商店街を優しく彩るアーチ」が採択、このたび整備完了して美しく優美な姿を現しました。(写真上)

JR平塚駅と湘南ひらつかキャンパスとのアクセス路線バスに待望の「急行便」初登場! 最速20分台で結びます。運行初日にはマスコットも参加してセレモニーが行われました。(写真下)

#### Advertising

- 52 ●株式会社ディーエムエス
- 53 ●株式会社千代田
- 54 ●株式会社カレンズ
- 55 ●ベスト資材株式会社
- 56 ●横浜信用金庫
- 59 ●神奈川大学みなとみらいエクステンションセンター
- 65 ●宇久田進治税理士事務所
- 株式会社経営センターグロー
- 65 ●SKY総合法律事務所
- 裏表紙 ●不二サッシ株式会社
- 裏表紙 ●神奈川大学生活協同組合

## 横浜専門学校校歌

作詞 土井 晩翠  
作曲 岡野 貞一

一、近代日本の文化の曙光  
初めてまばゆく照し、港  
港に基おく我等の母校  
栄えよ横浜専門学校

二、基は新たな昭和の御代に  
四海の思潮の寄せる時に  
経世実用めあてとなして  
栄えよ横浜専門学校

三、狂と暗とは暫しの悩み  
正義は世界の力の本と  
信じて勉むる健児のやどり  
栄えよ横浜専門学校

四、祖国の誉れと世界の平和  
目指して日に日に希望にみちて  
向上無窮の使命に進む  
栄えよ横浜専門学校

## 神奈川大学校歌

作詞 神保光太郎  
作曲 高田 三朗



一、岩をうち とどろに返す  
真白なる 波のゆくえよ  
あけそめし 日本の未来  
湧きおこる あかつきの歌  
世界は呼ぶ 世界は呼ぶ  
ひかりはここに  
われら われら 神奈川大学

二、空あおく 涯てなくあおく  
船は航く 遠きわたつみ  
ひとすじの 真理の潮路  
相寄りて今日も究めん  
世界は呼ぶ 世界は呼ぶ  
ひかりはここに  
われら われら 神奈川大学

三、丘に立ち 祖国を想う  
混沌の 雲のゆきかい  
日に烈し ほのほの決意  
あたらしき 歴史の朝よ  
世界は呼ぶ 世界は呼ぶ  
ひかりはここに  
われら われら 神奈川大学





# 会長あいさつ

一般社団法人神奈川大学宮陵会 会長 大場憲治

## 会長あいさつ

昨年6月の定時総会において皆様からの推薦を受け会長職に就いてはや10か月が過ぎようとしています。その間いくつかのブロック会、地域組織総会にお邪魔し会員の皆様にご接することが出来ました。皆さんが宮陵会活動にご理解とご協力いただき、惜しみなく發揮いただいていることを肌で感じることが出来うれしい限りです。ありがとうございます。

さて、平成23年3月11日に発生し



た未曾有の東日本大震災からはや5年が過ぎました。まだまだ復興せず自宅に帰還できず苦しんでおられる方がいらつしやることを忘れていません。心よりお見舞い申し上げます。また当時、入学式が挙行されずに入学した被災学生諸君は昨年3月に晴れて無事卒業され、社会人として1年が過ぎ2年生となりました。宮陵会としては、彼らの今後益々の成長に期待していますし、協力も惜しみません。

神奈川大学宮陵会は、それぞれ宮面が丘の横浜キャンパス、土屋の湘南ひらつかキャンパスで多感な時代に勉学、スポーツ、遊び等々を通じて友が出来、仲間が増え、青春を謳歌した感激を基盤にした集まりだと思います。

社団法人から一般社団法人に移行し4年目に入りましたが、27年度事業計画は「会長就任の御挨拶（会報100号）」に記載しましたが①母校の進展と維持に必要な事業、神奈川大学教育振興事業や宮陵会奨学金の給付・貸与事業など②会員相互の連携強化とその他本会の目的達成に付随する事業、特に地域組織のホームページ新設支援と情報ネットワークの構築推進やブロック会の強化推進など③財政基盤の確立、事務局体制の強化、それから宮陵会館（仮称）建設に向けた会館建設特別委員会の開催や宮陵会創立80周年事業（平成29年度）の策定及び推進をしております。これら事業を今後も継続していく考えです。

具体的には  
地域組織のホームページの支援事業を推進しておりますが、新たに41組織の完成をみました。活動内容や行事予定が掲載され組織の活性化がはかれるよう期待しておりますし、まだ開設されていない組織の開設をお

待ちしています。

ブロック会強化推進に関しては新たに5万人近い卒業生がいる神奈川県ブロック会が組織され初めて10月末日に横浜キャンパスで開催しました。今後、多くの卒業生のいる東京を中心とした関東ブロックの組織化を願っています。

悲願の宮陵会館（仮称）建設について、昨年の会誌64号に狩野前会長が「会長あいさつ」に「宮陵会館建設に向けて」と題して紹介されていますのですでにご承知のことと思います。会館建設特別委員会が設置され1年が過ぎましたが委員会としての答申案が間もなく出来上がり、会長あてに届く予定ですので卒業生が親しく集まるにふさわしい会館建設に向け役員会で決議し、大学当局と協議に入っていく所存です。

財政基盤の確立につきましては、現在、準会員である学生はおおよそ19万人ですので、毎年新規正会員に4千余人が加入され、高齢化とともに会員数は益々増え、これに伴う経費は年々増加してきています。引き続き、経費削減に努めてまいります。ご理解とご協力をいただき、増収に努めなければと思います。今後、高齢化進行の中、多くの若い会員、女性会員、準会員が宮陵会活動に参加

していただき地域宮陵会との結びつき強化のためにもよろしく願います。

宮陵会は昭和12年3月に横浜専門学校同窓会として校長林頼三郎先生が会長に、副会長に樋貝詮三氏と創立者の米田吉盛先生が就任され設立されました。爾来、第2次世界大戦、空襲、終戦後の混乱、連合軍接収解除後の戦災校舎再建、神奈川大学の新設、学園紛争などによって同窓会活動に困難な時がありました。歴代の先輩役員はじめ多くの卒業生に支えられ来年は80周年を迎えることとなります。周年事業につきましては大学に建設いただく宮陵会館（仮称）の竣工をからめ検討をしておりますが決まり次第お知らせしたいと思います。

若手会員と現役学生である準会員が活発に宮陵会活動に参加してもらうため、結びつくツールとして地域組織ホームページ開設支援をいたしますが、何よりも皆さんの一人一人のお声かけが最もきめんと考えられますのでよろしく願います。

会員皆様のご健勝をご祈念申し上げます。日頃からのご理解とご協力に感謝申しあげるとともに、さらなる発展の為に一段のお力添えを頂戴したくお願いいたします。

## 神奈川大学 近況のご報告

神奈川大学宮陵会のみなさまにおかれましては、お元気にお過ごしのことと存じます。

そして、日頃より本学並びに学生へ変らぬご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

理事長に就任以来、各方面、とりわけ卒業生の皆様からは、本学の状況について様々なご意見をいただいております。大学に対する期待と認識しております。

まず、本学の近況をご報告させていただきます。



今年の法人の重点課題は何といっても将来構想の推進です。この3月で第一期中期実行計画の期間が終了しましたので、2016年度から2021年度までの6年間の第二期中期実行計画を策定しています。第二期中期実行計画の策定にあたっては第一期の反省を踏まえ、6年後の神奈川大学の目指すポジション、ターゲットを明確にするとともに、推進体制、責任体制を明確にしました。また、数値目標を設定し、評価できるシステムを取り入れました。「競争力を強化し、社会的ポジション

を高め、魅力ある学園を構築する。」という学園の中期目標を定めました。学園の中期目標に基づき、大学、附属学校の中期目標を定め、大学、附属学校、基盤整備の各部門の6年間の中期実行計画を検討しました。4月中には策定を終え、今後学内に周知するとともに、社会に公表する予定としております。

第二期中期実行計画においては、魅力ある学園を構築するため、新たな教育組織の設置を含む教育組織総合計画、教員組織総合計画、キャンパス総合計画の策定をその中核に据えています。

グローバル化、ICTの進展など大学を取り巻く環境が変化しており、大学に求められることも大きく変化しています。こうした中で、神奈川大学が勝ち残っていくためには、将来構想を着実に進める必要があります。

この推進にあたっては、法人、教員、教職員が一体となって推進していく所存でありますので、引き続き皆様方のご協力をお願いいたします。

また、第一期中期実行計画でも重点課題としていましたが、3キャンパスの施設整備を進める予定です。特に横浜キャンパスマスタープランについては、3号館の完成以降、東日本大震災後の復興事業の影響、消費税増税、2020年東京オリンピック・パラリンピックの決定など、当初想定していなかった様々な事象が発生し、建築資材、建築に係る人件費などが高騰し、当初の予定通り

マスタープランを推進することができませんでした。今年度は、今後予定している工事の内容、順番を見直し、優先順位を改め、マスタープランを推進する予定です。特に学生食堂が入っている10号館の大改修、現在その在り様に変化している図書館の改修、多目的ホールの機能も必要な体育館の建て替えなどを優先し進める予定です。学生食堂などの学生の福利厚生面の充実に加え、ラーニングコモンズや学生の居場所を確保するなど学生の学修・生活環境の向上を図りたいと考えています。

さらに近隣の5,500㎡の土地を50年の賃貸借契約を結ぶことができましたので、グローバル化も視野に入れ、国際寮の機能を備えた学生寮の建設を進める予定です。

宮陵会の皆様お待ち望んでおられます。宮陵会館（仮称）につきましては、東門プロムナード再開発として、18号館、21号館建て替えを含め再開発の一環に組み込み、順調に進んでおります。会館建設特別委員会で取りまとめられた宮陵会のご意見、ご要望を踏まえながら、平成30年度完成に向け順次設計に着手してまいります。

最後に、学生と卒業生の活躍についてです。

1月2日・3日の箱根駅伝は、選手はもろんのこと、監督、コーチが1年かけて準備してきた結果です。結果は総合13位と健闘しましたが、シード権の獲得には至りませんでした。11年振りのシード権獲得を

目指していましたが、その壁の高さ、厚さは並大抵のものではありませんでした。ただ、優勝した大学も同じ大学生が走っているのですから、追いつき追い越すことは可能だと力強く感じました。選手の皆さん、監督、コーチの皆さん、お疲れ様でした。また沿道やテレビで熱心に応援していただいた皆さんに心からお礼を申し上げます。

今年度の課外活動は、これから本番を迎えるわけですが、昨年度の活躍の一端をご紹介しますと、硬式野球部が、一昨年に続き2年連続で全日本大学野球選手権大会に出場しベスト4、水泳部は、日本学生選手権水泳競技大会において男女ともに複数種目で入賞を果たし、学校対抗では女子総合3位（4年連続シード権獲得）を獲得する快挙を果たしました。全日本吹奏楽コンクールの常連校である本学吹奏楽部は、昨年、大学最多となる通算27回目の金賞受賞を達成しました。また、レスリングではオリンピックに向けての強化指定となる選手がおり、スケートのシヨートトラックでは卒業生も含め数名が日本のトップクラスとしてワールドカップに出場するなど大きな実績を残しております。この他にも多くの学生が課外活動等で活躍しております。

引き続きみなさまからのご支援、ご声援をいただければ幸いです。

終わりに、宮陵会の発展と卒業生のみなさまのご健勝を心からお祈り申し上げます。



## 新任のご挨拶

このたび神奈川大学の学長に就任いたしました兼子良夫でございます。新学長として宮陵会の皆様にご挨拶申し上げます。

宮陵会の皆様には、日頃から大変お世話になっております。心から感謝申し上げます。本学は、開学以来、卒業生の皆様とともにいわば二人三脚で高等教育機関としての歴史を築き、有為な人材を輩出してまいりました。この伝統をしっかりと胸に刻んで、永続的な明るい未来に向けた



教学改革を迅速かつ着実に進めてまいりますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◆ 本学は、ご存知のように、創設者の米田吉盛先生が「人は実業家や学者、官僚である前に、まず人間であれ」と説いて以来88年、何よりも建学の精神に基づく「人をつくるにある」を教育理念として学問による人

間形成を重視してまいりました。現在、創立100周年に向けた様々な教学改革を進めておりますが、この「人をつくるにある」に込められた伝統と誇りを忽せにせず、わが国多数の高等教育機関としての使命を果たしてまいります。

◆ 中央教育審議会は、平成20年12月に大学教育の今後のあり方について、「未来の社会を支え、よりよいものとする「21世紀型市民」を幅広く育成するという公共的な使命を果たし、社会からの信頼に応えていく必要がある。」と纏めています。

◆ このような大学教育のあり方は、本学が88年前から取り組んできた教育理念である「人をつくるにある」そのものであり、本学教員としてみると何を今更の感が拭いきれません。とはいえ、本学が私学として先人達と率先して取り組んできた教育のあり方と人づくりの姿勢が、時代を超えた普遍的なものであることを改めて確認できたものといえるでしょう。

◆ さて、昨今は、人類が抱える課題の増幅と多様な価値観の相克のなかで、高等教育機関の存在意義が本質的に問われ、多種多様な議論が展開されております。国策たる科学技術・知財立国の再興と産業界との連動のなかで、国公立大学に対する理数系学部の重視と人文社会系学部の統合廃止問題なども議論されていま

す。本学は、私学たる建学の精神と伝統に則り、これらの動向を充分に見極めて、軽々に動かず、人文社会系学部の充実も図るなどで、横浜に生まれた大学の雄として復権することも視野に入れた対応をすべきと考えております。

◆ ここで、本学の教学改革に必須とされるグローバル化と教養教育について少し触れておきたいと思えます。グローバル化については、横浜に生まれた大学の利点を最大限に活かし、世界の大学等との交流を活発にし、国際感覚と共に多様な考え方や価値を学ぶ機会を大幅に増やすことは当然のことです。

◆ しかし、まず、自らの国である「日本」の文化、伝統、政治、経済等を学ぶことが大切です。多文化が進展する新たなグローバル化においても、自らの国を知ることの意義は変わりません。そのうえで、グローバル化の課題についてしっかり考えることが必要です。この考える力や育むには、日本語の授業のなかで、母語である日本語でしっかりと考えることが大切です。全ての本学生が外国語を話せるようになることも大事ですが、グローバル社会において次々と現出する新たな課題に対して、まず、学生が自らの考えを持つようになること、そのうえで自らの考えを発信できるようになることが

大事だと考えております。

◆ また、教養教育もとても重要です。教養教育を大学がどのように捉えているかによって、大学教育のあり方が問われるものと考えております。いわば「人をつくるにある」の中核となる教育といえるものです。物事の原理原則や考え方の多くはここで学ぶこととなります。

◆ 一般に、学問の目的は、「真理の追究と人類の生存条件の辛さを軽くすることにあり」とされています。また、自ら学んだ専門知識をどのように使うのか、物事をどう捉えるかなどの考え方の指針となるのが「教養」とされています。すなわち、専門知識等をどう使うのかは、その人の「教養」がその方向を決めることとなります。本学の学生には、学問で会得した知識と能力を、教養ある人間として、人々の幸福のために役立ててもらいたいものです。

◆ 神奈川大学は、建学の精神に基づいた「人をつくるにある」を今後とも真剣に取り組んでまいります。そして、新たな未来に向けて全学の叡智を結集して迅速かつ着実に教学改革を推進してまいります。希望に満ちて、誰もが誇れる神奈川大学として復権するために全力を尽くしますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 前学長あいさつ

神奈川大学 前学長 石積 勝

## 学長職を退任するにあたって

卒業生の皆様、お元気で充実した毎日を過ごされていることと思います。皆様日々それぞれのお忙しい生活の中で、神奈川大学のことを常に思いだし、気にかけて下さっているのではないかと思います。全国からの、あるいは遠く海外からの皆様の大学に対する声援を背に、教員も職員も、学生にとつて楽しく、また充実感あふれるキャンパスになるよう、本学のスローガンである「成長支援第一主義」を実践し、学生の教育にあたっているとこころです。



そうした中で、私としてもこの3年の間、学長として教職員の先頭に立ち、まさしく全力投球してまいりましたが、このたび任期満了により学長職を退かさせて頂くことになりました。副学長時代の3年間も含め、宮陵会会員の皆様には多大なご支援ご協力をいただき、本当に感謝しております。誠にありがとうございます。

◆ 本学OB・OGの皆様とはじつに様々な場面でお付き合いさせていた

だきました。

◆ 宮陵会のブロック会議、各地区での総会などでも親しくお話しさせていただきますました。駅伝をはじめ、各種スポーツ競技会にもたくさんの方々に応援に駆け付けていただき、その際にも言葉を交わさせていただきました。また恒例の吹奏楽の地方公演でも多くの方々に会場に足を運んでいただき、同時に集客活動にもご協力いただきました。全国30会場で行われる後援会主催の父母懇談会では、現役学生の父母の皆さんの前で、地方の就職事情をお話いただき、時には具体的な就職相談にまでお話をいただきました。まさしく神大卒業生ネットワークのパワーを私も目の当たりにさせていただいたところです。さらには東日本大震災の後すぐに大学として始めた「KU東北ボランティア駅伝」をはじめとする、神大としての様々な被災地支援活動にも、大車輪でご協力いただいたことにも感謝の念でいっぱいです。

◆ とこころで学長あるいは副学長としてのスピーチ、挨拶、講演、原稿執筆、インタビューなどそれぞれ無数に行ってまいりましたが、その際に常に申し上げてきたのが、「大学を支える3本の矢、3つの柱」の話です。大学は、学生と、教職員と、そして卒業生の3本の柱によって支えられているという話です。

◆ 神奈川大学のこれからのを考える

時、まずは今、在籍している学生諸君、彼らが大学を愛し、神大生であることにプライドを持ち卒業していただけること、そして社会で活躍していただけること。社会で評価されること。在学中も卒業後も堂々と胸を張って神大のことを周囲に語ってくれらる。これにまさる大学の広報活動はないわけです。これが神大の、これからの一番の柱であることに間違いはないと思います。教職員は一人ひとりの在学生在が4年後にそのような気持ちを抱いて卒業できるように、真摯にそして全力で学生に向き合わなければならぬわけです。授業はもちろん、正課外の活動も含めキャンパス全体にそうした充実感、満足感が生まれるよう、その視点から仕事をしているだろうか、一人ひとりが胸に手を当てて日々考えることが求められると思います。現役の学生と人ひとりの思い、行動。これがこれからの神大の評価を決定づけるのだと思います。

◆ しかし、この2本の柱に加えて、やはり、個人的な利害とは全く関係ないところで、純粋な母校への愛情のまなざしで神奈川大学を見つめて下さっている多くのOB・OGの皆様が、この3本目の柱もまた、現在の大学を支え、これからの大学の発展を占う大きな力になるのではないかと改めて思っているところではない卒業生の皆さんの存在ですが、

◆ 副学長・学長という立場になり、この点は本当に強く感じました。皆さんの大学に対する思い、また奨学金その他による具体的な支援、寄付などの実態を垣間見るにつき、卒業生の皆さんは間違いなく大学の大きな柱のひとつであると確信を深めたところです。どんな組織でもその組織の浮沈は、やはりその組織に対する愛、良い意味でのプライド、愛校心がどれだけその構成員にあるか、またその組織の応援団にあるか、それがカギなのだろうと思います。その意味でも、時には厳しい叱咤激励も含めて、今後とも是非とも大学の応援団であり続けていただきたく、切にお願い申し上げます。

◆ さて私自身は湘南ひらつかキャンパス開設とともに神大に赴任してまいりましたので、すでに27年間にわたり本学にお世話になつていことになりす。4月以降は一教員として学生諸君にまた再び直接向き合うことになりましたが、私の神大に対する思い、愛校心が変わることはありませぬし、皆さんと同じように日々大学の現状を気にしながら少しでも貢献できればと思つている次第です。どうぞこれからも神奈川大学のよき応援団員として大学を見守ってください。

◆ 皆様方お一人お一人のご健勝を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。



# 大学ニュース

Kanagawa University News

## ● 将来構想と創立100周年に向けた本学の取り組み ●

### 1 将来構想、第一期中期実行計画、中長期財政計画の策定

創立80周年を迎えた2008年、創立100周年に向けた法人の発展を期して、学校法人神奈川大学将来構想を策定し、これを実現するため2010～2015年（6ヶ年）の「第一期中期実行計画」を3部門（大学部門、附属学校部門、基盤整備部門）で推進してきました。

この6カ年の間、2011年には将来構想を円滑に進めるために中長期財政計画を策定し、将来構想推進のための資金計画及び横浜キャンパスの大規模な整備計画である横浜キャンパスマスタープランに重点を置き、将来構想推進引当特定資産（総額200億円）の積み立てを開始しました。また、第一期中期実行計画の中間年である2012年度には、これまで推進してきた計画が一定程度進んだこと、この間の社会情勢の変化、また、これからの社会を主体的に担う人材養成の期待が高まっていることから、取り組むべき課題を改めて整理し、「改訂第一期中期実行計画」（2013～2015年度）を策定・公表し、推進に努めてきました。

この第一期中期実行計画では、理学部・工学部の再構築、教育支援センターの設置、国際センターの建設、創立者米田吉盛教育奨学金の創設、中長期財政計画の策定、横浜キャンパスマスタープランの策定など、主要な事業を実現してきました。

高等教育や社会の要請に応える教育組織、グローバル教育などの主要課題については、改訂第一期中期実行計画へ引き

継ぎ、「教育の質の向上」「競争力のある新たな教育組織の設置」「国際化の推進」「就職支援」を重点方針として推進してきました。

一方、東日本大震災、東京オリンピック・パラリンピックの開催などを含め、本学を取り巻く様々な環境変化に柔軟に対応するため、2016年3月に横浜キャンパス施設整備事業に係る第2号基本金の組入れ変更を行い、組入予定額を30億円増加するとともに、取得予定年度を3年間延長しました。

### 2 第一期中期実行計画の策定

この6カ年の第一期中期実行計画を踏まえ、2016年度から始まる第二期中期実行計画では、「競争力を強化し、社会的ポジションを高め、魅力ある学園を構築する」ことを掲げ、学園の中期目標、大学、附属学校及び基盤整備の各部門の中期目標、さらには中期実行計画を定め、予算とも連動させ、PDCAサイクルを組み込んで推進して参ります。（社会への公表は2016年5月末予定）

なお、第二期中期実行計画策定にあたっては、学外理事、評議員にも参画いただき、提案型の「将来構想推進プロジェクトチーム」を設置し、グローバル化推進体制、ガバナンス改革などの提言もなされました。

### 3 創立100周年に向けて

創立100周年に向けて、2010年を起点とした3期（2010～2015年、2016～2021年、2022～2027年）にわたる中期実行計画を進

めて参りますが、今後の長期的方向性として、2015年に「学校法人神奈川大学100周年戦略構想」将来構想推進の方向性」を確認しています。

具体的には、キャンパス及び教育環境の整備、新教育組織の設置、既存学部の改編、グローバル教育の展開、財務構造を含む予算制度改革、附属中等学校のさらなる発展、ガバナンスなど管理運営体制の改革等を掲げています。この中でも、本学園が競争力のある教育機関となっていくためには、附属学校の一層の発展はもちろんのこと、大学において受験生及び保護者、高等学校、そして在学する学生にとって魅力のある「教育組織、教員組織及びキャンパス」を構築していくとともに、有為な人材を社会に輩出し続けることにより、確固たるポジションを築き、社会的な評価を高めていくことが何よりも重要となってきます。

創立100周年に向けて、本法人が有する経営資源を最大化し、グローバルな大学間競争を勝ち抜いていくためには、その基盤を成す財務構造の再構築が不可欠であり、事業活動収入については学費改訂（2016年度）、併せて、学園内部の自助努力・改善による増収及び支出抑制などにより、持続的な財源確保に努めて参ります。

以上のように、本法人はこれまで23万人にもおよぶ卒業生が築かれた90余年にわたる歴史、伝統をもとに、2028年の創立100周年に向けた大学経営、教育などのイノベーションを図りつつ、教育組織総合計画、教員組織総合計画、キャンパス総合計画の推進とガバナンス改革を実現していきます。（経営政策部）

# 活躍する卒業生

## Part 1

### インタビュー 企業で、世界で活躍するOB・OG



株式会社イサミヤールビー  
代表取締役社長  
潮 日出夫さん



株式会社イービーエム  
代表取締役会長  
吉野 徹さん



共立産業株式会社  
代表取締役社長  
杉野 榮一さん



テクノアルファ株式会社  
代表取締役社長  
青島 勉さん



イハラケミカル工業株式会社  
代表取締役専務執行役員  
早川 正人さん



セパック工業株式会社  
代表取締役社長  
木村 紀一さん



株式会社室伏製作所  
代表取締役  
室伏 進さん



株式会社マンジャーレ  
代表取締役社長  
奥山 政美さん



株式会社郷鉄工所  
代表取締役社長  
長瀬 隆雄さん



株式会社山口久乗  
代表取締役社長  
山口 敏雄さん



株式会社マツオHDC  
代表取締役社長  
松尾 孝さん



おやじ日本 山形  
代表世話人  
和田 英光さん



俳人  
若井 新一さん



剣白靖俊鍛刀所  
(相模国剣白靖俊)  
小野 潔さん



北信越ボクシング連盟  
理事長  
黒田 勲さん

## Part 2

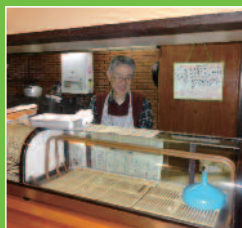
### インタビュー 行ってみよう! OB・OGの繁盛店



パプレストラン 浪漫亭  
脇屋 直紀さん



そば・麦切りの店 荘内藩  
小野寺 一夫さん



小料理屋 六輔  
向川 俊男さん



割烹ホテル 一ぶく  
向谷 進さん



# 株式会社イサミヤアールビー

## 代表取締役社長 潮 日出夫さん

Hideo Ushio

### ● 経歴

- 昭和32年1月生まれ 北海道旭川市出身
- 昭和54年3月 工学部建築学科卒業
- 昭和54年4月 (株)六書堂入社(札幌市の同業会社)
- 昭和56年7月 (有)イサミヤ看板店入社 (祖父が大正15年創業)
- 平成4年5月 (株)イサミヤアールビーへ社名変更 専務取締役就任
- 平成23年11月 代表取締役社長 現在に至る
- 平成5年 (社)旭川青年会議所 理事長
- 平成9年 (社)日本青年会議所 北海道地区会長



▲旭川市シンボルキャラクター「あさびー」(2016 旭川冬まつり会場)

### ● 平成24年

(協)北海道ネオン電気工業会 副会長  
(公社)全日本ネオン協会 理事

### ● 会社の紹介

岡山県出身の祖父が東京神田の看板店で修業後、大正15年に旭川で看板業を営むイサミヤ看板店を創業しました。

昭和26年に(有)イサミヤ看板店として法人化。平成4年にバブル経済を戒め本業にこだわりながらより良いモノをプロデュースしていく事を目指し、「本業回帰」(Return to Basic)をコンセプトに社名を(株)イサミヤアールビーに変更しました。屋外広告主全般・内部・外部サイン、各種展示、催事イベントの企画・設計・施工を行い今年でちょうど創業90周年を迎えます。

### ● 記憶に残る仕事

解体された地元の古い酒蔵の外壁に使われていた石材を再利用して、丘の上に建てられた菓子工房のサイン計画とプロデュースが北海道屋外広告物コンクールで最優秀賞にあたる北海道知事賞をいただきました。

屋外広告物は情報などを提供する重要な手段であると同時に景観との調和が求められます。北海道の大自然に佇む建物とサインの景観形成が評価をいただいたのだらうと思います。建築学科の学生時代に熱心に指導いただいた先生方のDNAによるものと感謝する今頃です。

### ● 組織を運営する上でのポイント

組織を進めるにあたり、トップダウンによる決定とボトムアップによる決定がスピード感を持ってなされ、二つが両輪となって組織運営されるのが大切です。そのために組織内のコミュニケーション力を高め、個々がスキルアップしていくことを求められています。

### ● かけがえない仲間との出会い

建築学科の仲間がアメリカンフットボール部に入部したことをきっかけに私も入部することになりお世話になりました。

アメフト部の成り立ちでは愛好会から同好会へ、そして体育会の部へ昇格した頃になります。それに伴い関東学生アメリカンフットボール連盟に加盟という黎明期のチームの成長と共に多くのことを学び、そして育てられました。

同期(4期)16名中フットボール経験者は無し。大半が地方出身者(自宅通学4名)で入部の動機やきっかけは様々でしたが、今では考えられないような練習環境でも当時ではそれが当たり前で、何の不満もなく練習に取り組んでいました。アメリカンフットボールを縁に集まった良き仲間恵まれ、時に厳しく、時に励まし、時に喜び、生涯この上ない財産を得たと思っています。

チーム名の由来、物質を構成する最小単位「原子(アトム)」の繋がりが無限に広がっていくように、同期というアトムの絆や先輩と言うアトムの絆など、アトムズを起点とする個と個の絆が更に繋がっていく事が『Atomic Bomb!!』のようなパワーを生み出し、神奈川大学アメリカンフットボール部アトムズを勝利に導くものと

### ● 確信しています。

### ● スキー指導者として

私のモットーは「生涯現役」です。仕事はもちろんです。健康においてもアスリートらしくいたいと思っています。

私は49才の時に、4度目のチャレンジでスキースキーの準指導員、ケガのため1浪して53才で指導員の検定に合格し、ホームグレンデのスキースクールで教師をしています。主にシーズンコース(毎週日曜10回コース)の級別テスト2級を目指す小学生を担当しています。が、おしよまな今どきの小学生にイジられながら楽しい時間を過ごしています。

ゴルフ・スキーどちらも生涯スポーツの代表的なものです。旭川の恵まれた環境の中、コンディショニングを整えながら、これからも長く付き合っていきたいと思っています。

人口36万人の都市機能と、30分圏内に8つのゴルフ場と、5つのスキー場、そして旭山動物園のある旭川。是非いらしてください。

### ● 後輩たちへ、現役学生へ

現代社会におけるインターネットやSNS等によるやり取りは便利なものですが。

しかしながら、その利便さや繋がりの中に何か疎かになっていることはないでしょうか? 神奈川大学の建学の精神「質実剛健」「積極進取」「中正堅実」にそのヒントがあるように思います。どんな時代環境においても強い人間力が求められていると思います。

未来の自分のために、やりたいことを思いっきりやれるのは「今」しかありません。かけがえない4年間が充実した有意義な時間になることを願います。(取材・文責/栗林)

# 株式会社エービーエム

代表取締役会長  
吉野 徹さん(米沢商工会議所会頭)

Toru Yoshino

## ●経歴

- 昭和24年6月生まれ  
山形県出身
- 昭和47年3月  
工学部電気工学科卒業
- 昭和49年  
横浜で2年間働いた後、米沢にUターンし、市役所に勤務
- 昭和56年  
父親が興した(株)エービーエムに入社
- 昭和62年  
(株)エービーエム代表取締役社長就任
- 平成21年  
(株)エービーエム代表取締役会長就任(現任)
- 平成25年  
米沢商工会議所会頭就任(現任)



## ●会社の紹介

昭和43年にビルメンテナンス業で創業後、業容を拡大し、警備・清掃・ビル総合管理等を行っています。昨年にはソーラー発電事業にも進出しました。従業員…260名

## ●吹奏楽部廃部の危機

私は、神大の吹奏楽部でチューバをやりたくて入学しました。昭和44年、私が大学2年生の時に吹奏楽部が解散の危機を迎えました。

吹奏楽部は当時も今と同じように有名で、全国大会では常に上位の成績でしたが、なかなか優勝できない。学生運動が激しく部活動もままならない。練習する場所がない。さらに部員が不祥事を起こした、というガタガタの状況になりました。学校からは、金銭的な援助はできない、解散も視野に入れて考えろと言われてしまいました。吹奏楽を愛し、部活動を続けたい部員が沢山いましたので、お金はいらないが楽器だけは残してほしい、と大学関係者に間に入ってほしい、何とか形だけは残してもらいました。名前だけの部員はすべてやめてもらい、本当に続けたい人だけを残して細々と練習を再開しました。私が部長で3年生の時の全国大会は、30名程度でステージに登り、びっくりするぐらい酷いバンドでし

た。どうしてもやりたい人ばかりが集まり必死で演奏した結果、どうにか部だけは存続しました。そして今に繋がっています。その当時の連中とは今でも集まり、当時の苦勞を思い出しては杯を重ねています。

## ●横浜で働いた貴重な体験

大学を卒業して2年間、横浜で東芝の下請け会社で生産管理の仕事をしていました。職場には、百数十名の女性が働いており、いかに生産性を上げるかで苦労しました。一方の話は聞くと反対側から反発が来る、こちらの話を聞くとまた反発がという繰り返して、普段から平等を意識した行動をとらないと、周りは私が平等にやっているとは感じてくれませんし、全員をまとめられることもできません。この体験は今でも生きており、260名の従業員に、会長は平等に我々を扱っていると感じてもらえるよう常に意識して話し、行動しています。人の使い方一つで生産性が大きく変わってきますので、皆に気持ちよく働いてもらえるよう職場作りには注意しています。

## ●思い通りの仕事には就けません

今の高校生は、進みたい方向が分からなくてどこの学部を受けたら良いか迷っている。就職しても自分の思った方向と違うのですぐやめてしまうということを聞きますが、私も含めて大部分の人は、まったく思ってもいない仕事に就いています。自分も横浜で働いているときに父親が体調をくずし、米沢に帰らなければいけなくなった時、米沢では電気関係の仕事がないため市

役所の、それも一般行政職の試験を受けて父親の会社に入るまでの7年間、米沢市役所に勤めていました。自分の経験から、「思ったような仕事をしていない人はほとんどいない。今自分と与えられた仕事をその場その場でともかく一杯やること。それで次が開ける。人生なんてどうなるか分からない」と、社員には話しています。

## ●感謝を恩返しに変えて

人生は捨てたものではないと思いません。窮地に陥った時いろんな人の手助けがあり、これまでやってこれました。一生懸命やっているといろいろな人が案外見てくれており、別に言わなくても顔色や行動で困っているのが分かるようです。本当にたくさんの人に助けて支えていただきました。

商工会議所の役員のお話をいただいた時、ここまで育ててくれた地域に恩返しをしなければいけない、と思って引き受けました。たまたま父親も神大の卒業生ですので、2代続けて神大に世話になった訳です。父親もその恩返しに神大山形県支部の立上げや支部長を長年やったのではないかと思いません。山形県は卒業生も多く、大学の名簿だけでは実家の住所は分かっても郷里に戻ってきているかが分かりません。私は機会あるごとに神大の卒業生であることを言っていますので、周りからお前の同窓生がいるぞ、と教えてもらっています。神大卒だと言いつつ、会員を増やす良い方法なのかもしれない。

(取材・文責/内藤)



## 共立産業株式会社

代表取締役社長

杉野 榮一さん

Eiichi Sugino

## ●経歴

- 昭和18年7月生まれ
- 東京都出身
- 昭和41年3月
- 工学部応用化学科卒業
- 昭和41年4月
- 大手企業 開発技術部入社
- 開発技術部長、工場長、アメリカのバージニア州赴任
- 平成10年6月
- 共立産業株式会社入社
- 代表取締役社長就任（現在に至る）

## ●共立産業株式会社の紹介

昭和42年設立。所在地は埼玉県さいたま市。様々な薬品・溶剤に対して最高の耐性を示すF X材をはじめとするフッ素ゴムを中心に、汎用性のあるクロプレノゴム・シリコンゴムなど、お客様のニーズに応じて医療用・半導体製造用・自動車用・工業機械用・レジャー用など、多種多様な形状・性・



大ききの工業用ゴム製品・シール製品などを製造・販売している。フッ素樹脂（RTFE）製オイルシールの欠点を解決。優れたシール性を実現。

## ●学生時代の思い出

入学して直ぐに山岳部の門をたたきました。すると部長曰く「応用化学はダメ」と開口一番の言葉でした。理系は実験やレポートで部活動に出れないと思われたのだろう。しかたなく大学生活をどう送ろうかと考え、相も変わらず山登りをはじめ勉強以外のことへの関心が多く、2年次までは好奇心の学園生活でした。3年次になると科目が専門化し、授業を真剣に受講していく中で面白さが出て真剣に勉強する生活となりました。もともと文学には興味はあり色々な小説を読むようになったのもこの頃だったと思います。

興味あるものには何でもチャレンジした学生時代のおかげで、スキーは子供と一緒にモーグル、山は時々北、南も、ダイビングは年40本、剣道、ゴルフ、読書、ギター、英会話、経営、何だろうと思われるくらいに何でもやりました。今思えば、大学の建学の精神「質実剛健」「積極進取」「中正堅実」の神大は世界に開かれた地の利、「ハイクラ」が当たり前かなと思う。就職して米国勤務時に違和感なく生活できたのは好奇心旺盛で何でもチャレンジジ

してきたフットワークのおかげだと思います。

## ●組織を運営すること

社員には「私以上に仕事以外に興味を持って」とよく言います。何故かと言うと、良い仕事、社会を生き抜く原動力は「丈夫な体」と「創造性」で大きく目を開いている見ることです。

入社する社員の人生を預かると言うことは、覚悟と責任をもつと言うことです。そのためには社員教育は重要です。私は広い分野で教育させるために企画室に配属も積極的に取り入れました。視野が広がれば発想力が生まれ、好奇心や探求心も生まれるからです。化学を専攻した私は材料力学を勉強

強し、また経営も学びました。一方向だけでなくあらゆる分野を習得していききました。借金もなく海外進出し売り上げが伸び人員増が続けられているのは、開発技術を大切にしていること、そして何より優秀な人材が神大にあり神大生の採用が上手くいっているからだと思えます。

## ●人生のきっかけ

小さい時から英語は好きでした。神奈川大学に入学し、貿易学科の学生が学園祭で外国人を相手に通訳しキャンパスを案内している姿を見て羨ましかったです。その光景が忘れられず理系に進んだ私はNHKのラジオ講座を聞いて更に英語を勉強しました。また文学を読み漁ったのもこの時期です。文学は情豊かで人生の考え方を示してくれます。夏目漱石を含め多くの小説を読んでみると「答えはない」と言う事に辿り着きます。

私の性格だと思いますが、負けてたまるか精神の負けん気が強かったせいか、常に東大に負けてたまるか、神大がなめられてたまるか、神大の仲間が優秀だ、大学のためにどうにかしたいと考えていました。そんな中、3年次の専門科目での猛勉強と英語に対する思いが実を結び、一部上場企業に就職し、その後開発技術職としてアメリカ・バージニア州に赴任しました。アメリカでの生活は決して楽しいものではありません。語学には自信があったものの当時は日本人がおらず、日系企業をレンタカーで一人商品を車に積んで営業して回りました。海外で仕事をするとすることは大きな一歩でした。

## ●先輩たちへのメッセージ

仕事や好きなことをするならば他のことをそれ以上にやりなさい。行き詰ると閉塞感が出るものです。そんな時こそ趣味に一生懸命取り組めばいいです。壁にぶち当たった時、誰も教えてくれないので自分で考え自分で行動するために発想力が必要です。

「人生と言う荒海を航海するのに必要なコンパスは文学書を生涯読み続けること」かも知れません。人生の道しるべとして、答えが書いてない事が文学に書いてあると理解し読み解くと面白いと思えます。

若者よ、右脳を働かせ、そして豪傑であれ！  
（取材・文責／栗林）

# テクノアルファ株式会社

代表取締役社長 青島 勉さん

Tsutomu Aoshima

## ●経歴

・昭和32年5月生まれ  
静岡県磐田市出身

## ●昭和51年

経済学部貿易学科入学

## ●昭和55年4月

英国Dodwell & Co., Ltd.入社

## ●平成元年12月

テクノアルファ(株)設立と同時に入社

## ●平成24年

テクノアルファ(株)

## ●代表取締役就任(現任)

## ●会社の紹介

事業内容…半導体製造装置、その関連製品および電子材料を扱う商社として創業。現在はエレクトロニクス関連装置に付加する搬送装置の設計・製造等も行い、メーカー機能をもった技術専門商社。東京証券取引所JASDAQに上場。関連会社2社。従業員76名、売



上高26億100万円(H27年11月期連結実績)

## ●学生生活の思い出

商業高校を出た後、就職するつもりでしたが、先生の勧めもあって急ぎよ大学を受験し、幸い神大に合格しました。実家は農業を営んでおり、経済的な余裕がありませんので、新聞奨学生として寮に住み込み、毎朝4時に起きて朝刊を配り、下校後は夕刊を配る、その合間に広告の折込を準備するという毎日でした。3年生からは石田貞夫ゼミに入り、そのゼミの先輩の紹介で、戸部にある病院で住み込みのアルバイトを始めました。食堂を利用できたので食費もかからず、経済的にはずいぶん楽になりました。

## ●専門商社へ就職

病院のアルバイト仲間の誘いで入社試験を受けたのが、英国のドッドウエルという商社でした。幸い合格し、配属されたのは、虎の門の産業機材事業部でした。入社当初に出席した外国人との英語のミーティングでは、話している内容がさっぱり分かりませんし、工学部の出身ではありませんので機材のことは分からない。勤まるのか不安で一杯でした。一応先輩が教育係として付きましたが、仕事は教えてくれず

資料も渡さない。ただ指示を出したことをやるだけです。最初の半年間は仕事がないことが苦痛でした。

この頃会社では、英国からバネを作る機械を測定する装置の販売をしていました。この測定装置の仕組みに興味を持って勉強するうちに、営業の面白さが分かってきて、結局日本で一番その測定装置を売ったと思います。

## ●会社を移る

32歳の時にドッドウエルの上司から、会社を設立するので一緒にやらないかと誘われました。周囲からは猛烈に反対されましたが、以前私が担当していた製品も含めた商材の営業もできることになりましたので、思い切って退社を決断しました。商材の中に、ほとんど売れていない米国製の半導体製造装置があり、私に任されることになりました。英文のマニュアルを読むことになりました。英文のマニュアルを読むと

大変興味深く面白い装置で、1週間張り付いて動作や取扱いを徹底的に理解しました。米国の会社の営業担当者と一緒に回り始めるために日本語に訳した資料や500頁の日本語マニュアル、ビデオカメラを購入してもらい操作ビデオを作成したりと、お客様が興味を示す工夫をして営業しているうちに、営業成績も上がり、アメリカの会社から努力賞、さらにはトップ賞を5年続けてもらうようになりました。

## ●指導方法

私は、人を評価するのが苦手です。で、良いところを褒めるようにしています。人はそれぞれ性格も能力も違う

ので、向いている能力があればそれを伸ばして、苦手なことは向いている人に任せるという考え方です。社長になって5年目になりますが、人をどう育てるか、製品開発より大事なことです。アドバイスはしますが、手とり足とり教えるより、きっかけを与えることを考えます。伸びるかどうかは、その人次第です。任せるところは任せ、社長と従業員の関係もフラットにしています。また、社員には、会社はいつどうなるか分からないので、今与えられた仕事、例えば輸入品の営業の人は、売ることだけ考えるのではなく、売っている商品に関することや輸入の仕組み等々関連するすべてのことを勉強し、理解しておけば会社が仮にダメになっても潰しがきくと言っています。

## ●後輩へのメッセージ

企業人にとって一番大事なことは、お客様との信頼関係です。そのためには、無欲であることです。海外メーカーの製品の営業では、費用をこちらが負担してでも一緒に工場まで出向いて行って、お客様の立場でアドバイスすることで信頼を得ました。信頼していただくとお客様が口コミで宣伝してくださり、話が自ずと飛び込んでくるようになるものです。

私は、劣等感の塊でしたから、地道に勉強してきました。無欲でやっていたら周囲が変わってきました。鏡に映る姿ばかりを気にしないで、自分自身を磨くことが大事だと思います。

(取材・文責/内藤・越智)



## イハラケミカル工業株式会社

代表取締役専務執行役員

早川 正人さん

Masato Hayakawa

## ●経歴

・昭和27年8月生まれ

北海道新冠町出身

・昭和51年

工学部応用化学科を卒業後、大学院工学研究科に入学、異常アミノ酸を研究

・昭和53年

イハラケミカル工業(株)入社

・平成21年

取締役営業本部長就任

・平成27年

代表取締役専務就任(現任)

## ●イハラケミカル工業(株)の紹介

事業内容…農薬・化成品の製造、販売、東京証券取引所市場一部に上場、子会社4社、関連会社等9社、従業員数639名、売上高411億円、純利益41億円(平成27年度連結決算実績)



## ●厳しい境遇での幼少期

私は、北海道開拓農家の二男坊として北海道新冠町(苫小牧から襟裳岬に行く途中で日高地方の中央、真冬でも雪が少ないので北海道の湘南と私は言っています)で生まれ、テレビドラマの「北の国から」と同じような境遇で幼少期を過ごしました。小中学校は複式学級といつて1・2年生、3・4年生、5・6年生の3クラスで、各クラスに先生は1人、先生が片方の学年を教えている間は自習していましたが、暇なので上の学年の授業を聞いていました。入学当初、生徒は学年で20名以上いましたが、生活が厳しく離農する家族が出てだんだん少なくなり、中学卒業時には半分以下の12名になっていました。高校は町内にはないので隣の静内高校に入学し、通えないので寮生活をしました。貧乏学生でしたので、とても大学に入れるような境遇ではありませんでしたが、神大の学費が安かったためにどうにか入学できました。大学4年間は、学費と生活費をアルバイトで稼ぎ、大学院では奨学金を借りて凌ぐことができました。今は貧富の差で学歴に差が付く時代だと言われ問題になっていますが、学習意欲さえあればどうにかやれるのではないかと確

信しています。学生支援制度も充実しており、借金してでも勉強したいと思えば行ける時代です。良い社会になったと思います。

## ●海外赴任時の体験とアドバイス

私は、学生の時から英語が苦手でした。36歳のとき「お前しかいないのでアメリカへ行け」と言われ、語学に不安を覚えながらサンフランシスコを皮切りに、ニューヨーク、間を置いてロンドンと通算7年半海外で仕事をしました。駐在員はほぼ1名という職場環境で英語が不自由でも会社の代表者として外国人と商談するという機会が頻繁にありましたので、かなりプレッシャーを感じて過ごしました。今でも英語はうまく喋れませんが、赴任中にどうにかやれたのは、『相手に理解してもらおうという熱意』と『気力』があったからだと思います。熱意があれば単語を並べるだけでも通じるということとを身を持って体験してきましたので、部下には「私でさえやれたのだから、君だってやれるよ」と励まし、海外に赴任する動機付けをしています。

ます。

語学以外にもう一つ、駐在して強く実感したことは、現地の人達と良好な人間関係を早く築くことです。アメリカは自由で合理的で、差別がない訳ではありませんが入りやすい。ヨーロッパは、歴史があるので日本と同じように保守的です。以前からの人間関係を大切にしますが、良い関係になれば受け入れてくれます。このように価値観が違いますので、対応の仕方もおのずと違ってくる訳ですが、どちらも基本は人間関係です。

## ●後輩へのメッセージ

若い卒業生には「何事も前向きに考えること」をアドバイスします。会社というのは、自分の好きな仕事をやれるとは限りませんし、上司も選べない、転勤させられる場合もある。それらをすべて前向きに捉えることです。違った仕事ができると思えば意欲が湧くし、違った場所に住めると思えば新しい発見がある。どうせやるなら前向きに楽しくやれば、必ず成長すると考えています。

また、学生の諸君には、学生時代に海外旅行でもアルバイトでも何でも経験することが大切だと思います。私も新卒の採用に立ち会っていますが、大学4年間に色々な経験を積んだ人の方が、打たれ強い職場に順応しやすく、また、心の病になる人が少ないように思います。

(取材・文責/内藤)

# セパック工業株式会社

代表取締役社長

## 木村 紀一さん

Kiichi Kimura

昭和15年3月生まれ  
北海道函館市出身

昭和35年

工学部応用化学科入学

昭和39年4月

日本バルカー工業(株)入社

平成10年4月

セパック工業(株)入社

平成17年4月

セパック工業(株)代表取締役社長就任

●会社の紹介

事業内容…産業装置・機器に使用されるシール製品並びに各種工業用シール関連製品の製造・販売。従業員66名、年商30億円(平成27年2月末)

●学生時代の思い出

北海道の普通科高校に入学したんで



一さん

すが、野球がやりたかったので、2年の時函館工業高校に入り直したんです。しかし、翌年の春までしか野球はできないと言われ、結局野球部には入りませんでした。当時の工業高校は、高度成長時代で人気があつて、ほとんどの卒業生が大手企業に就職しました。大学進学者は学年で10人程度でした。私は薬剤師になりたかったので、薬科大学を受けました。合格したものの、学費が高いので迷っている時、神奈川大学工学部で二次募集をしていると知らされました。幸い合格、三分の一の学費だったことから入学することにしました。応用化学科の学生は地方出身者が多く、田舎から送られてくる食料を融通し合ったりしていました。有機化学の富岡先生のゼミに入り、一貫して指導を受けることができたのは幸いでした。

母校の元担任の先生が、毎年東京に高校生達を連れて、就職活動のための企業回りをしていました。私はその案内役をつとめていたんですが、日本バルカー工業(株)から誘いを受けて入社することになりました。

●工業用シールメーカーの営業部門へ  
日本バルカー工業(株)は合成ゴム、プラスチックや金属、ファイバー等の

様々な素材で作られたシール製品を扱っていました。日本語では「密封装置」と書きます。主に機械製品やプラントで使われます。その総合メーカーとしてはトップクラスでした。はじめ厚木の研究所に配属されましたが、これからは技術が分かる人間こそ営業をやるべきだと考えていました。上司に直談判をして、1年後に本社の営業部に転属させてもらいました。当時、関東と関西にそれぞれ拠点があつて、今ほど人事交流がありませんでした。そこで、私は大阪に移りました。その後は、西日本の各地を営業で回り、気が付くと20年が経っていました。その後東京に戻り、会社は東アジアへ進出するため、セールスエンジニアとして韓国を中心に釜山やソウルに4年ほど通いました。さらに九州支店長、東京支店長をつとめ、結果的には、随分広い範囲を営業して回ったことになりました

●ある会社を任される  
ある時、古くからの知り合いだった、セパック工業(株)の前社長に、「会社を立て直してほしい」と頼まれ、平成10年に移ることにしました。当初は、10年間で利益を倍にすることを目標にしていたんですが、結果は倍以上になりました。平成16年に中国現地法人、セパック(上海)貿易公司を立ち上げて中国に進出しました。現地工場は建てる、拠点を上海に絞って、中国沿岸部を営業開発しました。はじめは製品を持って行って売りましたが、今では逆に中国の製品を日本に持ってきて売

ることも多くなりました。黒字化して、軌道に乗るまでには5年かかりました。

●モットーとしていること

やはり営業においては対人関係がすべて。会社にとって、優秀な営業マンは財産です。セパック工業では地域密着型の営業体制を意識して、若い現地の人を採用しました。その人たちの地元ネットワークが生かされるからです。また、社員教育は、甘えが入らないように、人材コンサルタント会社に6年間任せましたが、その際、途中で先生を変えないでくださいとお願いしました。これは自分が体験した大学のゼミでの経験から学んだんですが、数年間師弟の関係を築くことで、先生の人格から多くを学んでほしいからです。セパック工業のシール製品は様々なものがあり、自社で開発した超精密部品もあります。自動車の部品のよう大量販売の営業もありますが、我々は多品種少量販売でも他の会社が真似できない製品を扱っていききたい。自信のある製品を、営業マンがface to faceで売る、これが大事です。また、現在では環境や品質マネジメントへの配慮も重要です。

「他人はすべて恩師なり」(我以外皆我師)を座右の銘にしました。吉川英治の言葉です。若い人にも紹介しています。常に笑顔で接していれば、自ずと道は開けるのではないのでしょうか。

(取材・文責/越智)



## 株式会社室伏製作所

代表取締役  
室伏 進さん

Susumu Murofushi

●昭和23年2月生まれ

神奈川県横浜市出身

●昭和45年3月

工学部工業経営学科卒業

●昭和45年4月

エヌエスケートリントン株式会社入

社

●昭和47年4月

株式会社室伏製作所入社

●平成元年12月

株式会社室伏製作所代表取締役就任

## ●会社の紹介

事業内容…各種ベアリング部品、特にベアリングの「保持器」の製造・組立。資本金3千万円、従業員…社員40名、その他15名

## ●学生生活の思い出

私は、昭和41年に神奈川大学工学部工業経営学科に入学しました。実家が工場を営んでいたため、工業経営を



学びたいと思い、横浜市中小企業指導センターに相談したところ、神奈川県川大学工学部工業経営学科（現在は経営工学科）を紹介されました。近くにえに、学費が安いのも魅力でした。ゼミは神山先生という生産設計が専門の先生で、民間から入った方でした。学生運動が盛んな頃でした。産学共同路線反対等のスローガンのもと、横浜国大と共闘を組んだりしていた時代です。昭和46年には、内ゲバによる死亡事件が大学内であったのを覚えています。今はない5号館の5階に、工業経営学科の教室がありました。当時スキーがブームだった時代で、スキー同好会に所属しました。インカレに出るために苦労して部に昇格させてもらいました。八方尾根の周辺でスキーに励み、合宿が終わると現地に留まってアルバイトをするという生活でした。

工業経営というのは、生産管理と品質管理の学問です。物がある日程の中で如何に作るか、そのための管理理論を学んでいました。オペレーションズリサーチ（OR）という技法があり、製造の現場で、この技法は重要な意味を持つていました。

## ●先代から工場を継ぐ

大学を卒業すると、エヌエスケートリントン(株)に入社しました。2年間

の勤務でベアリングの基礎を学び、昭和47年に父親の始めた当社に入りました。

出身は横浜金沢八景です。元々父親が始めた工場がそこにありました。福浦の現在の工場に移転したのは昭和57年で、当時この一帯は何もありませんでした。中小企業事業団の事業で、20社が誘致されて組合を組織していました。

私は5人兄弟で男は私だけです。自分が継ぐ他ありません。先代は御殿場の出身で、若い時に海軍工廠に入り、連装機銃を作っていました。戦後にベアリングの保持器を作る会社を始め、それが現在に繋がります。

現在、当社のベアリング保持器は、青森・秋田・北陸・北海道新幹線に使われています。当社で作った保持器はベアリング会社に納められ、ベアリング会社はさらに車両用モーターを製作している5社にユニットとして納められます。また車軸のベアリング保持器は、ベアリングメーカーを経由して、JRの純正部品になります。

## ●覚悟を決めて会社を立て直す

私が入社したころ、当社の製品を納めていたのは1社だけでした。現在では主要なベアリングメーカー全社と取引があります。当社は鉄道車両・風力発電や高速エレベーターのベアリング保持器がメインです。保持器はベアリングのそれぞれのボールやローラーが、中心からそれぞれに回転するように「保持」するための部品です。昭和58年第一次オイルショックの時、大きな

試験に直面することになりました。売り上げが一気に半分になりました。覚悟を決めて、これまでのやり方を見直した時、見えてきたのは、あまりにも狭い世界でやってきたことへの反省でした。全てのベアリングに対応できる力を付ければ、業界の不況にも対応できると思いました。その後、ベアリングの保持器に関しては、あらゆるベアリングに、対応する力を20年かけて築きました。

今は日本だけでやっていける時代でもありません。少しでもグローバル化を図る必要があります。当社も11年前から韓国に関連会社を作りました。ミニグローバルと言っています。モノづくりは、一朝一夕にできるわけではありません。じっくり時間をかけて進んでいくしかありません。当社は専門性の高い製品を作っています。当社の強みは「少量受注」です。中小企業はこれが大事だと思います。商品寿命が長いベアリングという製品に目を付けた先代には感謝しています。

## ●モットーにしていること

気概のない労働に日々を費やさないということを信条にしています。スキー部を通して現在の神奈川大学の学生ともつながりを保っています。自宅の家の設計は、建築学科を卒業して、今は建築事務所を立ち上げているスキー部の先輩が引き受けてくれました。今の学生達には、もう少し気概を持ってもらいたいと思います。目的をどこでどのようにつかむかです。目的次第で人は変わります。（取材・文責／越智）

# 株式会社マンジャーレ

## 代表取締役社長 奥山 政美さん

Masami Okuyama

### ●経歴

- 藤沢市在住(52歳)
- 神奈川県立藤沢西高校卒
- 昭和62年
- 工学部応用化学科卒業
- 同年(株)パスト入社
- 平成10年

### ●(株)マンジャーレを設立

- (株)マンジャーレの紹介
- 資本金 1千万円
- 年商 5億円
- 従業員 100名

湘南藤沢地域で9店舗の飲食店を経営する奥山さん。応用化学卒で畑違いの飲食業について理由は、在学中にあらゆる業態のアルバイトをしたことがありました。時は、まさにバブル期、就職先は引手あまたのなか、指導教授は、なぜだ、と困惑していたといいます。

そして、(株)パストに入社。動機はカルボナーラがとてもうまくて、自



分もおいしいものを作りたい、という思いが強くなり料理の道へ。

当初は、厨房で2年、その後は経営管理をまかされ仕事は順調でしたが、以前から、独立の夢を持っていたので区切りの勤続10年で退社を決意。こつこつと働いて、貯金は1千万円になりました。それを元手に、平成10年にイタリアンレストラン「マンジャーレ」を藤沢駅近くに開店し、その後、焼き鳥、魚料理、和食、そば等異なる店舗を開店してきました。

単一同種の飲食業は、スケールメリットにより当たれば利幅は大きいですが、それを維持するのは大変です。過去に飲食業の浮沈を見てきただけに、バランスのよい店舗の設置を心掛け、その結果、開業以来黒字を続けています。

### ●「お客様に必要とされる人、

#### 必要とされる店」が経営理念

従業員には、「自分がお客様ならどうしてほしかを考えて仕事をして下さい」と言っています。

お客様の笑顔、スタッフの笑顔が見える店を行動指針としています。例えば、店長に裁量権を与えることで店長の個性に応じた店作り、例えば日本酒に精通した店長にはお酒の銘柄を任す。料理が上手な店長にはオリジナル

メニュー作りを任せるなど、それぞれの個性を尊重しています。

最近の飲食業界は、マスコミ等で長時間労働、低賃金などの負のイメージがありますので、賃金は同業他社より少し高く設定しています。

私からは、常々、営業終了後すぐに帰ること、休暇は必ず取るように指導しています。不思議なことにそれらが守られなかったときは、売り上げは伸びず、約束事を守れば伸びる、というデータが出ています。やはり、元気な姿、笑顔がお客様を引き付けるのかもしれない。

### ●大学では同好会を主宰

高校では硬式野球部だったので、大学ではテニスを中心にした同好会「メッセージ」を主宰し、何事も一所懸命を合言葉に学生生活をエンジョイしました。今もその時の一所懸命の財産があるから頑張れているのかと思います。私は、湘南藤沢に住んでいることが誇りです。たまに東京に出かけますが、藤沢に戻ると空気の違いを感じ「ほっ」とします。このようなことから今後の店舗拡大についても、東京には出店せず、現在のエリアの中で、目配りできる範囲で、焦らずに少しずつ店舗の拡大が出来れば、と考えています。

### ●神大生来たれ

今も母校に関心があり、特に大学野球や箱根駅伝での活躍が気になります。送られてくる宮陵会報は、仕事柄、お店紹介欄はきっちり見えています。現

役学生へのメッセージとしては、飲食業に興味のある人、やる気があって将来独立したい人は大歓迎です。神大卒は社員のなかで私を含め3人いますが、文科系ではなく、工学部卒です。学部は問いません。ぜひ一度お店に来て下さい。

### ●店からのサービス

お店に来たら店長に神大と言ってください。何かしらのサービスをします。9店舗の内6店舗はJR藤沢駅南口近くに、2店舗は大船駅近くにあり、この春、茅ヶ崎にも1店舗開店しました。

平均単価は、2,500円

◆やきとん・みつちゃん(藤沢)

電話 04666501588

◆焼き鳥・ホームラン(藤沢)

電話 04666548884

◆そば酒房・くげ庵(大船)

電話 0467334522

◆やきとり・2ランホームラン(大船)

電話 0467813455

### 「編集後記」

開店前の午後3時に「ホームラン」で奥山さんに話を伺いました。携帯電話で各店からの報告を聞きながらテキパキと指示を出していました。店長とのスタッフ会議は、週1回で和気あいあいと行っているようです。コミュニケーションを大事にすることで経営が成り立つのはまさに「奥山マジック」。経営者としてまだまだ若い奥山さん。これから一層のご活躍を祈念します。

(取材・文責/間中)



## 株式会社郷鉄工所

代表取締役社長

長瀬 隆雄さん

Takao Nagase

## ●経歴

- ・昭和26年3月 岐阜県に生まれる
- ・昭和48年3月 工学部機械工学科卒業
- ・平成25年7月 株式会社郷鉄工所代表取締役社長 (至現任)

## ●会社のご紹介をお願いします

我が社は設立以来、破砕機や撰別機を中心とした碎石プラントや各種クレーン、その他産業機械の開発・製造・販売をはじめとし、環境関連や宅地建物などを含めた多角的な企業活動を行っております。設立以来培ってきた高度な技術力をベースに、斬新な発想と全国に広がる販売拠点、そして人材の力を最大限に活用しつつ、従来の概念にとられない多様な業務を展開し、更なる発展を目指しております。



## ●会社の、また社長のモットーは

社員には、「プライドだけは持て」と言っています。私自身は、大学を卒業した年が第一次オイルショックの年で、就職は大変厳しい時期でした。本社が岐阜県で、2年間居り、東京に転勤となりました。当然、機械の設計をやりたかったのですが、3年ぐらい営業を経験した方がいいものがつくれると言われ、結局は23年間ということになりました。わが社と競合するのは、川崎重工や神戸製鋼といった大企業ブランド力ではどうしてもかかないませんで、「自分自身を売り込む」ことを営業活動のモットーとすることにしました。まずは私の名前を覚えてもらう。「ところで君の会社は郷鉄工だったっけ」というように。他社の営業と比較して、あの人物から買ってやろうと思われるように。営業で後に残るのは人材ですから。それを、身を以て体験しました。他人とは違う事、他人にできない、他人の嫌がる事に取ってチャレンジしてきました。

## ●企画営業というものがありませんが

設計担当者とコラボして何かを創るということにも挑戦し、特許を取りました。ある大きな仕事で、大手をキャンセルして逆転して獲得したことがあ

りまして、「良い機械があるというのは強いですね」と言ってもらいました。その醍醐味というのは忘れられませんが、他人のやらないことを達成した時の評価・満足度というのは、それは大きなものです。特許については、製造部門の者よりも多いかもしれません。夜討ち朝駆けという言葉があります。そんなふうになりました。わが社は、全体的にチャレンジの気風があるのですが、その中でも私は昔から異端児でした。会社の組織を無視してでも、お客様と一緒に大きな仕事を取って、会社の方を動かしたということもありました。営業において、全ては競争なのです。大きな開発に関わる仕事だと大手に負けて終わるのが普通ですが、そんなことはとんでもない。自社に無い機械が必要であればライバル会社の製品も売りました。良い機械は補充しあうということですね。また、大手は、相手が中小企業だと機械を売らないというようなこともあるので、私が間に入って他社の機械を売るといような事例もありました。なので、ライバル会社にも友人が多数います。

## ●そのような下地というのは

簡単なことです。弱小メーカーに居たこと、入った時が第一次オイルショックで、どん底の状態からスタートしたこと。出る杭は打たれると言いますが、あえて喧嘩はせず、無視することになっています。そのような人生観を持つようになったのは、大学1年の

とき。ある本に出会ったことで大きく転換しました。『乃木と東郷』（戸川幸夫著 読売新聞社昭和42年）『西郷と大久保』（海音寺潮五郎著 新潮社昭和42年）に感動しまして。司馬遼太郎の『坂の上の雲』（全6巻文芸春秋昭和44年〜昭和47年）は発売日が近くと書店に通い店頭で並ぶや否や買って帰り、下宿にこもって読みふけていました。他には阿川弘之作品も。大学生の私には難しい言葉も結構あったので、辞書を引き、文章を味わいながらじっくりと読んだものです。司馬遼太郎作品は6割以上読んでいます。登場人物の公平無私な生き方、人々の生かし方に感銘をうけまして、自分も早く卒業して、自分の力を試したいと思いました。

## ●どんな学生でしたか

研究室は流体力学が専門でしたが、大学の勉強よりも読書でした。卒研の時は、五人のグループだったので、友人たちにご飯を奢って協力してもらいました。

## ●学生へのメッセージをお願いします

私は「事において後悔せず」、そこまで努力し尽くすことを旨としてきました。学生の皆さんには司馬遼太郎の『世に棲む日々』にある「生とは天の我れを勞するなり。死とは天の乃ち我れを安んずるなり」という言葉を送りたいと思います。最近自殺のニュースなどありますけれど、苦勞は生きていく証拠なのです。

(取材／内藤・堀江 文責／堀江)

# 株式会社山口久乗

代表取締役社長

山口

敏雄さん (旧姓 松井)

Toshio Yamaguchi

## ●経歴

- 昭和19年4月生まれ
- 富山県高岡市出身
- 昭和42年3月
- 経済学部経済学科卒業
- 昭和42年4月
- 野村證券入社
- 昭和45年
- 株式会社山口久乗入社
- 平成6年
- 代表取締役社長 (現在に至る)

## ●会社の紹介

### 「おりん」の音風景

明治四十年、富山県高岡市で創業。以来一〇〇年を超えて高岡の伝統工芸である銅器の仏具を中心に企画・制作



から卸売までを営んでいます。近年は特に仏具の「おりん」に力を入れていきます。「おりん」とはお仏壇の前に置かれ、朝夕の仏さまへのご挨拶として「チーン」と鳴らすあ

の仏具です。この音の奥深さに気づき魅了され、仏さま用としてだけでなく、音を楽しむ楽器をはじめ、くらしの道具まで、日々の生活を気持ち豊かにする「おりん」の商品を生みだし、音と共にある上質な暮らしを提案しています。

## ●学生時代の思い出

大学では会計学の中村忠ゼミ。そして会計学研究部に所属し、恩師と仲間と他大学との発表会を通じ会計学や証券論を学びました。「かながわ論叢」の懸賞論文に応募したりして、そこで賞金を頂いたことがとても嬉しい思い出です。

大学に行くとき最初に3号館の掲示板を見ます。教室と図書館と会計学研究部の部室が主な行き先でした。会計学研究部の関東学生連合会で中央大・明治大・専修大等と一緒に研究発表会を開いておりました。

部活とゼミに軸を置き、「銀行よサヨウナラ、証券よコンニチハ」の日本経済の時代背景があったこともあり、就職は野村證券を目指しました。お陰さまで三年生の終わりに内定を頂きました。

野村證券の採用試験はまずは書類選考、その次は面接官10人程と学生10人程のブレインストーミング。そこで選ばれた者が役員の個別面接を受け又選別される。幸いにも難関を突破できま

した。横浜港で荷役のバイトもしたし、国内旅行にはよく出かけたし、勉強も程々にしたし…などなど充実した学生生活であったと思います。

## ●「おりん」の音色に魅せられて

野村証券では希望に燃えて日々仕事に奮闘していました。わずか三年、故郷高岡から地場産業の仕事の継承話が来て、成りゆくままに婿養子となりました。

高岡市は銅器を中心とした铸物の町として知られています。縁あって故郷の地場産業に携わっている間に「おりん」の音に魅せられてゆきました。

「おりん」の音は不思議です。祈りのための至上の音でありながらどこことなくあたたかく何かに護られているような感覚を与えてくれます。邪気を払い、場を清めると言われる「おりん」の響きは人の心を整えます。

平成四年に「おりん」の音を音階につくり「久乗編鐘」という楽器が出来ました。これで奏でるメロディがJR高岡駅や北陸新幹線新高岡駅の発車メロディとなっています。他に小学校の学

校チャイムとしても使われています。「おりん」のことはメディアにも数多く取り上げていただき、少しずつ世間一般に広がっています。音のあるインターネット・楽器・オブジェとして「おりん」の新しい市場を今もつくり続けています。故郷を想い、仏具の将来を考えたあの日を振り返ると、神奈川大学があり、部活があり、ゼミで学び、野村証券の社会人経験などすべてが積み重なって自分があると思います。感謝です。

## ●これからの夢

「おりん」の音は無色透明です。同じ形をしていてもさまざま音があります。磨き上げられた「おりん」の音は常に純粋で人それぞれ異なる音色を響かせます。言葉では表現できない想いに気づいたとき、どこまでも限りなく深く、深く、染み渡るように広がる——それが久乗「おりん」の音です。音をデザインすることは無限ですね。生涯現役で頑張ります。「おりん」の音色は人をも呼び寄せます。このお仕事をしていると思わぬ人との出会いもあります。たとえば瀬戸内寂聴さん、さだまさしさん…「おりん」を通して繋がりを持たせて頂いております。政界、財界、文化人、芸能界と幅広いお客様から興味を持っていただき光栄です。

## ●後輩へ、現役学生へのメッセージ

地方から都会へ出てきた人は、更に世界へ羽ばたいてください。やりたいこと、好きなことを一生懸命やり続けることは新たな可能性や価値観に繋がります。人とのつながりを大切に、好きなことはやり続けることだと思います。

スポーツに専念してもよし、遊びでも旅行でもよし、世界の文化に触れることが出来ます。時間を自由にそして大いに活用できるのは大学生の時が一番でしょう。いろいろとやった人の方がやらなかった人よりずっと良い人生になると思います。なんでも吸収でき、体力もある時です。情熱と努力は力となりますのでいろいろなこと挑戦してください。

(取材・文責/栗林)



## 株式会社マツオHDC

代表取締役社長

松尾 孝さん

(熊本県中小企業家同友会相談役理事)

Takashi Matsuo

## ●経歴

- 昭和23年11月生まれ  
熊本市出身
- 昭和46年  
工学部工業経営学科卒業
- 昭和46年  
松尾自動車工業(株)入社
- 平成7年  
同社代表取締役就任
- 平成13年  
日本ボーイスカウト熊本県副理事長  
就任
- 平成17年  
全日本ロータス同友会会長就任
- 平成21年  
熊本県中小企業家同友会代表理事を  
6年間務めた後、相談役理事に就任  
(現任)
- 平成22年  
(株)マツオHDC(ホールディングカ  
ンパニー)代表取締役就任(現任)



## ●会社の紹介

昭和27年に父が松尾自動車整備工場を設立し、自動車整備業を中心に現在5社で「くるまのマツオグループ」を構成しています。従業員・72名(H27年度)

## ●理念経営のきっかけ

私はバブルがはじけ、子会社を整理しなければならぬ危機に直面し、「自分はこれまで何のために経営してきたのか」と愕然とした苦い経験があります。高度成長期は会社を大きくすることが目的で拡大路線を採ってきたが、景気が下降してくると仕事が激減し、大切な社員を路頭に迷わせる寸前まで売上が落ち込んでしまいました。幸いその会社は、社員が「頑張るから引き続きやらせてくれ」と申し出て再建に努力してくれたおかげで、立派に立ち直りました。振り返ってみると、大きくするのは私の自己満足でしかなかったと思います。この経験から「何のために経営してきたのか」という問いを考え抜いた末に、『理念経営』がしっかりとしていなかったと思い当りました。何度か試行錯誤を重ねて、現在の経営理念は『目指せ！グッドカンパニー(お客様・社員・社会にとって良い会社)』を目指しています。大き

い会社よりグッドカンパニー(いい会社)にしたいと考えています。

## ●理念経営の浸透に向けて

理念経営を社員と共有し浸透させるために、月一回19時から21時まで社内で人材育成スクールを開いています。私が話した後、理念に基づいた課題をグループで討議し発表するという形で、繰り返し粘り強くやっています。10年以上行っていますが、やっと社員にもお客様を大切にしなければいけないことが分かってきたように感じています。ある時、理念が浸透しないのは社長の何が悪いからか、と社員に理由を書かせたことがありました。答えは「社長のコミュニケーション不足」でした。社長が一方的に話してもダメで、社員の言葉に耳を傾けていないことがはつきりしましたので、受けて立つという気持ちを大切にするようにしています。確かに社員の答えに腹の立つこともありましたが、理念を浸透させるためのステップと自分に言い聞かせてやってきました。「計画経営」では売上・利益必定主義で、決して「何のために」という目的を自分で考える人間には育ちません。また、「方針経営」では、社長が決めた方針を受け身で待っています。そういう意味では「理念経営」が人財を育てる一番の方法だと確信しています。

## ●私のモットー

常に社会のお役に立てる人間でありたいという思いから『一隅を照らす自灯明』というモットーを掲げています。

当社では、社員や家族も巻き込んで熊本市にある慈愛園ケアハウスで6月にエアコン等の清掃、12月にはクリスマス飾りつけのボランティアを毎年の恒例にしています。また、中小企業家同友会主催の「同友の森下草刈り」に社員・家族30名程度で参加し、自分達が植樹した樹がどうなっているかを注視深く見守っています。さらに、環境活動レポートを毎年公表し、電力・自動車燃料・水道使用量・一般廃棄物・産業廃棄物の削減等に全社を挙げて取り組んでいます。これらは全て理念経営浸透の一部と考えています。

## ●後輩たちへのメッセージ

早いうちに自分の生き方、志を明確にしてもらいたいと思います。何のためにその仕事を選んだのか、という答えを早く見つけてもらいたい。そうすれば、自分の意思決定に迷いやブレがなくなりやすくなります。シゴトには、「仕事」「私事」「死事」「志事」という4つの言葉があるとされています。「仕事」は、その名の通り人に仕えること。上司や他人に仕えて指示に従って与えられたことをするシゴトです。「私事」は、自分の為に自己中心でするシゴト。「志事」は、志や信念を持って取り組むシゴトで、自分のためだけでなく公のためにするシゴトのことです。私は常々「仕事」よりも「志事」を。「私事」は決してしてはならない。リスクを恐れて何もしない「死事」はなお悪いと自分に言い聞かせています。

(取材/古川・文責/内藤)

# おやじ日本 山形

代表世話人 **和田 英光** さん

Hidemitsu Wada

## ●経歴

- 昭和18年2月 東京墨田区生まれ、戦争で父の郷里鶴岡に疎開
- 昭和41年 経済学部貿易学科卒業
- 昭和41年 山形相互銀行(現山形しあわせ銀行) 入行
- 平成17年 専務取締役就任
- 平成19年 きらやか銀行顧問就任
- 平成21年 「おやじ日本山形」代表世話人および「おやじ日本」理事就任(現任)
- 平成24年 きらやか銀行顧問退任
- 「おやじ日本」とは

地域において子供のために学校と連携しながら、各種体験活動、スポーツ



等を行うおやじの集団で、平成16年に設立されました。山形では、これから未来を背負っていく子供達のために何か役に立つことはないか。子供達に全うな道を歩ませたい。決して良い子供作りではなく、良き子供達を世に出して行こうという志を胸に活動しています。例会では子供だけでなく親にも参加を促し、高校生と会わせたり、外部講師に講演をしてもらったりと、様々なテーマを掲げて行っています。会員は70名程度ですが、非常に活発に活動をしていきますので全国大会も山形で2回ほど開催してもらいました。昨年6月に渋谷で開催された全国大会は、「スマホの問題」をテーマに勉強しました。山形では、さらに「学校へ出て行こうプロジェクト」と銘打ち、講師陣を揃えて学校に出かけて行きます。子供や父兄に講演し、交流をしながらしっかりと話をして親や子が少しでも精神的に成長するよう努めています。沢山の学校から依頼が来るようになり、非常にやりがいを感じています。

## ●新卒の採用面接で感じたこと

銀行時代に大卒の採用面接をずいぶんやりました。あるとき、最終面接でほとんど質問されない学生が、何も言わないで帰ろうとしたので「ちよつと待て！たまたま今日は答える場面が少

なかったが、君はそれで良いのか。もし私が君の立場だったら、これだけは言わせてください！と言って食い下がると、その位の馬力がないとダメだ」と、つい言ってしまいました。就職は優の数で決まる訳ではありません。無論成績が良いに越したことはありません。だが、採用に携わった人間としてつくづく思うのは、勉強だけでなく、いろいろな体験に裏打ちされた言葉で応えてもらいたい。リクルー的な質問の答えは、聞く前から分かっています。「あなたの信念を聞かせてください」という質問をしたことがあります。立派な答えを期待している訳ではありません。せつかく大学で4年間過ごすのですから、色々な体験をしてもらいたいと思います。私は、クラブの先輩から紹介されて、大学では禁止されている高島埠頭沖で「沖仲仕(おきななかし船内の荷役を行う港湾労働者)」という危険なアルバイトをやったことがあります。その時、沖仲仕のベテランから、人にはいろいろな人生や生き様があるという生々しい話や他人に対する気遣いを学ばせてもらいました。色々体験する時に注意してもらいたいことは、良いか悪いかを自分でしっかりと判断し、大人の行動ということを考えて挑戦してもらいたいと思います。きつと社会人になったときに色々な体験が糧となって企業に大きな貢献ができる人になれるのではないかと思います。自分の体験や経験から出た言葉であれば、例え「私が入社したらこの会

社を明るくしてみせます」でも良いと思います。

## ●おもんばかり心を忘れずに

東日本大震災で放射能物質が拡散した直後に実際にあった悲しい話です。被災地域にお住いの方が、一時避難のために姉に呼ばれて長野に車で行く途中、給油で立ち寄ったガソリンスタンドで、ナンバプレートを見た従業員が給油を断ったとか、駐車場に停めていた車に放射能と落書きされたとか、パートで働いている女性に補償金や義援金があるんですよ、子供に綺麗な服を買ってやると、それも義援金か等々心ない差別や言動があったそうです。弱い立場の人をおもんばかり気持ちもなくしたら人間として失格だと思えます。おもんばかり心を持ち続けることが、人間として一番大切なことではないでしょうか。

## ●飛躍の鉄則

守って残さなければいけないことは確かにありますが、時代に合わせて少しずつ進化させないといけないものもあります。旧態依然ではしがらみに巻きつかれてしまいます。企業のトップには「本業の半分以上を他の事業にするのはやめましょう。70〜80%は本業を残し、面白いと思う事業があったら踏み出せば良い。順調ならもう少し踏み出さなければ良い」と話してあります。ただ守れば良いということではないと思います。

(取材・文責/内藤)



# 俳人 若井 新一 さん

Shin-ichi Wakai

## ●経歴

昭和22年9月

新潟県南魚沼市生まれ

昭和45年

経済学部経済学科卒業

昭和45年

日本電信電話公社に就職、55歳まで勤務。父没後、兼業農家

昭和54年

目崎徳衛（志城柏）主宰の「花守」にて作句開始

平成9年

「早苗饗」50句で第43回角川俳句賞受賞

平成19年

句集「冠雪」で第8回宗左近俳句大賞受賞

平成26年

句集「雪形」で第54回俳人協会賞受賞



## ●賞

「狩」同人、俳句協会幹事、日本文藝家

協会会員、NHK学園俳句講師、新潟日報

ジュニア文芸「俳句」選者、「角川」俳句クラブ通信添削講師

●俳句を始めた動機は

28歳のときに父を亡くしましたので、長男として代々受け継いできた土地で週末は米作り、平日は会社勤めを続けてきました。30歳ごろになって会社と農業だけでは物足りなくなり、それ以外に自分が一生打ち込めるものがないかと思うようになりました。元々文学的なことが好きでしたので、本屋で飯田龍太先生の俳句入門を立ち読みして、俳句に興味を持つようになりました。俳句の本を買ってこつこつ一人で勉強していましたが、知人から地元新潟に俳句結社の「花守」があることを教えてもらい、入門して作句を本格的に始めました。

●人生訓は

何事も継続すること、粘り強く続けることだと考えています。何でもそうですが、日が当たる当たらないに関係なく、自分のいるところで一生懸命頑張っていくのが一番大切だと思えます。特に俳句では、いきなり出てきて

スターになることはありません。一つひとつ積み重ねて句集にまとめ、それを発表して認められなければならぬ。それで、年季がいります。「ネバーギブアップ」だと思えます。私は、俳句の登竜門である角川俳句賞（小説で言うところの芥川賞）に12回も応募して賞をいただきましたが、そんなに応募した人はこれまでいなかったと記憶しています。

## ●なかなか評価されないとき

俳句は沢山の人がやっていますので、自分で「俳句を作る方向性」を見つけてなければいけないと思いました。すなわち「個性」をいかに出すかです。この個性が強みになります。仕事でも同じですが、この仕事は俺に任せろという強みを持つことだと思います。ですから私は、誰も詠んだことがない豪雪地帯で農業をやっているという自分の境遇を主題にして表出（表現）を平易にし、豪雪や農業を知らない人でも理解できるように作品に仕上げるよう努力しました。無論初めは、俳句の5・7・5に約束のルールを当てはめて作る訳ですが、個性は独自性が出るようになってから、評価してもらえるようになります。

## ●賞をもらって

死んでも作品が残るのが俳人だと言われていますので、私も目標にしています。私は、自分を律するために、何歳になっても尊敬し手本になる人が自分の心の中にいて、その人に近づこうと努力する、ということを中心掛けています。そして、瑞々しい俳句を作り続

けるために、心のどこかに少年・少女がいて純粹にものを見て理屈ではなく感動することが大切だと思っています。歳を取ると感動し難くなりますので作品が面白くなる傾向にあります。いい歳をして、という考え方は捨てなければいけないと日々考えています。

## ●就職して悩んでいる人へ

どのような人でも苦しみながら生きています。決して良いことばかりではありません。もし、就職して会社や仕事で自分に向いていなくてやめたいと思ったら、「いつたい自分はこれから何をしたいのか」を、まず見つけることだと思います。自分の性格や適性をじっくり考えて結論を出しても遅くはありません。ただいやだからやめてしまおうと、転職した先でも同じことになってしまいます。若いうちに本当に自分のやりたいことが見つければ、容易に転換がきくはずですよ。

## ●コンプレックス克服法

私は、神大入学当初からコンプレックスを持っていました。コンプレックスは、自分自身で乗り越えるしか方法はありません。ともかく、一生懸命勉強し、いろいろ経験して他の人にはない「強み」を持ち実績を示すことで評価され、コンプレックスから解放されます。他人は何もしてくれませんので、自分から求めていかなければ克服できません。できたら、時間的に余裕のある学生時代にコンプレックス克服の鍵となる「自分の強み」を見つけてほしいと思います。（取材・文責／内藤）

# 剣白靖俊 鍛刀所 (相模国 剣白靖俊)

## 小野 潔さん

Kiyoshi Ono

### ●経歴

●昭和23年10月  
横浜市に生まれる

●昭和48年3月

工学部機械工学科卒業

### ●刀匠になれるまでの歩みは

実家は刀とは全く関連なく、大学に近い反町で、よく、幼稚園から大学まで徒歩で通ったことが自慢ですと言っております。大学2年のころ、アルバイト先の近くから刀屋さんがありまして、子供のころから刀が好きだったので気になっていました。ある日、意を決し、中に入ったところ、私の着ていた詰襟を見て「なんだ、神大か」と、店主が神大の先輩だったのです。それから頻繁に出入りして刀の事をいろいろ教えてもらいました。



### ●スペイン語研究部に入っていたとか

事情班、音楽班、語劇班があり、私は南米の社会事情を研究する事情班に所属していました。なぜ、機械工学科の学生がスペイン語研究会、と思われるかもしれません。当時は、狭い日本から飛び出して一旗揚げようという機運が高い時代で、南米はこれから発展すると思つたのです。でも、新入生のクラブ勧誘で、うまくつかまってしまったという理由の方が大きいですかね。今でもサークル仲間との付き合いは続いています。学生生活は、3分の1がクラブ、3分の1が機械工学科、3分の1が遊び。遊びといつても、師匠(茅ヶ崎市・増田靖要)のところに通うことがその大部分でした。本

当なら大学をやめてでも刀鍛冶になりたい気持ちがありました。まさか本物の刀鍛冶になれるとは思っていませんでしたし、家族の意見もあり大学は出なくてという事で卒業しました。

### ●すぐに今の仕事に就かれたのですか

資本金を稼がなければ、という事で3年間サラリーマンをしました。とはいえ、就職活動は厳しく、何社も挑戦していたところ、そのうち人事担当の重役が神奈川県大学のOBであった、ある上場企業に就職させていただきました。その会社には神大OBの方が何人もいて大変お世話

になりました。その間も、会社勤めをしながら茅ヶ崎の師匠のところに通いました。

### ●非常に大変だったのでは

少しも大変ではありませんでした。好きな事ですから。大変だったのは経済的なことですね。月謝が無いだけましという事。師匠のところには8年間通つて、最初は千葉県の茂原というところに鍛刀所を構えました。今でも会社を3年で辞めたことは、申し訳なかつたと思つて

います。入社3年というのは、ようやくこれから社員として役に立つようになる時期です。●現在の津久井に移られたのは

鍛冶屋は、大きな音がして、火を使うので防火、炭の粉などの汚れ、などいろいろで、人家が近いと都合が悪いのです。とはいえお客さんから遠くてもダメなのです。そこで、6、7年後、日本刀の本場、相模の国、山紫水明の地をえらび、現在の場所に移りました。

### ●刀の制作は何日くらいかかるのですか

文化庁の規程では15日と定められています。現在は、県に一点美術刀剣の製作ということで届け出をし、承認を得なければなりません。実際には、何年もかかる物もあります。現代では、刀は「美術品」という扱いですが、あくまで、基本の「折れず、曲がらず、良く斬れる」の三つの要素が備わって初めて刀と言われているのです。私の場合、居合の神様と言われている中村泰三郎先生との出会いが大

きかった。私も、鎌倉時代の名刀にあげられたときもありましたが、先生は、居合で実際に切れる刀を必要とされていたのです。中村先生との出会いがなければ、ただ見るだけの美術刀剣という、本来の刀とは違う道に行ってしまったかもしれません。

### ●ところで、留学生のためにバーベキュー大会を催されていると伺いました

よく聞いてくれました。今年も予定しています。基本的には神大の留学生が対象なのですが、リピーターが多く、友達が友達を連れてくるので今では3分の1は神奈川大学以外の学生になり、定員オーバー気味になっています。大人気のイベントなのですが、始めたきっかけは少し残念なもので、宮陵会津久井支部(当時)では参加者が少ないので吉野前会長が「留学生を呼ぼう」と。少しでも母校のため、学生のために何かできればと思つて続けています。

### ●今の学生に向けて一言お願いします

私は、大学受験の時も答案に自信がなく「入学させてもらった」、そして出来が悪いのに「卒業させてもらった」と思っています。その後もお話ししたように大学の同輩、先輩方に助けてもらい、今日の私の有るのは神奈川大学のお陰であると思っております。そんな母校に集う今の学生の皆さんには、やはり、目的を持って、しっかりと勉強をしてくださいと申し上げたいですね。



北信越ボクシング連盟理事長  
学校法人健康科学学園 富山健康科学専門学校 副学校長  
黒田 勲さん

Isao Kuroda

●経歴

- 昭和16年11月生まれ 富山県上市町出身
- 昭和35年4月 法経学部経済学科入学 インカレ出場、国体出場
- 昭和38年 東京オリンピック強化選手 日本代表としてハワイ遠征
- 昭和39年3月 法経学部経済学科卒業
- 昭和39年4月 衣料メーカー入社
- 平成17年〜現在 一般社団法人日本ボクシング連盟理事 北信越アマチュアボクシング連盟理事長・富山県アマチュアボクシング連盟強化部長 学校法人健康科学学園・富山健康科学専門学校 副学校長



●大切にしていること(モットー)

“人”を大切にすることです。人との繋がりは「助ける人がいて、助けてくれる人がいる」ことです。常に誰かの支えがあり、そして誰かを支えて人脈となり、人脈は信頼関係を生みます。駅伝の襷のように人と人が繋がるように思いを込めて人と接しています。

●学生時代の思い出

幼少から典型的な負けず嫌いで、身長もなく体重もない普通の高校生だった私が階層別のあるボクシングに出会い、県大会・北陸大会では無敗を誇っていました。練習は決して嘘をつかないものです。そして神奈川大学に入学し、栄光を馳せることなく初心にかえり基本動作のみを岩淵監督の指導の下でしつかり身に付けました。一年生にもかかわらず関東大会リーグで憧れの後楽園ボクシング場でリーグ戦デビューを勝利で飾った思い出は忘れられません。

広島県三原市出身の芝伐先輩(マネージャー)との二人三脚で共同生活し、毎朝多摩川公園や多摩川巨人軍グラウンドまでロードワークした辛い思い出も蘇ります。

国際大会の日本代表選手として日米戦・日本対ポーランド戦・海外遠征等、外国人選手に15戦全勝した日本人として

誇りを持ち、東京オリンピック候補の強化選手としてのハワイ遠征は日の丸を背にした期待と重みを痛感しました。日本代表としての権威ある重圧、異国の地での語学、オリンピックを目指す仲間でありライバル、そして自分との闘いの人生そのものでした。

日本代表チーム15名の一員として6戦を全勝で飾り帰国したのは日大(東京オリンピック代表選手)と神大の私の二人だけでした。体の大きいアメリカ人、ポーランド人とは15戦15勝全勝し最高ランクは全日本3位でした。練習の鬼は決して無駄ではありません。基本に忠実に堅実に監督と仲間を信じひたすら前だけ向いて進んでいたあの頃を誇らしく思い出します。

今振り返ると私が今なお大切にしている「人との出会い、人を大切にすること」が大きく影響し繋がったと思います。私を一言でいうならば「小さな巨人」と言う事かな(笑)

●現在の仕事

ボクシングと出会い、ボクシングに捧げ、ボクシングと共に歩んできた人生、ボクシングから色々なことを教えてもらいました。大学を卒業し衣料の売り場、スポーツ店を人脈と言う財産で事業拡大しました。そして今度は私が恩返しとして、未来ある青年へ北信越アマチュアボクシング連盟理事長として若手の指導をする一方、富山健康科学専門学校でスポーツと福祉のスペシャリスト育成も行っています。また私を育ててくれた上市町の地域活性化の一環として、上市町観光

協会の環境コーディネーターとして森林セラピーガイドを務めています。私の願いは「観光客の細かな要望にできるだけ応え、満足して帰ってもらえるようにしたい」ただそれだけです。

●後輩たちへのメッセージ

多めに遊んでください。そして人脈を大切にしてください。チャンスはいつも訪れているので人脈と信頼さえあれば前に進みます。誰もが知っているガッツ石松さん、具志堅用高さん、赤井英和さん、村田諒太さんらも指導者としての繋がりができました。また基本があつてオリジナリティが出るものです。基本を忘れず、失敗を恐れず、人と人との繋がりを信じてください。

★最後に、「一度は目にしたあの銅像」

覚えている人も多いかと思いますが、旧3号館から旧図書館に向かう途中にフアイティングポーズをとった銅像が建っていたかと思えます。この銅像こそ、1964年の東京オリンピック開催に際して私の日本代表候補となったことを記念して建てられたものです。当時の学内におけるボクシング部の輝かしい地位を象徴するものだったのです。先の銅像は長年風雨に晒され内部が崩壊状態であったため、キャンパスの再開発にあたり姿を消しました。学生の皆様方の一層の精進とOBの皆様の熱心な支援により再びボクシング選手の銅像が学内に建てられる日がくることを願います。

(取材・文責/栗林)

●山形県酒田市  
パブレストラン **浪漫亭**  
脇屋 直紀さん

神大卒業生  
お得なサービス有!!

実家が昭和25年頃開業の地域有数のクラブを営業しており、飲食業の家業を継ぐことは自然の流れでした。大学卒業後横浜、自由が丘の飲食店で働き、実体験を重ねる事で経営のノウハウを学び、その後時代の流れに合わせてお店の形態を変化させ、昭和62年より「浪漫亭」として営業しています。



お店は中心市街地で地域唯一の百貨店前に立地し、お昼は美味しくリーズナブルな素材を探して、普段食べているようなものを気取らずお弁当代わりに食べてもらう事を心がけ、ビジネススマンや買い物途中の女性たち、商店街で働く従業員の人の食事処としてご利用いただいております。夜は近くに屋台村も出来一変して盛場に変身します。お客様の飲み食いで盛り上げる「ユートイリティーなお店」を目指しています。店内にある80インチ液晶ビジョンを活用してのパーティ・反省会や30名超収容出来るカラオケ

も出来る貸し切りスペースも有り団体客の皆様にも多くご利用頂いております。普段はお一人様でも心の故郷、心地良い居場所としてご来店頂ける様なれば幸いです。

支部総会に2年前に初めてお誘いを受け出席させて頂き地域の同窓生の諸先輩の皆様との交流のきっかけを得る事が出来ました。そしてその年の県総会に現役時代のサークルの先輩の学長室長(当時)佐藤武氏が学長と出席されると言う事で出席させて頂き久しぶりにお会いする事が出来ました。県内の他地域の同窓生の皆様にもお会い出来、商工会議所会頭はじめ皆様多方面でご活躍されており誇りに思うと共に心強く感じました。

(取材・文責/永田)

昭和57年 工学部工業経営学科卒業

■場所/山形県酒田市中町2-6-4

■営業時間/ランチ 11:30~14:00(平日のみ) パブ 18:00~24:00(日曜休み)

■客席数/40席

■特徴/ぱぶれすとらん 和洋中

■メニュー/ランチ・肉or魚の2種類 ¥780(税込) パブ・エビスビール 中ジョッキ¥500 ピザ¥1200

■予算/一次会飲み放題 ¥3000~ 二次会飲み放題 ¥2000~

■連絡先/0234235168

●宮城県岩沼市  
そば・麦切りの店 **荘内藩**  
小野寺 一夫さん

神大卒業生  
お一人様100円OFF



小野寺さんは、山形県酒田市出身。昭和44年法学部法律学科を卒業後、生まれ故郷の山形県で警察官となり、56歳で早期退職されました。それまで仕事や家族に縛られ自分の好きなことができなかったため余生を自分の好きなことに打ち込みたいと考え、参拝者の多い竹駒神社や金蛇水神社がある岩沼市にそば屋を開店されました。最初は70歳までは現役で頑張ろうと決意していましたが、来年70歳を契機に、幕末の庄内藩と所縁のある鹿児島に店を出そうと準備を進めているそうです。

「頑張ればできる実現可能な夢」を求めて73歳までは現役で頑張りたい、と明るく元気に話されました。

当店の自慢は、松尾芭蕉が羽黒山に泊ったときに食した麦切り(うどん)

とそばで、元々は月山の麓はそばの文化圏でしたが、江戸時代に北前船で京都からうどんの文化が入ってきて、そば切りの名残から「麦切り」と言うようになったそうです。当店で、麦切りとそばが一緒に味わえる合盛りが人気ですので、是非ご賞味くださいとのアピールがありました。

現在、山形県宮城会庄内地区会に登録していますが、商売柄なかなか交流ができていないそうです。

卒業生が利用した時の特典として、会計時に「神大卒」と言っていたら、一人100円引きでご奉仕していただけます。ともかく、終始前向きでお元氣な小野寺さんでした。

(取材・文責/内藤)

昭和44年 法学部法律学科卒業

■場所/宮城県岩沼市

■アクセス/東北本線岩沼駅西口から徒歩15分

■営業時間/11:00~15:00 (14~15時は送迎可)

■定休日/月曜日(祝日の場合は火曜日(休み)と第3火曜日)

■客席数/通常喫茶時25席 最大54席

■特徴/麦切りとそばの両方を味わい、楽しめる合盛り

■連絡先/0223244234

■客席数/28席

■予算/一次会飲み放題 ¥3000~ 二次会飲み放題 ¥2000~

■連絡先/0223244234

■客席数/28席

■特徴/麦切りとそばの両方を味わい、楽しめる合盛り

■予算/一次会飲み放題 ¥3000~ 二次会飲み放題 ¥2000~

■連絡先/0223244234

■客席数/28席

■特徴/麦切りとそばの両方を味わい、楽しめる合盛り

■連絡先/0223244234



● 広島県広島市  
小料理屋 **六輔**  
向川 俊男さん



神大卒業生  
地酒or珍味サービス

向川さんは、卒業後広島へ帰り、一度は総合スーパーへ就職し、6年勤務した後に飲食で独立を決意。調理師学校へ入学。卒業後、四年間修行し、昭和60年8月に小料理屋を開店。昨年30年を迎えました。当時は、まだ徒弟制度が色濃く残る時代でしたが、畑違いの世界に飛び込み、厳しい修行を経て独立されました。

店名の由来は、作家 永六輔さんから、本人の承諾を得てからつけたとの事です。ラジオで、永氏の番組を聞き、活動、人柄に惚れ、はがきを投稿し、読まれ返事を頂き付き合いが始まりました。信頼され、名前を頂いただけでなく、当時の週刊誌に、無料で半ページほどお店の記事を掲載して頂いたそうです。

自慢は、自家製かにシウマイ、瀬戸内の小魚、山陰のどぐる料理、さば寿司、地酒です。店内は、落ち着いた雰囲気の中にも活気があり、温かく、大変居心地の良いお店です。個室

もあり、一人でもグループで行っても楽しめます。本格的日本料理、地元の珍味、おいしい地酒も味わえ、家庭的な雰囲気も感じます。カウンター越しに向川さんとの、楽しく温かい会話も弾みます。さすが神大落研OBです。宮陵会への参加は、なかなかできないのですが、神大OBの来店もあり、人とのつながりは強いそうです。時間ができたら横浜と、大学を訪れ、町と大学の発展を必ず見てみたいと、熱く語って頂きました。

卒業生が利用した時の特典は、地酒か、珍味をこっそり出してくれそうです。常連客を大切にす為、取材は受けないうの方針ですが、大学の同窓ならと、快く対応して協力して頂きました。駅伝が大好きで、落研後輩の作家山本文緒さんの愛読者です。愛校心あふれる先輩で、大学話で大いに盛り上がりました。(取材・文責/永田)

- 昭和49年 法学部法律学科卒業
- 場所/広島市中区葉研堀10-17 (幸楽ビル2F)
- アクセス/JR広島駅から 広島電鉄銀山町下車6分
- 営業時間/PM5:00~PM10:30
- 定休日/日・祭日
- 客席数/カウンター10席 座席3部屋(15人)
- 特徴/一品料理からコース料理まで ぶぐ、珍味、地酒
- 予算/一品料理4000円、コース料理5000円
- 連絡先/082-245-2626

● 広島県東広島市  
割烹ホテル **一ぶく**  
向谷 進さん



神大卒業生  
生ビール1杯サービス

昭和22年、西条駅前と奥様の叔母様が日本料理屋を始めたのがルーツです。昭和30年、現在の地に移り、(有)一ぶくを設立し、割烹旅館一ぶくを開業しました。平成に入ってから長年続いた店の暖簾を守って欲しいとの要請があり、引き継ぐことになりました。それを受けて、平成6年建て替え、名称を割烹ホテル一ぶくに変更。平成13年4月より代表取締役社長となり店の経営に携わることになりました。

大学時代は、商業学研究部の部長を務め、卒業後は、ずっとジャーナリズムの世界で働いていました。まさに経営、サービス業とは、無縁の世界からの転身で、バブル崩壊、リーマンショック等の影響も受け、様々な困難を乗り越えて今日に至っています。

経営は、「諦めたら終わり、挑戦し続ける」こと。仕事を通して、自分を成長させ、地域に貢献したいと熱く抱負を語って頂きました。

信条は、人との付き合い方は「寛容の精神」をもって、「謙虚な態度」で接する。「謙虚な態度」は温かい仲間を呼び、お互い自然に助け合うようになる。それが日々の経営にも活かってくる

- 昭和54年 経済学部経済学科卒業
- 場所/広島県東広島市 西条朝日町11-31
- アクセス/JR山陽本線西条駅南口から徒歩10分 JR山陽新幹線 東広島駅から車で15分
- 客席数/レストラン10席 40名 個室3 4名~35名 離れ座敷 10名
- メニュー/会席料理 酒都・西条の郷土料理、美酒鍋
- 特徴/同窓会、法事、家族会、結納、還暦祝いなどの幅広い会食に対応
- 予算/5000円~8000円
- 連絡先/082-424-3995
- メール info@hotel-ippuku.com

このことです。四季折々の味覚を楽しめる会席料理が、一ぶくのおすすめメニューです。総ガラス張りの和風レストランから眺める本格的な日本庭園は心を癒され、しばし日常の喧騒を忘れさせます。個室、離れ座敷もあり、同窓会、法事、家族会、結納、還暦祝いなど幅広い会食に対応できます。神大同窓生なら、生ビール一杯のサービスがあります。宮陵会へ参加したことはありませんが、これを機に参加したいと話して下さいました。今でも、大学時代の仲間との交際が続いており、お互い仕事に対して励まし合っているという向谷さん。経営哲学だけでなく人との縁を大切にす、素晴らしい人柄に触れました。(取材・文責/永田)

# 札幌 宮陵会

一九四〇年（昭和十五年）札幌同窓会として創立され、今年で創立七十六周年を迎えます。故鈴木英司会長（昭三七経卒）と故佐藤康彦事務局長（昭三十法卒）の両先輩が「話題性のあるところに人は集う」を合言葉に若い世代の役員・スタッフの注入、各種イベントの企画・立案を進め活発な同窓会として注目を集めてきました。

しかし近年は、道内からの入学者も減り、新卒者の道内へのUターンも少なくなりました。会員の層を見ると昭和56年以降が極端に少ないのが現状です。そこで、母校を愛する気持ちと先輩方の意思を絆で繋げようと今回、新たなステージに向けて若手世代が集まりました。

## ◆現状の課題と今後に向けて

かつてはUターンで戻ってきた仲間が箱根駅伝や硬式野球部など学生の課外活動の活躍に大いに盛り上がり、どこにもなく人が集まり地方から大学を応援する連帯感があったと思います。また、仕事との繋がりを求めて集まっていた時代でもありました。

母校神奈川大学の活躍は体育会だけではなく個人で活躍する学生、また卒業生であっても誇りです。そして時代が変わり平成に入り、人からの伝手を通して人から人へ繋がるのは難しくなってきました



▲札幌宮陵会HPを担当する谷口学さん（S63機械卒）

た。札幌同窓会のモットーである「話題性のあるところに人は集う」組織にするために若い世代の発想力と行動力は欠かせないと思います。

そこで、若い世代を集めるために何をすべきか、組織の魅力をどう伝え、大学に対しての思いをどう伝えていくか重要な局面に来ていると思います。

学生の課外活動の活躍に対しては当然応援を続けますが、若い世代を集める方法として、U・ターン支援を意識したいと思っています。札幌という場所ですら大学卒という共通の仲間は仕事上において頼りになるはず。ビジネスにおける人との繋がりは簡単ではありません。紹介から出会い、信頼から人脈に繋がるものです。不安な部分をこの組織の仲間と共に活用できたらと考えています。

◆札幌宮陵会への参加のきっかけ  
新聞広告に札幌宮陵会の講演案内を見て参加したH1外西語卒西村聡美さん、先輩に声をかけられ参加したH11応化卒の山本貴史さん、そして一番若手のH24経済卒の小野地友希さんは仕事の繋がりが

を求めてHPに入り谷口さんにコンタクトしました。



▲左端から、西村聡美さん、谷口学さん、山本貴史さん、小野地友希さん

## ◆新たなステージへの挑戦

内容はシンプルで複雑化させない、若い層が興味あることをリサーチ、誰をターゲットにするのか、転勤組に優しい地域組織でありたい、を意識してHPを制作していますが、やはり情報量がガキとなり。若い人の感性でHP運営が今後必要になってくると思います。SNS等によるイベント出欠管理、Googleドライブを使って写真や動画などをスマートにファイルを安全に保管して、スマートフォンやタブレットでどこからでもアクセスできる環境を整えたいと考えています。

時代の変化に合ったHPにするために、「ここから入っていく」と先輩情報が集約されている」を各地域宮陵会が統一されているといいですね。そして、就職した人、転勤で来られた人が気軽に覗け、



気軽に相談・問い合わせできる卒業生のための、卒業生による、卒業生のHPを目指しています。知り合った仲間との発展性が重要で一番若手の発想力に期待しています。

## ◆宮陵会への要望

大学との連携を強化したいと思っています。学生さんの就職先を本社所在地で把握するだけでなく、配属後の勤務住所で把握できればU・ターン統計の精度が上がります。道人会や県人会が発足しやすいのではないのでしょうか？その延長線上に地方宮陵会があり、宮陵会同士の連携、先輩や後輩と言う仕事に繋がる縦の連携が期待できると思います。

認知度を高め、神大ネットワークで更なる大学の発展に我々も一緒に取り組んでいきたいと思っています。

（取材・文責／栗林）



磯子区宮陵会は、平成21年の設立当初より「グローバルな時代に向かって、築こう、深めよう、同窓の絆」をモットーに掲げ、同窓の絆を深めるため精力的に活動してきました。今回は磯子区宮陵会の若手会員であり、ホームページ運営を担当されている毛受雄一氏にお話をうかがいました。

#### ◆ホームページ担当者になった経緯

磯子区宮陵会のホームページは現在のブログ形式のものからはじまり、私はサイト開設当初から運営に携わっています。担当者になったのは、サイト開設時に磯子区宮陵会の中でパソコンやインターネットに詳しい人はいないかという話になり、私に声がかかったことがきっかけです。設立当初から携わっているので前任者はおらず、一から自分でサイトを作るといった感じでしたが、自分が担当者になったからには、少しでも多くの人に磯子区宮陵会の活動を知ってもらいたいと思っていました。記事の更新は、自分が参加したイベントはもちろん、都合により参加できなかったイベントについても会合やメールなどで情報を聞き、すべて私が行っています。

#### ◆記事を書く上で心掛けていること

総会や懇親会のように開催が決まっているイベントについては、詳細を早めにアップするようにしています。また、日々の活動報告についてもできるかぎり頻繁にアップするように心がけています。記事を書くためには

## 磯子区 宮陵会

それなりの時間が必要なのですが、仕事をしながら時間があるときに更新をしているということ

もあり、業務の都合でなかなか時間が取れないこともあります。そういったときは、あまり詳しい内容が書けないのですが、最低でも月に一度は必ず更新をするようにしています。レイアウト面では、記事の内容が文字中心で画像を使う機会があまりないことから、極力見やすい配色にするよう心がけています。古くからある他の宮陵会地域組織のホームページや、その他のサイトのレイアウト構成など、参考にできるものがないかということも、口頭から考えています。

#### ◆担当者になってよかったこと

私はもともとパソコンやインターネットが好きで、磯子区宮陵会のほかに自分で作ったサイトを持っています。あまり高度なことではできないのですが、サイトをいろいろと工夫して見せ方を変えたりするのが好きなので、趣味と関連しているホームページ運営には、とてもやりがいを感じています。自分がホームページ担当者になってからあった嬉しい出来事は、一部ですが宮陵会の会員ではない方から反響をいただいたことです。

#### ◆運営する上でのアドバイス

アドバイスというところですが、運営をしていて感じるのには、ある程度のパソコンスキルを持っていて、かつ私のようにホームページを作るのが好きな人が会員にいないと難しいということ



#### ◆今後、挑戦したいこと

ホームページのリニューアルをしたいと考えています。現在のサイトはブログ形式なので、イベント予定や活動報告の投稿が中心なのですが、たとえば会長挨拶や会則なども載せることができたらよいと個人的には考えています。しかし、サイトをリニューアルするには、そのための技術と知識が必要になるので、その点では努力が必要だと考えています。

#### ◆磯子区宮陵会が抱える課題

他の地域組織でも抱えている課題だと思っております。若い会員が増えないというのが一番大きな問題だと感じています。興味を引くような目立ったものがあれば良いと思うのですが、それも無いのが現状です。若い人たちは、スマートフ

す。実際に、磯子区宮陵会では私以外にホームページのメンテナンスをできる人がいないというのが現状です。可能であれば会員が運営をするのが望ましいと思うのですが、現実的に難しいこともあると思うので、ホームページ運営業者のようなところに情報を提供して更新作業を委託するというのも、ひとつの手段だと思えます。

オンを使ってSNS（ソーシャルネットワークサービス）を活用しているので、宮陵会の「LINEアカウンタ」やFacebook、LINEアカウンタなどがあれば、今よりも興味を持ってくれるのではないかと期待しています（それぞれに何か特典があれば尚よいと思います）。若い会員が増えれば、ホームページ運営をできる人も増えると思うので、今よりもっと地域組織が活性化するのではないかと思います。そのためにも、ホームページ担当者として、今後も宮陵会の活動を地道にアピールしていきたいと思えます。

（取材・文責／永沼）



●磯子区宮陵会HP  
<http://jindaikuisogo.blog.fc2.com/>

#### ●プロフィール

毛受 雄一（めんじょう ゆういち）

昭和56年8月生まれ

横浜市出身

平成16年3月理学部情報科学科卒業

# 平成27年度 近畿ブロック会記念講演会 「大仏造願の心」

平成27年10月3日(土)奈良県宮陵会が主管となりホテル日航奈良で開催されました。  
記念講演会では講師として華嚴宗大本山東大寺 教学執事 上司永照師をお迎えし  
上記の演題で講演をいただきました。内容をご紹介します。  
(平成27年度近畿ブロック会会長・奈良県宮陵会会長 山本義弘)

本日は神奈川大学宮陵会の近畿ブロック会、御盛会おめでとうございます。その記念講演という事で呼んでいただきまして、非常に恐縮しております。あまたおられるお歴々の中で、どうして私のところにお声がかかったのか心配をしておりますが、残念な時間にならないようにだけは気をつけていきたくと考えております。

大仏様、あるいは大仏様をつくった、大仏様の中心的な考え方である華嚴、どうして大仏様が今も奈良にこうやって座っておられるのか、「大仏造願の心」、大仏をつくって魂を入れたその心はどういう心かということを考えてみたいと思います。

きょうは「大仏造願の心」というのと、「大仏造立の詔」、詔勅を資料として「大仏造立の詔」を付けさせていただきましたが、これがそののちに聖武天皇が大仏様をつくりますよと宣言された詔です。この中で聖武天皇が自分の立場をおっしゃっている。これが何かというと、「夫れ天下の富を有つ者は朕なり。天下の勢」勢いですね、「勢を有つ者は朕なり」ということが書いてあります。

光明皇后は、聖武天皇の叔母さんに



あたります。直系の藤原家の人です。慈悲に長けた人であったというのが光明皇后です。光明皇后は氏寺の興福寺に何をつくったかという、慈悲の心でいっぱいな人ですから、ここに施薬院と悲田院をつくりました。施薬院、悲田院は慈悲の心でもってできていて、今で言うたら福祉施設ですね。慈悲の心を広げていくのは仏教の中でも、もっとも大事なことで私は思います。

慈悲はどういう意味かというたら、慈悲、悲しみと書きますよね。慈悲喜捨という、四無量心があります。4つの無量。量ることのできない。

なんぼあってもええよという4つの心。慈と悲と喜と捨です。慈悲喜捨。慈悲とは何ですんねんということですが慈悲は慈しみ、悲しみと書きます。慈はマイトリートと言いミトラというインドの古い言葉を語源とします。これは元々友達という意味があります。慈悲の慈は友達、友情。差別のない友情。誰の肩をも抱くことができるかということです。

悲は悲しい。カルナーという言葉の訳らしいですが、悲しいという感情を共にする。ここに悲しんでいる人がい

ます。その悲しんでいる人の気持ちに本当になることができるのが悲です。喜捨もよく似た意味で、喜は悲と同じように喜んでいて、差別なく喜びを共にするということもありますし、慈悲喜捨全部併せて人の喜びを心から喜び、人の悲しみを心から悲しむと訳せましようか。慈悲とはそういうことです。

自分以外のものの喜びを心から喜び、悲しみを心から悲しむということです。これは非常に大事な仏教的にどうか、これは仏教だけではなくて、人間として非常に大事なことでないかと思えますね。

光明皇后が実践的に行動される一方で、聖武天皇は大きなことを考えてはる割にそれに応ずるようなことは何もできへんかった。

聖武天皇は、光明皇后のやっつてはることはいいことだとわかつてはるけど、それだけで国は動かないことをよく知ってはつたわけです。天皇という長たるものは。

スペシャリストが働けるようなところ、働けるような理屈、理念を見出さなければならなかった。それが大仏さんやっつたのです。これが大いなる理念やっつた。

廬舎那仏という仏さんはバイローチヤナと言って、光明遍照と訳されています。太陽の大きなようなもので、宇宙の隅々まで光を届かせている。どんな光かという、真理の光であり、全



てを照らしている。

その真理の光を全ての生きとし生けるものに照らしたい。これが大仏様をつくる願いだったのです。聖武天皇はこういうものの考え方を皆さんに伝えたい。たかたかということ。だから、無理をしてもつくりはりました。廬舎那仏をつくった。

願いです。祈りです。願いや祈りは、やはり持たなければならぬ。どういふものの考え方という理念は持たなければならぬ。その理念がそれぞれの末端に生きわたっていくこと。国ができていったらなということだと思います。

「大仏造立の詔」の中には、我が国の安泰とか、我が国の平和とか、人類の繁栄とかは書いていません。この詔の一番の願文、一番の願いは何かということ、「乾坤相泰かに、動植咸く栄えん」。これが一番大事です。

乾坤相泰かは、乾坤は天地ですね、天地が安泰である。私の解釈では、これ違う言い方で願文にすることがあります。風雨順時ですね。風や雨が順番どおりにやってくるということと同じ意味やと私は思っています。

つまりは、季節が季節どおりにやってくるということ。自然の流れ、大自然のサイクルのとおり動く。その中に津波も地震もあるかもしれない。でも、そういう流れの中で天地が安泰である。そして、動植物が咸く栄える。動植物が皆、皆栄える世の中で

ある。これは大変な話です。大きな理念ですね。国境とかいうレベルの話ではないです。

廬舎那仏です。宇宙の隅々まで光を照らす。真理の光を照らす。そして、その光を受けるのは、生きとし生けるもの全てのものである。この動植物が、生きとし生けるもの全て栄えるというのはどういうことでしょうか。簡単なことではないと思います。

食うたり食われたりが必ずないと自然は巡っていきません。そういうことも含めた上での「動植咸く栄えん」ということではないと解釈はできない。これが華嚴の理念です。これを実現するために、実現というか理想として掲げる、これのために大仏様を無理してつくらはったのだと思います。

そして、そのつくり方も自分一人の権力でつくっては意味がないということ。いろいろなたくさんの人の、1本の枝でもいい、一つかみの土でもいいからそれを持ってきた人があったら、それをほしいままに許せとここに書いています。

小さな子どもが、これで大仏様をつくるために助けてあげてくださいと1円玉でももってきたら、「そんなはい、わかりました。帰らない」ということになるけれども、急いでつくりたいに違いないのに、それを妨げてはならないとわざわざおっしゃっている。

大仏様はそうやってできたのです。その後二度の戦火に焼失していま

す。平重衡のときと、それと戦国時代の松永弾正のときも焼けていますが、焼けて2回とも立ち直っています。その立て直すときにもその考えを踏襲されています。ちよつとずつの力。いいから、それを集めて大きな仏様とするという、皆さんの心でもってつくらなければ何の意味もないと、後世の人もやっているのです。

これは聖武天皇のたいなる願いの踏襲です。それを忘れてはいけません。今、どうして奈良に大仏様が座っておられるかを言いましたが、この願いがあるからです。この願いが伝わっていないから、大仏様は焼けたときにそれで終わっているのです。もう一遍つくるなんてことは、あれほどの巨大な建築で造像で、そういうことをするのは意味のないことになってしまいます。願いがなかったらね。

願いがあるから意味があるのです。たいなる願いがあるから。菩薩の大願を起こしてと詔勅には書いています。菩薩の、本当に「人のためになるためのたいなる願い」で私はこの像をつくると言いはったのです。

今、東大寺にはどういう言葉があるかと言いましたら、管長が大仏様の前で表白と言って、法要の宣言文を述べた中にたびたび使われている言葉に、この皇帝、皇帝は聖武皇帝です。「皇帝の大願に背からざんことを帰し奉る」という文言があります。

皇帝のたいなる願いに背くことがあ

ってはならないことを、私たちは言うてるわけ。これは、東大寺の僧侶が東大寺にいるから言うてるというレベルであってはいかんのではないかと思つています。大仏様に来て手を合わせるような人、この国の人、この世界に住んでいる人が皆思つてもええようなたいなる願いなのではないかと思つてます。

今のような時代になると、環境の問題とか人間同士のこととかいろいろありますが、ちよつといろいろ考える中で、この理念は今ものすごく注目しなければならぬのではないかと私は思つています。

奈良のお寺は隣山六大寺を中心として、それぞれが、それぞれの考えでもって、皆それぞれに理念がありますが、その中で今も肅々とやっております。またお参りくださいれば、また大仏様が今奈良にどうしてあるかという意味を一緒に考えていただければと思います。きょうは御静聴ありがとうございます。



# 男子ラクロス部



## 18年ぶりに 関東学生ラクロスリーグに1部昇格し 全日本学生選手権優勝をめざす

### 指導で心がけていること

指導で心掛けていることは大きく2つあります。1つ目は「ラクロスを通して人間力を形成すること」。これは男子ラクロス部のチーム理念にも置いていることです。2つ目は、「勝者のメンタリティーを教える」こと。簡単に言ってしまうと、勝つことにより自信をつけさせるということになります。勝負において勝敗は紙一重だと思いません。なぜ勝ったのか、なぜ負けたのか、それはスポーツであればテクニクや作戦の良し悪しが大いに関係することですが、一番大事なのは選手のメンタリティーだと思います。その中には人に対する感謝の気持ちもあります。

「For the team (チームのために)」という言葉がありますが、選手たちにはチームに対して貢献するということを意識して、日々の練習に取り組んでほしいと考えています。また、日々の練習では「ミーティングの質を上げること」にこだわっています。練習をする時に、「なんとなく」でやってしまうと練習の質が低下してしまいます。具体的には、誰が何を話すのか、どんな結論を出すのかを明確にし、議事もしつかりとらせるというように、ビジネス的な視点を取り入れるようにしています。そして、ミーティングで出た結論をしっかりと実行に移させるようにしています。そうすることによって、選手一人ひとりに責任と自主性が身についていくことを期待しています。

■印象に残っている試合について  
1部昇格を賭けたリーグ戦が印象に

残っています。1部昇格をするためには、リーグ戦で5試合戦って2位以上に入る必要があります。2位以上に入ると入れ替え戦に参加する資格が得られます。この入れ替え戦に勝つことで1部昇格が決まるのですが、中でもリーグ最終戦の上智大学戦はとて印象に残っています。リーグ戦の結果は2位でした(3勝2敗)。実は、リーグ戦は連敗からのスタートだったんです。男子ラクロス部では、試合前に相手チームの過去の試合映像を見て分析をしているのですが、分析をしすぎた結果、相手チームに合わせすぎてしまい、思うようなプレイができなかったことが敗因でした。この2連敗のショックから立ち直るのはとても大変でしたが、選手たちには「ラクロスを楽しもう」と呼びかけました。厳しい状況だけど、そういう状況でこそラクロスを楽しむという気持ちを持っていたほうが成長するし、結果もついてくると信じていたからです。そう信じたのは自分がこれまで修羅場をくぐってきた経験が活きました。2015年度のリーグ戦は大混戦で、神大は上智大学に負けたら3部に降格、勝っても他大学の戦績次第で入れ替え戦に参加できないという危機的な状況でした。どうなるか全くわからない状況で迎えた最終日、他大学の試合を「winnerでリアルタイムに確認し、最終試合の30分前に他大学が敗れたことを知り、次の試合で勝てば入れ替え戦に参加できることがわかりました。試合の結果は見事勝利、その後の入れ替え戦では獨協大学に勝利し、1部昇格を果たしました。選手たち一

人一人が誰かに頼るのではなく、自身で考えて苦境を乗り越えていった姿は、監督として誇らしく感じました。

### 2016年度の目標

2016年度の目標は、日本一にすることです。当然、自分たちも今まで以上に、血が滲むほどの努力をします。ただし、実現するには大学のさらなるバックアップも必要だと感じています。他大学の分析をしていると、強豪校は大学のバックアップが充実しているケースが多く、作戦やトレーニングなど自分たちの努力だけではカバーしきれない差を感じることがあります。

最近、神大の学生は以前に比べ、「大人しい」とか「考える力が弱くなった」という声が聞かれます。また今は人口が減少する中で大学間の競争が激しくなります。そのような状況下において私は男子ラクロス部のチーム理念でもある人間力向上を通し、この状況を打破して、神奈川大学の体育会、ひいては大学全体をより良い方向に引っ張っていくつもりです。今後ともご支援のほど、宜しくお願い致します。

(取材・文責/永沼)

### プロフィール

高橋 浩平 (たかはし ひろへい)

山形県 (酒田市) 出身

1998年工学部経営工学科卒業

現役時代に男子ラクロス部に所属。卒業後10年間クラブチームで活動し日本一を7回、学生・社会人で日本一を競う全日本選手権のMVPを1回(2004年)獲得。学生の勧誘により2009年から男子ラクロス部の監督として活動。



# 女子サッカー一部

リーグ戦での相次ぐ活躍や、「なでしこJAPAN」の一員として活躍した矢野喬子さんを輩出するなど、創部15年にして輝かしい実績を有する女子サッカー一部が、第24回全日本大学女子サッカー選手権大会で準優勝！



第24回全日本大学女子サッカー選手権大会に出場している女子サッカー部の快進撃が続き、ついに決勝進出決定！この朗報に居ても立っても居られず、1月17日に行われた決勝戦観戦へ。

舞台となるのは、味の素フィールド西が丘。国立西が丘競技場として建設された施設で、スタンドとピッチが近く、選手のプレーを間近で楽しめる臨場感。決勝の舞台としては申し分のないフィールドである。

今大会、神大は1回戦九州共立大学を8-0、2回戦大阪体育大学を1-0、3回戦静岡産業大学を2-0、そして準決勝では徳山大学を7-0と、まさに破竹の勢いで勝ちのぼってきた。その最終決戦となる大学女子サッカー界の頂点を争う相手は、早稲田大学との関東勢対決だ。

西が丘のフィールドは試合前から両校の大応援団でスタンドは埋まり、早くも熱気がみなぎる。そんななか、13時にキックオフとなる。立ち上がりは両チームが拮抗する展開、スタンド最前列でカメラを構えながら選手を追っていると、両者の気合い溢れる表情がファインダー内に展開、そして耳から選手たちの掛け声や息遣い、ボールを蹴る音。サッカー専用競技場ならではの臨場感が伝わってくる。

試合が動いたのは22分、惜しくも1

点を奪われてしまう。しかし、その後も速い突破力と出足の鋭い攻撃で果敢に攻め上がるものの、神大無得点のまま前半が終了。

そして神大攻勢のまま迎えた後半、49分にスルーパスから抜け出て相手ゴール前まで攻め込んだ小森碧伊選手（国際経営学科1年）の右足から放たれたボールが、見事にゴールネットを揺らして同点となる。この得点により試合の流れが一気に神大に傾き、果敢に攻め込み幾度となく相手ゴール前まで迫るもゴールを破ることはできず、逆に66分に1点を失う。その後も粘り強くボールに絡みながら攻め込むもののあと一歩及ばず。2分間のアディショナルタイムを終えると、ホイッスルが長く、切なく、フィールドに鳴り響き、熱闘に終止符が打たれた。

第24回全日本大学女子サッカー選手権大会準優勝。あと一歩のところまで頂点を極められなかったことが残念ではあるが、頂上対決での互角の熱戦は大いに讃えられるものである。神大女子サッカー部のチームスローガンは「己を信じ 仲間を信じ 今できることに全力を尽くそう」。県リーグでの成績に満足せず、関東リーグに昇格したい、もっとレベルの高いところで成績を残したいとの強い思いで、部全体で取り組んできたフィジカルトレーニングの成果も出て、最後まで集中力を切らさず走り切れるようになるなど、前を、そして上を向きながらの数々の努力が相まっつの全国準優勝だ。

今年3月から新チームの主将となった矢野江理佳選手（数理・物理学科4年）は「神大スポーツ」の取材で「今回のインカレ準優勝という結果が、今までの努力が無駄ではなかったと証明してくれているようで、とても嬉しかった。今年こそは優勝する。」と力強く語る。努力の先に喜びがあることを知った競技者は、さらに高みを目指して努力を重ね強く、逞しくなっていくことだろう。後輩たちの頼もしい姿を、再び頂上決戦の舞台で見られることを楽しみに待ちたいと思う。

2015年度、快進撃を続けた神大女子サッカー部は、栃木SCレディースとの関東リーグ入れ替え戦を大差で制し、念願の一つである関東女子サッカーリーグ（2部）に昇格を果たした。今後の活躍に期待大である。

（取材・文責／吉原）



# 神大の歴史 42

## 「桜木会館」補遺

この連載の始まり、本誌五七号（一九九三年十二月）に載った「神大の歴史」（1）のタイトルは、「現存する横浜学院の校舎」である。そこで述べられているように、一九二八（昭和三）年四月に開校した「横浜学院」は本学の前身・横浜専門学校のさらに前身となる学校で、それが初めに置かれた桜木会館は本学が歩みを踏み出した記念すべき場であった。

連載初回当時は日の出ビルという名称の雑居ビルとして姿を残していたこの桜木会館は、その後二〇〇八（平成二〇）年六月に取り壊され、二〇一六年三月現在、時間貸し駐車場となっている。

今回は、その桜木会館について、場・建物という視点から改めてたどってみる。

桜木会館の位置（西区桜木町六一三四）は、JR桜木町駅と市営地下鉄高島町駅の中間、国道十六号線沿いの花咲橋バス停の目の前にあたる。横浜学院開校の新聞広告には「横浜駅より一丁半」（一五〇メートル余り）と記されるが、この時期の「横浜駅」は、現在の高島町駅付近にあった。鉄道開業当時は現在の桜木町駅位置に初代の横浜駅があったのが、路線変更のため一九一五（大正四）年、高島町に二代目の横浜駅が完成、しかしこれはわずか八年後に関東大震災で被災し、現在の位置に三代目となる横浜駅が開業する一九二八（昭和三）年十月十五日ま

での間、高島町で仮駅舎として営業していたのである。開校当時、横浜の街が震災復興のただ中にあつたことを改めて感じさせる。

そして最寄りの横浜駅と同じく、横浜学院にとっても桜木会館はあくまで仮の場所であり、開校から八か月後の一九二八年十二月には現在の西区境之谷へ移転し、翌年横浜専門学校となった。このため、桜木会館時代について残された資料は非常に少ない。

横浜専門学校の設置認可申請書類によれば、桜木会館内の横浜学院借用部分は教室が二室合わせて約一一八平米、事務室が約三十五平米、便所二室と廊下を入れた総面積が約一九八平米というものであつた。これに対して募集定員のほぼ同数となる二四一名が入学したと伝わっており、狭隘であつたことは間違いない。なおここで学んだ松井由郎氏の回顧談によれば、創立者の米田吉盛先生は、建物を入った右側の事務室に独り、リンゴのような頬をして座っていた、という（『宮陵』二十八号）。

その米田先生は桜木会館と横浜学院について、「もと政友会の新聞社だったコンクリート三階建て」の建物の一、二階を借り受けたと述懐している。その建物の所有者は、生糸で財を成した山梨出身の若尾家の当主・若尾幾太郎（一八八四—一九三八）であつたという。若尾家が一九

二五（大正十四）年に横浜の本町通りに建てた七階建の「若尾ビル」（川崎鉄三設計）は「摩天楼」と称され、関東大震災後の横浜でひととき目を引く建築であり、近年まで近代横浜の産業の発展を語る存在として知られていた（一部を利用して建替）。一方、桜木会館については若尾家ただし、「政友会の新聞社」という手がかりからは興味深いことが見えてきた。

当時の横浜で「政友会の新聞」といえば、横浜政友会の赤尾彦作（一八六七—一九五三）らが一九一七（大正六）年に創刊した『横浜日日新聞』のことと考えられる。同紙は「横濱貿易新報」（現在の神奈川新聞）に対抗して「横浜・高島通に鉄筋コンクリート三階の社屋を新築し」、ドイツから新鋭の高速輪転機を輸入して二万部を発行していたが、関東大震災によって社屋が全焼、そのまま廃刊に追い込まれたという（横浜市中央図書館開館記念誌『横浜の都市と文化』）。横浜の震災被害状況を地図で確認すると、高島町から桜木町一帯は焼失区域内である。しかし鉄筋コンクリート造の場合、火災で内部が焼失しても構造としては使用可能な場合もあり、この被災した社屋が桜木会館だとすれば、桜木会館は震災前に建てられて被災後も修復を経て生き続けた建物だったということになる。

形が失われてしまった現在、建物から

新たな情報を得ることは出来ない桜木会館であるが、本学、そして横浜の歴史の一頁に記されるべき場として記憶に留めておきたい。（J）



▲旧桜木会館跡地（2016年3月22日撮影）



▲旧桜木会館（2007年3月29日撮影）



# 神大の歴史 43

## 横浜専門学校と 海軍予備学生

海軍予備学生とは、大学の学部、予科、高等学校高等科、専門学校などの卒業生で所定の身体検査および採用試験に合格した者を海軍の予備士官にする制度である。

軍隊において予備役とは、一般に現役を終えたものが服し、戦時の際に召集されて現役とともに戦時編制の部隊を組織するものであった。海軍ではその予備役に一九〇四（明治三十七）年、「海軍予備員」という制度を置き、商船学校の学生は入学と同時に海軍兵籍に編入され、卒業後必要な教育を施されたのち、試験を経て予備役に服していた。

一九三一（昭和六）年の満州事変などを契機に、海軍は航空兵力の拡充整備を目指していた。海軍予備学生は、海軍予備員候補者の一つとして、一九三四（昭和九）年、はじめはパイロットなどの「航空関係」に限って設置されたものである。当時学生の間では、航空機の操縦をスポーツとして楽しみ、そのメカニズムなどを学ぶ航空部や航空研究会などの活動が盛んで、一九三〇（昭和五）年には関東地区の大学専門学校三十数校が参加し、財団法人日本学生航空連盟の結成をみていた。海軍が航空予備兵力の対象を高等教育機関の卒業者としたのは、こうした学生の活動とも無関係ではないだろう。

横浜専門学校において「航空研究会」が発足したのは、一九三七（昭和十二）年のことである。会長には校長林頼三郎、顧問には配属将校國方慶三と教練科教官成島榮壽、そして副校長（学監）の米田吉盛がついた。本会のねらいは、「他の多くの航空研究団体は大い飛行機の操縦練習即ちエンジニアの養成を主」とす

るなか、「操縦士の養成も重要なこと」であるが、「本校の如き商、貿、法の専門学校の研究会としては従来顧みられなかつた、商業法律的方面よりの航空事業の研究即ちマネージャーとしての研究」にこそあるという。航空研究会の結成を、学生新聞は「期待される今後の活躍」と伝えたが、会長や顧問の人選、抱負など

を見るとその意気込みが伺えよう（『時代の波に乗って／待望の『航空研究会』誕生／期待される今後の活躍』『横専学報』一九三七年六月二十五日付）。前述の日本学生航空連盟には、予備学生発足の同年、予備学生志願者の入隊前の準備教育機関として海洋部が設けられた。その海洋部は、実質海軍の経費で運営され、のちに日本学生航空連盟から独立して学生海洋飛行団となり、一九三七年には海軍予備航空団と改称された。この改称は、学生たちだけの航空機同好会という印象を改めること、団体の目的が航空関係の海軍予備員の養成にあることなどを周知させるためであった。一九四一（昭和十六）年の横浜専門学校航空研究会の活動を見ると、この年躍進した事柄として、本研究会から海軍予備航空団に二名の操縦士の合格があったことをあげている（『航研部一瞥／躍進の其の跡』『横専学報』一九四一年二月二十五日付）。各学校の航空研究会にとって、同団体の合格者を出すことは日頃の活動の成果を示すものであり、予備学生への志願は在学中から大きな関心事であったと思われる。さて、一九四一（昭和十六）年十月、修業年限の短縮による繰上卒業と太平洋戦争の開戦が目前に迫るなか、海軍予備学生に「航空関係」の「飛行科」に加えて、「兵科」「整備科」「機関科」が置かれることになった。戦争の進展とともに、海軍全般にて予備学生が必要となったのである。「特攻」の第一号といわれる久

納好学（飛行科第十一期・法政大学）、戦艦大和に副電測士として乗艦しアメリカ軍による撃沈から生還、『戦艦大和ノ最期』を著した吉田満（兵科第四期・東京帝国大学）は、予備学生の出身である。海軍にとって高等教育機関にて学んだ者たちは、航空研究会に限られるだけでなく、重要な人材となっていた。

海軍予備学生の全任官者数は「飛行科」と「兵科」で三万名、戦死者数は三千七百名にのぼっているが、横浜専門学校の海軍予備学生で特筆すべきは、第十三期の飛行科予備学生であろう。この期にあつたのは、一九四三（昭和十八）年六月二十一日の横浜専門学校教授会で「海鷲志願二関スル軍部ノ意向」として、「航空機搭乗員志願ノ奨励ニ努メラレタイ」；推薦方針トシテハ奥行ノ深イ人間ヲ推薦スルヨウ……「本校ニ於ケル推薦方針ハ、生徒主事原案ヲ作成シ、副校長ノ裁断ヲ得テ教授会ニ於テ審議シタイト思ッテ中々」「特別悪イ者ハ他ヘ向ケテ普通ノ者以上ハ推薦シテハ」「推薦順ヲツケテ欲シト言ハレタ」〔昭和十五年度教務委員会記録簿〕などといった発言が交わされ、多くの学生が学校からの推薦で志願していったことが分かる。一九四三（昭和十八）年九月入隊の彼らは、全体では五千二百名、横浜専門学校では五十七名が任官した。その五十七名のうち二十四名が戦死し、うち四名は沖繩戦における特攻であった。久納にせよ、吉田にせよ、横浜専門学校の予備学生にせよ、海軍予備学生が担った役割は「予備」ではなかつた。

海軍予備学生制度の成立過程は、元海軍大佐大井篤によると次の通りである（大井篤「序文にかえて」、野地宗助『海軍兵科予備学生』大原新生社、一九七七年）。大井は、一九四〇（昭和十五年）年一月、海軍兵学校生徒の採用員数問題に

取り組むことになった。この採用員数については、これまで海軍省と軍令部の間で長年見解が対立していた。このころは日米間で海軍の軍備拡張計画が激しくなつていて、大井の計算によると軍令部の主張でも士官の必要数が足りないという。軍令部の要求する半分の員数でよいとする海軍省の主張は、海軍兵学校の卒業者を少なくとも大佐まで進級させてから辞めさせ、恩給の面などで兵学校出身という社会的威信を保つという考えにも支えられていた。こうしたなかで、大井は、士官の不足分を一般大学など高等教育機関の出身者から予備士官として採用する案を提案し実行された。大井は、「（日米）開戦となつてみると、この予備学生制度の効果は実にき面だつた」と述べ、「いまにして思えば、私にとつても、この制度は海軍における私の仕事のうちで、もっとも役だつたものの一つだつた」という。私たちはこの歴史を重く噛みしめる必要がある。（也）



▲1942（昭和17）年の記念祭で航空研究会の展示を訪れた林頼三郎と米田吉盛（吉瀬農一氏所蔵）

# 平成28年度正味財産増減予算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1.経常増減の部			
(1)経常収益			
①財産運用益	6,000	31,000	△ 25,000
基本財産受取利息	1,000	1,000	0
特定資産受取利息	5,000	30,000	△ 25,000
②受取会費	116,090,000	116,090,000	0
正会員会費	6,090,000	6,090,000	0
準会員会費	110,000,000	110,000,000	0
③雑収益	405,000	430,000	△ 25,000
受取利息	45,000	50,000	△ 5,000
雑収益	360,000	380,000	△ 20,000
経常収益計	116,501,000	116,551,000	△ 50,000
(2)経常費用			
①事業費			
給 料 手 当	5,880,000	5,660,000	220,000
退職給付引当金繰入額	0	14,000	△ 14,000
福 利 厚 生 費	1,100,000	1,030,000	70,000
会 議 費	942,000	2,008,000	△ 1,066,000
旅 費 交 通 費	6,480,000	9,665,000	△ 3,185,000
通 信 運 搬 費	41,204,000	32,705,000	8,499,000
消 耗 品 費	1,847,000	1,877,000	△ 30,000
印 刷 製 本 費	9,437,000	6,915,000	2,522,000
慶 弔 交 際 費	2,120,000	2,120,000	0
賃 借 料	246,000	220,000	26,000
諸 謝 金	710,000	695,000	15,000
支 払 負 担 金	7,500,000	7,500,000	0
支 払 助 成 金	13,050,000	13,450,000	△ 400,000
支 払 寄 付 金	29,000,000	29,000,000	0
給 付 奨 学 金	20,000,000	20,000,000	0
委 託 費	2,700,000	1,200,000	1,500,000
貸 倒 引 当 金 繰 入 額	0	3,000,000	△ 3,000,000
雑 費	100,000	250,000	△ 150,000
事業費計	142,316,000	137,309,000	5,007,000
②管理費			
給 料 手 当	5,880,000	5,660,000	220,000
退職給付引当金繰入額	0	14,000	△ 14,000
臨 時 雇 用 賃 金	3,000,000	2,000,000	1,000,000
福 利 厚 生 費	1,100,000	1,030,000	70,000
会 議 費	2,360,000	2,632,000	△ 272,000
旅 費 交 通 費	3,500,000	3,500,000	0
通 信 運 搬 費	1,290,000	1,098,000	192,000
消 耗 什 器 備 品 費	200,000	200,000	0
消 耗 品 費	740,000	690,000	50,000
印 刷 製 本 費	1,130,000	1,710,000	△ 580,000
慶 弔 交 際 費	1,300,000	1,400,000	△ 100,000
賃 借 料	246,000	220,000	26,000
諸 謝 金	35,000	35,000	0
委 託 費	3,642,000	3,642,000	0
雑 費	400,000	1,125,000	△ 725,000
管理費計	24,823,000	24,956,000	△ 133,000
経常費用計	167,139,000	162,265,000	4,874,000
当期経常増減額	△50,638,000	△45,714,000	△4,924,000
2.経常外増減の部			
(1)経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 50,638,000	△ 45,714,000	△ 4,924,000
一般正味財産期首残高	321,771,676	367,485,676	△ 45,714,000
一般正味財産期末残高	271,133,676	321,771,676	△ 50,638,000
II 指定正味財産増減の部			
①受取寄付金			
受取寄付金	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	271,133,676	321,771,676	△ 50,638,000

# 宮陵会だより

平成28年度事業計画  
正味財産増減予算書  
収支予算書  
理事会開催状況  
定時総会  
監査

全国地域組織代表者会議  
(事務局長会議)  
女性会員のつどい  
各種委員会開催状況  
地域組織総会等開催状況  
その他卒業生の集い

新規設立地域組織  
新地域組織代表者  
表彰者  
計報  
本部理事会開催予定  
地域組織総会予定  
教育研究奨励助成金採用者  
給付奨学生採用者

## 平成28年度 事業計画・予算書

### ■平成28年度事業計画

- I 会員相互の連携強化、その他本会の目的達成に付随する事業
1. 会員相互の情報共有のための事業
    - (1) 会誌「宮陵」第65号の発行。「宮陵会報」第102号・第103号の発行、他広報事業
    - 会誌は正会員のみ、会報は住所判明者へ送付予定
    - 会員相互の連携を深めるための事業
  - (2) 全国地域組織代表者会議は隔年開催を踏襲し、平成28年度は休会
  - (2) 地域組織の活動に対する

### (3) ブロック会への支援

### II 神奈川大学の進展と維持に

### 金への指定寄付

### 1. III 本部関係 法人会議

- 支援、助成
- ① 地域組織総会出席時祝金
  - 出張者交通費
  - 資料発送等通信費
  - ② 地域組織総会通信費助成(職域、同期・同好を除く)
  - 地域組織設立周年行事経費の助成
  - 女性会員地域組織総会参加費助成
  - 準会員地域組織総会参加費助成
  - ③ 地域組織のホームページ新設支援と情報ネットワークの構築推進
  - 新規立上げの追加募集及び運営のバックアップ(参考：平成27年度新規開設43組織)
- ① ブロック会開催地域組織の経費助成
- ② ブロック内参加地域組織の旅費交通費の助成
- ③ 組織基盤確立のための地域組織の設立・再建への支援
- ④ 準会員(在校生)に対する宮陵会広報活動の強化(新規)就職ガイダンス等の大学主催の事業において準会員(在校生)の宮陵会認知度向上を図るための説明会の実施
- (2) 大学の共通教養科目の授業のなかで(二社)神奈川大学宮陵会の歴史等について講義開始
5. 新入生進会(会員)への記念品贈呈
6. その他目的達成に必要な事業
- ① 神奈川大学教育振興事業
- (1) 神奈川大学事業協賛寄付等
- ① 大学一般公開講座の協賛
- ② ホームカミングデーへの協賛等
- ③ 卒業祝賀行事の共催
- (2) 神奈川大学在学課外活動等支援事業
- ① 学生課外活動助成金
1. 学生課外活動助成、競技大会参加費、卒業生指導者交通費等の助成
- 在学特別事業
- ① 在学生に対する講演会及びスポーツ大会の開催費助成
- (3) 神奈川大学「教育振興基金」への指定寄付
- ① 給付奨学金
- ② 課外活動援助金
- (4) 学校法人神奈川大学「米田吉盛教育奨学金」募金への指定寄付
- (5) 神奈川大学教育研究奨励助成事業
- (6) 神奈川大学「神大スポーツ・文化振興奨励助成金」案内への協力
- (7) 学校法人神奈川大学総務部校友課との連携
2. 宮陵会奨学金の給付・貸与事業
- (1) 給付奨学金
- 学部生および大学院生
- (2) 特別給付奨学金課外活動支援特別給付金)
- (3) 貸与奨学金
- (1) 平成28年度定時社員総会



# 平成28年度収支予算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 事業活動収支の部			
1.事業活動収入			
①財産運用収入	6,000	31,000	△25,000
②会費収入	116,090,000	116,090,000	0
正会員会費収入	(6,090,000)	(6,090,000)	0
準会員会費収入	(110,000,000)	(110,000,000)	0
③奨学金貸付金回収収入	4,000,000	10,000,000	△6,000,000
④雑収入	405,000	430,000	△25,000
事業活動収入計	120,501,000	126,551,000	△6,050,000
2.事業活動支出			
①事業費支出	142,316,000	134,295,000	8,021,000
給 料 手 当 支 出	5,880,000	5,660,000	220,000
福 利 厚 生 費 支 出	1,100,000	1,030,000	70,000
会 議 費 支 出	942,000	2,008,000	△1,066,000
旅 費 交 通 費 支 出	6,480,000	9,665,000	△3,185,000
通 信 運 搬 費 支 出	41,204,000	32,705,000	8,499,000
消 耗 品 費 支 出	1,847,000	1,877,000	△30,000
印 刷 製 本 費 支 出	9,437,000	6,915,000	2,522,000
慶 弔 費 支 出	2,120,000	2,120,000	0
賃 借 料 支 出	246,000	220,000	26,000
諸 謝 金 支 出	710,000	695,000	15,000
支 払 負 担 金 支 出	7,500,000	7,500,000	0
支 払 助 成 金 支 出	13,050,000	13,450,000	△400,000
支 払 寄 付 金 支 出	29,000,000	29,000,000	0
給 付 奨 学 金 支 出	20,000,000	20,000,000	0
委 託 費 支 出	2,700,000	1,200,000	1,500,000
雑 支 出	100,000	250,000	△150,000
②奨学金貸付金支出	10,000,000	15,000,000	△5,000,000
③管理費支出	24,823,000	24,942,000	△119,000
給 料 手 当 支 出	5,880,000	5,660,000	220,000
臨 時 雇 用 賃 金 支 出	3,000,000	2,000,000	1,000,000
福 利 厚 生 費 支 出	1,100,000	1,030,000	70,000
会 議 費 支 出	2,360,000	2,632,000	△272,000
旅 費 交 通 費 支 出	3,500,000	3,500,000	0
通 信 運 搬 費 支 出	1,290,000	1,098,000	192,000
消 耗 什 器 備 品 費 支 出	200,000	200,000	0
消 耗 品 費 支 出	740,000	690,000	50,000
印 刷 製 本 費 支 出	1,130,000	1,710,000	△580,000
慶 弔 費 支 出	1,300,000	1,400,000	△100,000
賃 借 料 支 出	246,000	220,000	26,000
諸 謝 金 支 出	35,000	35,000	0
委 託 費 支 出	3,642,000	3,642,000	0
雑 支 出	400,000	1,125,000	△725,000
事業活動支出計	177,139,000	174,237,000	2,902,000
事業活動収支差額	△56,638,000	△47,686,000	△8,952,000
II 投資活動収支の部			
1.投資活動収入			
①特定資産取崩収入	30,781,000	49,000,000	△18,219,000
②貸付金増減額	6,000,000	5,000,000	1,000,000
投資活動収入計	36,781,000	54,000,000	△17,219,000
2.投資活動支出			
①設立80周年記念事業積立金	0	10,000,000	△10,000,000
②特定資産取得支出(奨学積立金)	0	208,000	△208,000
投資活動支出計	0	10,208,000	△10,208,000
投資活動収支差額	36,781,000	43,792,000	△7,011,000
III 予備費支出			
予備費支出	261,128,322	280,985,322	△19,857,000
当期収支差額	△280,985,322	△284,879,322	3,894,000
前期繰越収支差額	280,985,322	284,879,322	△3,894,000
次期繰越収支差額	0	0	0

(1) 会費納入の促進

(2) 「神奈川大学校友V.I.S Aカード」の入会促進

4. 事務局体制の強化

理事会開催状況

●平成27年5月15日(金) 議案

- 平成26年度事業報告及び決算に関する件
- 平成27年度補正予算に関する件

3. 一般社団法人神奈川大学宮陵会表彰規程被表彰者推薦基準細則の改正に関する件

4. 表彰規程に基づく被表彰者の決定に関する件

5. 地域組織解散の承認に関する件

●平成27年6月6日(土) 議案

1. 全国地域組織代表者会議の開催に関する件

1. 会長、副会長及び専務理事の選任に関する件

●平成27年6月19日(金) 議案

1. 名誉役員の委嘱に関する件

2. 理事の職務分担に関する件

1. 全国地域組織代表者会議の開催に関する件

2. 表彰委員会委員の選任に関する件

3. 委員会規則に基づく各委員会委員の選任に関する件

4. スポーツ課外活動支援特別奨学金規程の改正に関する件

●平成27年9月4日(金) 議案

1. 全国地域組織代表者会議の開催に関する件

成金募集要領に関する件

●平成27年10月14日(水) 議案

1. 平成27年度教育研究奨励助成金採用者に関する件

●平成27年12月7日(月) 議案

1. 平成27年度教育研究奨励助成金再募集採用者に関する件

●平成28年2月6日(土) 議案

1. 一般社団法人神奈川大学宮陵会特定個人情報取扱規程の制定に関する件

2. 「一般社団法人神奈川大学宮陵会個人情報に関する指針」の廃止及び

「一般社団法人神奈川大学宮陵会個人情報取扱に関する規程」の制定に関する件

3. 「一般社団法人神奈川大学宮陵会職員任用規程」及び「一般社団法人神奈川大学宮陵会職員の賞与及び退職金について」の一部改正に関する件

4. 「一般社団法人神奈川大学宮陵会地域組織活動助成金規則」の廃止及び

「一般社団法人神奈川大学宮陵会地域組織活動助成金規程」の制定に関する件

●平成28年3月5日(土) 議案

1. 平成28年度事業計画及び予算に関する件

2. 平成28年度定時総会の開催に関する件

3. 一般社団法人神奈川大学宮陵会情報管理規程の制定に関する件

4. 一般社団法人神奈川大学宮陵会情報管理規程の制定に関する件

●平成28年3月26日(土) 議案

1. 専任職員の人事に関する件

9. 地域組織設置の承認に関する件

8. 「一般社団法人神奈川大学宮陵会委員会規則」の廃止及び

「一般社団法人神奈川大学宮陵会委員会規程」の制定に関する件

7. 一般社団法人神奈川大学宮陵会役員選任規程の改正に関する件

6. 一般社団法人神奈川大学宮陵会代議員選任規程の改正に関する件

5. 一般社団法人神奈川大学宮陵会個人情報管理責任者に関する件

4. 一般社団法人神奈川大学宮陵会個人情報管理責任者に関する件

3. 一般社団法人神奈川大学宮陵会個人情報管理規程の制定に関する件

2. 専任職員の人事に関する件

1. 専任委員の交代に関する件

●平成28年3月26日(土) 議案

1. 専任委員の交代に関する件

2. 専任委員の交代に関する件

3. 専任委員の交代に関する件

4. 専任委員の交代に関する件

5. 専任委員の交代に関する件

6. 専任委員の交代に関する件

7. 専任委員の交代に関する件

8. 専任委員の交代に関する件

9. 専任委員の交代に関する件

3. 一般社団法人神奈川大学  
陵会課外活動団体指導者へ  
の助成金取扱要領の制定に  
関する件

定時総会

●平成27年6月6日(土)  
議案

- 平成26年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の決算承認の件
- 役員(理事20名、監事3名)の選任の件

監査

●平成27年4月30日(木)  
平成26年度監査

全国各地域組織代表者会議  
(事務局局長会議)

●平成27年10月10日(土)  
全体会議議題

- 地域組織のホームページ立上げについて
- ブロック会の運営について
- 本会の助成金制度をはじめとした各種手続きについて

分科会議議題

- ブロック会の運営について
- 地域組織のホームページについて

3. その他の要望事項(本部や他の組織へ)

- 職域等
- 会の運営について
- ホームページ立上げについて
- その他の要望事項(本部や他の組織へ)

他の組織へ

女性会員のつどい

●平成27年8月2日(日)  
ワンコインで(500円)で  
楽しむランチ交流会(甲信越  
ブロック・新潟県宮陵会)

●平成27年9月6日(日)  
アフタヌーンティー&ライブ  
パーティー(九州ブロック・  
福岡宮陵会)

各種委員会開催状況

●平成27年  
4月9日 広報委員会  
13日 役員候補者推薦委  
員会  
22日 総務財政委員会  
表彰委員会  
5月8日 選挙管理委員会  
12日 広報委員会  
27日 広報委員会(座談  
会)

6月4日 選挙管理委員会  
24日 女性委員会  
26日 広報委員会  
7月1日 事業委員会  
3日 会館建設特別委員  
会  
7日 組織委員会  
10日 広報委員会  
8月7日 会館建設特別委員  
会  
9月14日 会館建設特別委員  
会  
15日 広報委員会  
30日 組織委員会  
10月14日 会館建設特別委員  
会

29日 組織委員会  
10月31日~11月1日 事業委員会  
(「全日本大学駅  
伝対校選手権大  
会」応援バスタフ  
ー)

11月4日 広報委員会  
18日 広報委員会  
12月7日 会館建設特別委員  
会  
14日 広報委員会  
19日 総務財政委員会  
20日 会館建設特別委員  
会  
21日 組織委員会  
28日 会館建設特別委員  
会  
2月5日 会館建設特別委員  
会  
16日 広報委員会  
22日 会館建設特別委員  
会  
3月2日 事業委員会  
9日 会館建設特別委員  
会  
28日 広報委員会

地域組織総会等開催状況

●平成27年  
4月11日 港南区総会  
18日 南区臨時総会  
5月2日 ラグビー部OB会  
総会  
16日 秋田県総会  
戸塚・栄区総会  
横浜北総会

23日 栃木県総会  
陸上競技部OB会  
総会  
29日 クリエイトメデイ  
ック臨時総会  
30日 北海道ブロック会  
札幌総会  
秦野市総会  
6月3日 神奈川大学学内総  
会  
6日 自動車工学研究部  
OB会総会  
10日 三洋みやも会総会  
13日 茨城県総会  
岡山県総会  
南足柄総会  
写真研究部OB会  
総会  
14日 三浦半島総会  
北見総会  
20日 愛知みやも会総会  
大阪府総会  
保土ヶ谷・旭区総  
会  
21日 愛媛県宇和島地区  
会  
21日 京滋総会  
24日 秋田県鹿角地区会  
箱根町総会  
27日 和歌山県総会  
空手部OB会総会  
学土山岳会総会  
群馬馬総会  
群馬東毛総会  
三重県総会  
10日 会計人会総会  
11日 鳥取伯耆総会  
福岡総会  
バスケットボール  
部OB会総会  
兵庫県総会

29日 総会  
30日 北海道ブロック会  
札幌総会  
秦野市総会  
6月3日 神奈川大学学内総  
会  
6日 自動車工学研究部  
OB会総会  
10日 三洋みやも会総会  
13日 茨城県総会  
岡山県総会  
南足柄総会  
写真研究部OB会  
総会  
14日 三浦半島総会  
北見総会  
20日 愛知みやも会総会  
大阪府総会  
保土ヶ谷・旭区総  
会  
21日 愛媛県宇和島地区  
会  
21日 京滋総会  
24日 秋田県鹿角地区会  
箱根町総会  
27日 和歌山県総会  
空手部OB会総会  
学土山岳会総会  
群馬馬総会  
群馬東毛総会  
三重県総会  
10日 会計人会総会  
11日 鳥取伯耆総会  
福岡総会  
バスケットボール  
部OB会総会  
兵庫県総会

17日 帯広総会  
18日 男子ラククロス部O  
B会総会  
26日 佐賀県総会  
山形県置賜地区会  
山形県庄内地区会  
8月8日 山形県庄内地区会  
鳥取因幡総会  
22日 山形県村山地区会  
27日 大分県総会  
29日 旭川総会  
9月4日 ヨット部OB会総  
会  
6日 ヨット部OB会総  
会  
12日 四国ブロック会  
26日 愛媛県総会  
静岡西部総会  
29日 静岡西部総会  
26日 苫小牧総会  
岐阜県総会  
高知県総会  
10月3日 近畿ブロック会  
奈良県総会  
西多摩総会  
4日 北陸ブロック会  
石川県総会  
11日 吹奏楽部OB会総  
会  
24日 九州ブロック会  
鹿児島県総会  
室蘭総会  
山形県総会  
千葉県総会  
社労士会総会  
31日 神奈川県ブロック  
会  
7月4日 群馬馬総会  
群馬東毛総会  
三重県総会  
10日 会計人会総会  
11日 鳥取伯耆総会  
福岡総会  
バスケットボール  
部OB会総会  
兵庫県総会

17日 帯広総会  
18日 男子ラククロス部O  
B会総会  
26日 佐賀県総会  
山形県置賜地区会  
山形県庄内地区会  
8月8日 山形県庄内地区会  
鳥取因幡総会  
22日 山形県村山地区会  
27日 大分県総会  
29日 旭川総会  
9月4日 ヨット部OB会総  
会  
6日 ヨット部OB会総  
会  
12日 四国ブロック会  
26日 愛媛県総会  
静岡西部総会  
29日 静岡西部総会  
26日 苫小牧総会  
岐阜県総会  
高知県総会  
10月3日 近畿ブロック会  
奈良県総会  
西多摩総会  
4日 北陸ブロック会  
石川県総会  
11日 吹奏楽部OB会総  
会  
24日 九州ブロック会  
鹿児島県総会  
室蘭総会  
山形県総会  
千葉県総会  
社労士会総会  
31日 神奈川県ブロック  
会  
7月4日 群馬馬総会  
群馬東毛総会  
三重県総会  
10日 会計人会総会  
11日 鳥取伯耆総会  
福岡総会  
バスケットボール  
部OB会総会  
兵庫県総会

17日 帯広総会  
18日 男子ラククロス部O  
B会総会  
26日 佐賀県総会  
山形県置賜地区会  
山形県庄内地区会  
8月8日 山形県庄内地区会  
鳥取因幡総会  
22日 山形県村山地区会  
27日 大分県総会  
29日 旭川総会  
9月4日 ヨット部OB会総  
会  
6日 ヨット部OB会総  
会  
12日 四国ブロック会  
26日 愛媛県総会  
静岡西部総会  
29日 静岡西部総会  
26日 苫小牧総会  
岐阜県総会  
高知県総会  
10月3日 近畿ブロック会  
奈良県総会  
西多摩総会  
4日 北陸ブロック会  
石川県総会  
11日 吹奏楽部OB会総  
会  
24日 九州ブロック会  
鹿児島県総会  
室蘭総会  
山形県総会  
千葉県総会  
社労士会総会  
31日 神奈川県ブロック  
会  
7月4日 群馬馬総会  
群馬東毛総会  
三重県総会  
10日 会計人会総会  
11日 鳥取伯耆総会  
福岡総会  
バスケットボール  
部OB会総会  
兵庫県総会

17日 帯広総会  
18日 男子ラククロス部O  
B会総会  
26日 佐賀県総会  
山形県置賜地区会  
山形県庄内地区会  
8月8日 山形県庄内地区会  
鳥取因幡総会  
22日 山形県村山地区会  
27日 大分県総会  
29日 旭川総会  
9月4日 ヨット部OB会総  
会  
6日 ヨット部OB会総  
会  
12日 四国ブロック会  
26日 愛媛県総会  
静岡西部総会  
29日 静岡西部総会  
26日 苫小牧総会  
岐阜県総会  
高知県総会  
10月3日 近畿ブロック会  
奈良県総会  
西多摩総会  
4日 北陸ブロック会  
石川県総会  
11日 吹奏楽部OB会総  
会  
24日 九州ブロック会  
鹿児島県総会  
室蘭総会  
山形県総会  
千葉県総会  
社労士会総会  
31日 神奈川県ブロック  
会  
7月4日 群馬馬総会  
群馬東毛総会  
三重県総会  
10日 会計人会総会  
11日 鳥取伯耆総会  
福岡総会  
バスケットボール  
部OB会総会  
兵庫県総会

沖縄県総会  
卓球部OB会総会  
硬式野球部OB会  
総会

21日 北九州総会  
南区総会  
27日 川本工業総会  
中国ブロック会  
28日 広島県総会  
岩手県総会  
福島県総会  
同学会上海総会  
ボクシング部OB  
会総会  
29日 神奈川区総会  
相模原総会  
12月5日 同学会大連総会  
柔道部OB・OG  
会総会

●平成28年  
1月3日 香川県総会  
平塚市総会  
24日 磯子区総会  
茅ヶ崎・寒川総会  
愛知みやも会愛知  
東地区会  
30日 島根県総会  
長崎総会  
2月12日 佐世保総会  
14日 筑豊総会  
20日 防長総会  
27日 熊本県総会  
3月4日 横浜信用金庫総会  
5日 珊瑚の会総会

その他卒業生の集い

●平成27年  
7月11日 山梨中央銀行  
宮陵会



新規設立地域組織

●衣笠・アサモアゼミナール  
神湘会

新地域組織代表者

福島県宮陵会

44 経 村上 昌弘

佐世保宮陵会

43 経 吉村 勝利

熊本県宮陵会

49 法 出口 照雄

ロスアンゼルス宮陵会

平8 国経 佐原 雄介

神奈川県宮陵会

49 経 久米 信行

卓球部OB会(卓友会)

42 経 河田 郁夫

表彰者

●功労表彰

地域組織関係

37 経 鈴木 英司(故人)

(元札幌宮陵会会長)

40 法 赤水 芳仁(故人)

(元島根県宮陵会会長)

37 経 船渡 幸彦

(元バスケットボール部OB会会長)

●感謝表彰

地域組織関係

33 経 門山 廣文

(元室蘭宮陵会会長)

45 経 久保田 重夫

(元群馬宮陵会)

会長・副会長)

46 賢 川崎 武敏

(元群馬宮陵会会長)

39 賢 前田 義文

(元三重県宮陵会会長)

36 機 吉田 曠二

(元大阪府宮陵会)

副会長)

41 応化 深山 嘉伸

(元和歌山県宮陵会)

幹事長)

36 経 野々瀬 雅博

(元徳島県宮陵会)

副会長)

36 賢 坂井 公明

(筑豊宮陵会会長)

48 工経 平山 寿則

(元長崎宮陵会会長)

36 電 横山 健一

(元熊本県宮陵会)

副会長)

30 経 永峯 暉夫

箱根町宮陵会会長

41 賢 中山 武志

(元空手部OB会会長)

40 機 北川 晃司

(元ラグビー部OB会)

会長・副会長)

●特別表彰

硬式野球部

第63回全日本大学野球選手

権大会準優勝

国際経営学科4年

阪部 創

第11回世界学生レスリング

選手権大会

グレコローマンスタイル75

kg級3位

人間科学科3年

大島 圭介

第27回日本ライフセービング

グ・プール競技選手権大会

優勝

人間科学科2年

岩佐 暖

2015 I S U 世界ジュニ

アシヨートトラック

スピードスケート選手権大

会

男子1500m2位

平27人間科学科

渡辺 耶唯

第90回日本学生選手権水泳

競技大会

200mバタフライ優勝

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます

島津 英郎殿(34経)

元理事

平成28年3月9日

坂井 公明殿(36賢)

代議員

筑豊宮陵会会長

平成28年3月27日

お詫び

宮陵会報第101号5ページに記載の「ホテルエクセル岡山」の所在地が違っていましたのでお知らせします。須藤様はじめ皆様にご迷惑をかけた事お詫び申し上げます。

正 岡山市北区石関町5-1-1  
誤 岡山市北区石積町5-1-1

# 平成27年度 教育研究奨励助成金

採用者	研究課題
<p>工学部 物質生命化学科 特別助教 齋藤 美和 (平17応化・平19工博前・平22工博後)</p>	<p>欠陥を導入した新奇プロント伝導体の合成と評価</p>
<p>工学部 機械工学科 助教 鈴木 健児 (平5機・平7工博前)</p>	<p>水圧駆動式パワーアシスト外骨格の試作</p>
<p>工学部 機械工学科 特別助教 加藤木秀章 (平19第二機・平21工博前)</p>	<p>超小型モビリティ用構造材料に用いる ジュート単繊維の疲労寿命の解明</p>





「神大スポーツ・文化振興賛助金募金」寄付者ご芳名(敬称略)

平成二十七年二月一日〜平成二十八年二月二十九日現在

課外活動団体へのご支援を賜り誠にありがとうございました。お受けいたしました寄付金は、ご指定の課外活動団体に回付し活用させていただいております。校友の皆さまのご厚情に心より感謝申し上げます。

課外活動団体毎に、ご芳名を五十首順に掲載いたしました。ご芳名の公表を希望されていない方については掲載しておりません。期間内にお申し込み、ご入金の確認ができました皆さまを掲載いたしました。金融機関の処理事情等により確認が遅れた場合は、本誌次号の掲載となりまのでご了承願います。

アーチェリー部
合計一件 五万円
荒川 信一 昭和59年

合気道部
合計三件 一万八千円
増田 裕司 昭和57年
匿名 二件

アメリカンフットボール部
合計七件
二百五十四万四千円
神奈川大学アメリカンフットボール部OB会

応援指導部
合計九件 十万八千円
神奈川大学鳥取因幡宮陵会
狩野 七郎 平成22年博前

空手道部
合計八件 四万五千円
伊藤 一嘉 昭和33年
大河内博夫 昭和57年

村橋 恒夫 昭和32年
山品 武 昭和31年

弓道部
合計七件 四万円
石塚 隆久 昭和42年
岡田 孝 昭和44年

剣道部
合計十件 九万四千円
朝枝 仁 昭和44年
大下 卓二 平成6年

硬式庭球部
合計六件 四万六千円
内村 博隆 昭和50年
田中 太吉 昭和44年

硬式野球部
合計四十八件 四十一万四千円
安達 勝之 昭和59年機修
熱海 一男 昭和41年

井手 国男 昭和34年
伊藤 直樹 平成23年

小川 迪也 昭和33年
榎山 文夫 昭和42年

今野 紀 昭和32年
坂田 健 昭和48年

関川 広男 昭和47年
関口 宏 昭和26年

吉武 誓義 昭和38年機修
山田 光雄 昭和56年
矢島 肇 昭和29年

ゴルフ部
合計六件 八万七千円
新井 好幸 昭和31年

尾脇 正敏 昭和41年
菅野富士雄 昭和43年

伊藤 薫 昭和54年
稲垣 達也 平成16年

女子サッカー部
合計二十七件 二十九万二千円
神奈川大学津久井宮陵会

長嶋 幸生 昭和34年
関川 広男 昭和47年
鈴木 宏 昭和29年

中野 正一 昭和45年
長見 幸博 昭和55年

早津 暁 平成23年
福本 俊平 昭和30年

石盛 三男 昭和36年
金子 惇信 昭和38年

柔道部
合計五件 一万九千円
井村 国彦 昭和42年

水泳部
合計十八件 十万七千円
奥山 勇 昭和30年
丸尾 幸雄 昭和47年

桂川 幹司 昭和42年
狩野 七郎 平成22年博前

早津 暁 平成23年
松崎 孝一 昭和50年

山岳部
合計八件 五万六千円
石盛 三男 昭和36年

スキー部
合計一件 三万円
神奈川大学秋田県宮陵会

準硬式野球部
合計一件 三万円
田中 太吉 昭和44年

卓球部
合計十件 五万七千円
池本 幸雄 昭和51年

大友 英輔 昭和36年
河田 郁夫 昭和42年

テコンドー部
合計一件 三万円
中村 盛高 昭和53年

軟式庭球部
合計十件 十万円
陸井 隆夫 昭和41年

男子バスケットボール部
合計七件 二十三万四千円
今寺 六蔵 昭和31年
打田 一夫 昭和48年

匿名 二件

●女子バスケットボール部

合計七件 七万三千元

- 漆原 彰 昭和47経
- 篠原 孝範 昭和46電
- 成田 秀之 特別会員
- 平能 孝一 昭和48電
- 安原 広之 平成21経営

匿名 二件

●バドミントン部

合計一件 千円

- 坂田 辰男 昭和63法

●男子バレーボール部

合計五件 二万八千元

- 佐野 敏夫 昭和42経
- 辰巳 孝 昭和17電
- 浜野正次郎 昭和47機
- 吉田 源吾 昭和29短商

匿名 一件

●女子バレーボール部

合計一件 二千元

- 吉田 源吾 昭和29短商

●平塚軟式野球部

合計三件 一万五千元

- 石井謙太郎 平成22経営
- 芝田 正夫 昭和46応化
- 水野 貞 昭和34経

●ボクシング部

合計七件 三万七千元

- 黒田 勲 昭和39経
- 寺地 俊彦 昭和34法
- 樋口 隆 平成21電
- 藤原 幸雄 昭和31法
- 村上 一夫 昭和46経
- 山下 鉄洋 昭和42経

●ボテビブル部

合計三件 四万三千元

- 木谷 健一 昭和47経
- 清水 茂 昭和47応化
- 田角 澄二 昭和56法

●ヨット部

合計一件 二万円

- 狩野 七郎 平成22経博前

●ラグビーフットボール部

合計六件 四万五千元

- 太田 素直 昭和36経
- 岡 深也 昭和20経
- 小柳 大輔 平成14経
- 更谷 欣之 平成2法
- 山内 國昭 昭和39工經

匿名 一件

●男子ラケット部

合計一件 五千元

- 平出 功 平成13化博前

匿名 二件

●女子ラケット部

合計二件 八千元

- 平出 功 平成13化博前
- 本多 正博 昭和52法

●陸上競技部

合計三百九十九件

- 二百八十一万五千九百九十六円
- 神奈川県茨城県宮陵会
- 神奈川県三洋みやも会
- 神奈川県千葉県宮陵会
- 神奈川県津久井宮陵会
- 神奈川県南足柄宮陵会
- 神奈川県和歌山県宮陵会
- 九州ブロック会議参加者一同
- 北越銀行宮陵会
- 相沢 清隆 昭和29経
- 相原 充 昭和46法
- 青木 一雄 昭和46経
- 赤坂 州教 昭和43電
- 赤津 敏彦 昭和43電
- 朝倉 幹雄 昭和38応化
- 浅野 博之 昭和43電
- 安達 勝之 昭和59機修
- 安達 好春 昭和31電
- 厚地 清實 昭和40経
- 熱海 一男 昭和41機
- 荒井 良和 昭和30経
- 新井 好幸 昭和31経
- 荒瀬 康雄 昭和47英

飯島 昭 昭和52法

飯田 千穂 昭和19電

飯田 敏一 昭和45電

飯塚 哲夫 昭和53電

飯森 隆之 昭和24法

五百川尚彦 平成6法

五十嵐 惇 昭和33電

五十嵐敬一 昭和63応化

石川 隆一 昭和33電

市原 昭人 昭和23電

井手 国男 昭和34電

伊藤 薫 昭和54法

伊藤 信明 昭和36機

伊藤 信二 昭和16商

伊藤 紀男 昭和40経

伊東 久 昭和35経

井上 勝博 昭和45経

井口 淳 昭和62機

今泉 勝彦 平成10経

今関 治夫 昭和55経

今西 正和 昭和57法

井村 國彦 昭和42電

井本 昭雄 昭和42電

岩城 剛 昭和42経

岩崎 春夫 昭和46建

岩崎 鈞 昭和35機

岩田 光彦 昭和50機

岩部 肇 昭和35電

植木 清明 昭和40経

白井 清 昭和38機

宇高 照季 昭和34電

内村 博隆 昭和50建

江村 茂 昭和31経

江崎 信明 昭和38経

遠藤 徹 昭和36法

大石 正志 昭和49経

大石 光利 昭和48法

大門 悟朗 昭和31電

大島 治 昭和33経

太田 豊作 昭和30経

大竹 鷹夫 昭和41法

大竹 良一 昭和34経

大塚 庸次 昭和45西

大坪春之助 昭和25電

大野栄太郎 昭和15電

大橋 完二 昭和32電

岡田 光一 昭和49応化

岡田 哲雄 昭和48経

小川 稔 昭和45応化

尾崎 宏孝 昭和44経

小田 龍夫 昭和29電

小野里祐治 昭和49機

尾松 英夫 昭和48法

河西 健三 昭和42経

笠井 崇宏 平成13経工

風間 光雄 昭和45電

楳山 迪也 昭和33経

片又 英行 昭和46法

桂川 幹司 昭和42経

加藤 真央 平成23生物

香取 美正 昭和41経

下保 元二 昭和33機

鎌田 幸男 昭和31法

上坂 正教 平成元法

神原 敏明 昭和50法

神谷 繁 昭和47電

川上 安己 昭和31経

川口 静夫 昭和41機

川崎 常治 昭和41機

河崎 泰秀 昭和48電

川島 健治 昭和49機

川名 茂 昭和37法

川西 栄一 昭和34電

川畑 博道 昭和34法

川間 公雄 昭和57経

川本 健次 昭和61応化

菅野 坦 昭和40電

鬼海 精治 昭和32法

北原 正夫 昭和37経

北村 嘉一 昭和38電

木原 豊 昭和44経

木村 紀一 昭和39応化

木村 則雄 昭和50機

木谷 三夫 昭和47法

久貝 剛士 昭和45法

工藤 博臣 昭和51電

熊谷 清貴 昭和55法

栗山 邦彦 昭和51法

紅林 宏 昭和43経

黒川 正浩 昭和54法

黒沢 博道 昭和35法

黒飛 勝幸 昭和31電

源馬 幹一 昭和43電

小泉 敏男 昭和42法

香西 正敏 昭和42電

上妻 初生 昭和56電

小島 健司 昭和43法

後藤 常次 昭和23機

小沼 輝宏 昭和42法

小林 一雄 昭和37法

五味 稔 昭和54経

小室 正弘 昭和58法

近藤 真伸 平成16法

芥木 功 昭和38電

西條 豊明 昭和45機

齋須 徳男 昭和28短機

齋藤 武三 昭和34法

齋藤 孟 昭和34電

齋藤 正紀 昭和48経

齋藤 義高 昭和48英

神原 剛 昭和42経

坂田 辰男 昭和63法

佐々木珠子 平成26英

佐藤 米 昭和53経

佐藤 慎伸 昭和52法

佐藤 眞市 昭和36電

佐藤 眞市 昭和43経

佐藤 節夫 昭和43経

佐藤 道男 昭和51法

佐藤 雄平 昭和45経

佐分利 章 昭和43経

澤田 博夫 昭和41電

椎橋喜代司 昭和46経

篠原 政行 昭和50工經

芝田 正夫 昭和46応化

柴田 正信 昭和49経

渋谷 敏子 平成6短法

島崎 一二 昭和44英

清水 悦子 昭和39電

島野 宏 昭和54法

下川 貞夫 昭和20機

進藤 守 昭和47電

菅野富士雄 昭和43法

鈴木 金治 昭和29電

鈴木 清一郎 昭和31経

鈴木 忠仁 平成9経営

鈴木 龍男 昭和39電

鈴木 宏 昭和29経

鈴木 文臣 昭和50電

清田 智也 平成7英

関口 正幸 昭和39経

関根 和利 昭和31経

平良 東明 昭和34経

高垣 正道 昭和44法

高木 定夫 昭和48経

高杉 茂一 昭和45機

高田 武志 昭和31機

高成田泰宏 昭和57経

高場 則夫 昭和49経

高橋 朝生 昭和20経

高橋 清 昭和40電

高橋 建夫 昭和42工經

高橋 實 昭和46経

瀧口 敏行 昭和38電

瀧澤 隆一 昭和35機

田角 澄二 昭和56法

辰巳 孝 昭和17電

田中 忍 昭和50法

田中 太吉 昭和44電

田中 卓也 昭和41経

田中 敏夫 昭和42経

田中 豊 平成2経

田畑 茂 昭和28短商

玉井 廣道 昭和28法

玉木 浩雄 昭和41経

田村 晃佑 昭和39法

千代 正孝 昭和37機

千葉 清悦 昭和63経

中元寺松男 昭和35電

津田 滋 昭和39電

津村 宜宏 昭和51経

戸ヶ崎 実 昭和37電

砥上 忠久 昭和35機

徳田 裕子 昭和48英

戸田 利治 昭和40経

外之内信浩 平成12応化

内藤 英雄 昭和37法

内藤 博人 平成27経営

長岡 克美 昭和63経

長岡 秀明 昭和59電

中川 陽介 平成19電博前

中島 啓造 昭和43機

中園 貢 昭和32法

長沼 芳人 昭和44経

中野 正一 昭和45経

中村 昭則 昭和53経

中村 保弥 昭和41電

中本 唯史 昭和46法

南雲 忠男 昭和36法

夏秋 博隆 昭和48法

鍋島 一博 昭和51法

西 耕一 昭和17商

西ヶ谷義光 昭和52法

西川 忠雄 昭和33経

西原 茂明 昭和31電

西巻 義彦 昭和51法

西森 義博 昭和44英

二宮 幸吉 昭和29法

野田 忠典 昭和49経

野田 浩 昭和41機

野中 良則 昭和51電

計屋 圭宏 平成11経営博前

橋本 元 昭和26法

長谷川 誠 昭和41工經

長谷川 肇 昭和36経

島山 耕一 昭和35経

塙 英雄 昭和20電

浜上 尚 昭和37工經

浜野 悦雄 昭和56機

林 直行 昭和34電

東 陸奥雄 昭和48経

日向 紀明 昭和53経

平隈 博 昭和37機

平田 卓也 昭和36経

平野 直伸 昭和55機

深澤 稔 昭和35電

福井 友春 昭和34経

福内 瑞男 昭和40電

福尾 和雄 昭和29短商

福鳥 経夫 昭和32経

福田 昇三 昭和31短電

福田 節雄 昭和30経

福田 陽一 昭和56電

福永 幹男 昭和44経

福世 義己 昭和47建



若松 孝侑	昭和31機
若林 義人	平成17経工
若林 秀明	昭和39経
米盛 淳	昭和36寛
米木 稔	昭和45法
吉村 一男	昭和44経
吉田 武弘	昭和51経
吉田 曠二	昭和36機
吉田 敬一	昭和59工経
横山 一憲	昭和32機
横山 盛雄	昭和49機
横山 知巳	昭和20機
横山 一郎	平成10経
横地 宏和	平成13経
与倉 近房	昭和50経
与倉 秀雄	昭和23経
山本 久男	昭和34経
山田 吉修	昭和40電
山田 賢	昭和41経
山田 房康	昭和48寛
山田 武	昭和23経
山品 武	昭和31電
山崎 昌治	昭和38機
山崎 敏郎	昭和59経
山崎 和夫	昭和22法
山岸 敬明	昭和41寛
山上 禎子	昭和26法
矢野 龍男	昭和29電
柳沢 康弘	昭和32経
安田 政夫	昭和30短商
森光 俊夫	昭和38寛
目黒 英昭	昭和37経
村瀬 恒雄	昭和53寛
村上 朋正	昭和31経
村上 邦彦	昭和45寛
村上 正	昭和40電
武笠 健次	昭和41法
向出 茂	昭和31寛
宮嶋 清明	昭和43経
宮嶋 邦雄	昭和24機
宮坂 武治	平成22応化博前
峰尾 文男	昭和35経
三谷 勝男	特別会員
水迫 順一	昭和38寛
三澤 哲也	昭和36経
満足 篤美	昭和40経
松本 正彦	昭和39寛
松本 豊馬	昭和38寛

脇坂 武浩	昭和59機
渡辺 完世	昭和45経
渡辺 邦雄	昭和56法
渡辺 公平	昭和34電
匿名 八十四件	
●レスリング部	
合計七件	十六万五千円
井野 裕	昭和46電
西森 義博	昭和44英
房野 隆之	昭和36法
藤田 欽也	昭和39法
向出 茂	昭和31寛
吉田 武弘	昭和51経
匿名 一件	
●囲碁部	
合計二件	八千円
小林 利久	昭和49機
匿名 一件	
●カレッジサウンス	
オーケストラ	
合計三件	四万三千円
安元 武史	昭和60法
匿名 二件	
●管弦楽団	
合計六件	四万千円
富田 清	昭和50寛
西森 義博	昭和44英
匿名 四件	
●混声合唱団クールアレンジ	
合計二件	六千円
船越 勝衛	昭和32経
匿名 一件	
●GLOBAL☆VEN☆LEAP	
合計一件	五万円
清水 悦子	昭和54法
●劇団河原乞食	
合計一件	五千元
匿名 一件	
●サイクリング愛好会	
合計一件	六千元

金澤 優太	平成25法
●茶道研究部	
合計四件	三万円
桂川 幹司	昭和42経
小沼 輝宏	昭和42法
角田 裕昭	昭和39寛
村橋 恒夫	昭和32電
●写真研究部	
合計四件	二万八千円
小泉 貞夫	昭和30短商
千葉 陽史	昭和59経
中元寺松男	昭和35寛
匿名 一件	
●JAZZ研究会	
合計二件	一万二千元
匿名 二件	
●将棋部	
合計三件	一万三千円
野田 忠典	昭和49経
福本 俊平	昭和30電
匿名 一件	
●書道部	
合計二件	四千元
片又 英行	昭和46法
益田 和典	平成4法
●神大フェスタ実行委員会	
合計五件	二万九千円
植木 清明	昭和40経
河野 宏和	平成8生物
鈴木 健史	昭和55法
林 邦彦	昭和43寛
林 直行	昭和34電
●吹奏楽部	
合計二十二件	十八万五千円
五十嵐 惇	昭和33電
大石 勝義	昭和47経
狩野 七郎	平成22経博前
菊池 武人	昭和43法

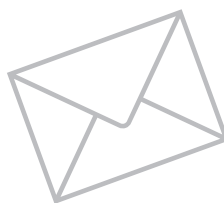
芝田 正夫	昭和46応化
清水 悦子	昭和54法
高橋 清	昭和40電
瀧澤 隆一	昭和35機
田中 敏夫	昭和42経
田山 祥一	昭和62法
手塚 勝美	昭和42法
富田 清	昭和50寛
西森 義博	昭和44英
計屋 圭宏	平成11経営博前
橋谷田征司	昭和40経
林 直行	昭和43電
肥田 俊明	昭和43経
松野 剛	昭和41寛
松本 豊馬	昭和38寛
宮嶋 清明	昭和43経
匿名 二件	
●鉄道研究部	
合計五件	四万円
阿部 文孝	昭和46経
橋川 昌弘	昭和41応化
辰巳 孝	昭和17寛
田中 佳久	昭和46建
古川 岳男	昭和62法
●美術研究部	
合計一件	五千元
清水 弘	昭和42経
●放送研究会KBA S	
合計一件	三千元
匿名 一件	
●ワンダーフォーゲル部	
合計四件	四万三千元
匿名 四件	
●IVUSA	
合計一件	五千元
柴田 一喜	昭和50法
●映像研究会	
合計一件	五千元
林 邦彦	昭和43寛

●手話サークル303	
合計一件	千円
匿名 一件	
●フォークス	
合計一件	一万円
竹内 昭	昭和48応化
●英語研究部(E.S.S)	
合計七件	二万五千円
伊藤 紀男	昭和40経
島崎 一二	昭和44英
清田 智也	平成7英
田中ゆき子	昭和50英
戸田 利治	昭和40経
根本 勤	昭和29寛
匿名 一件	
●横浜蒼碧法律会	
合計一件	三千元
匿名 一件	
●法律家のたまご	
合計一件	千円
片又 英行	昭和46法
●航空工学研究部	
合計四件	一万二千元
五十嵐 惇	昭和33電
望月 和良	昭和43機
匿名 二件	
●自動車工学研究部	
合計三件	五万六千元
長谷部 理	昭和40経
柳下 恭輝	昭和28機
匿名 一件	
●内燃機関研究部	
合計四件	六万六千元
本田 進	昭和48機
柳下 恭輝	昭和28機
吉田 曠二	昭和36機
匿名 一件	

◎総合計 八百五十二万千九百九十六円(七百五十九件)

# 地域組織だより

- 北海道ブロック会(札幌)  
東北ブロック会(宮城県)  
北陸ブロック会(石川県)  
近畿ブロック会(奈良県)  
中国ブロック会(広島県)  
四国ブロック会(愛媛県)  
九州ブロック会(鹿児島県)  
神奈川ブロック会(神奈川県)
- 函館総会  
帯広総会  
室蘭総会  
釧路総会  
苫小牧総会  
旭川総会  
旭見総会  
岩手県総会  
秋田県総会  
秋田県鹿角地区会  
山形県総会  
山形県庄内地区会  
山形県置賜地区会  
山形県村上地区会  
福島県総会  
新潟県総会  
千葉県総会  
茨城県総会  
栃木県総会  
栃木県臨時総会  
群馬県総会  
群馬県毛塚総会  
静岡県西部総会  
愛知みやも会総会  
愛知みやも会臨時総会  
岐阜県総会  
三重県総会  
大阪府総会  
和歌山県総会  
兵庫県総会  
京滋総会  
岡山県総会  
山口県(防長)総会  
鳥取伯耆総会  
鳥取因幡総会  
鳥取県総会  
香川県総会  
愛媛県宇和島地区総会
- 高知県総会  
福岡総会  
筑豊総会  
北九州総会  
佐賀県総会  
長崎総会  
佐世保総会  
熊本県総会  
熊本県鹿屋会  
大分県総会  
沖縄県臨時総会  
同学会上海総会  
同学会大連総会  
磯子区総会  
神奈川区総会  
南区臨時総会  
南区総会  
保土ヶ谷・旭区総会  
戸塚・栄区総会  
横浜北総会  
湘南区総会  
相模原総会  
秦野市総会  
相模町総会  
平塚市総会  
西多摩総会  
南足柄総会  
三浦半島総会  
茅ヶ崎・寒川総会  
三洋みやも会  
神奈川大学学内総会  
川本工業総会  
社労士総会  
三十路総会  
珊瑚の会総会  
陸上競技部OB会総会  
バスケットボール部OB会総会  
空手部OB会総会  
柔道部OB・OG会総会  
レスリング部OB会総会  
ラグビー部OB会総会  
卓球部OB会総会  
ヨット部OB会総会  
学士山岳会総会  
硬式野球部OB会総会  
写真研究部OB会総会  
吹奏楽部OB会総会  
男子ラクロス部OB会総会  
横浜信用金庫総会



## 北海道ブロック会(札幌)

平成27年5月30日

- ① 常務理事 小林 孝吉  
会長 野野 七郎
- ② 事務局 根本 郁恵  
札幌プリンスホテル国際館パミール
- ③ 83名
- ④ 今年度は、札幌宮陵会が北海道ブロック会議の開催担当であったため、札幌宮陵会総会を併せて開催いたしました。



第18回北海道ブロック会議は、道内各宮陵会の代表が出席され、また札幌宮陵会会長が見守るなか、鈴木英司会長の急逝に伴い引継ぎされた佐藤隆良会長の挨拶に続き、神奈川大学常務理事小林孝吉様より大学の現況等の報告があり、神奈川大学宮陵会からは札幌会への出席が初めてと言う狩野七郎会長よりお祝いの言葉と同窓会活動の現況等が報告されました。続いて、道内7宮陵会の代表より、各会の活動状況報告、大学本部への要望等が報告されました。時間の制約もあり、報告中心の会となり、今後のブロック会議のあり方を考えさせられる会となりました。

札幌宮陵会平成27年度総会は、今年度限り事前に決算報告書等の議案を会報で通知したことで、各議案の一括承認で終了させていただきました。

また、今年度は当会の創立75周年の年でもあることから、神奈川大学副学長の斎藤隆弘教授による記念講演を開催し、「脳に学び脳を超える(脳のリソースエンジニアリング)」機械の知能化とその社会への影響」のテーマで、出席

- ⑤ 者のみなさんからは大変ご好評をいただき終了しました。引き続き行われた懇親会は、狩野会長の乾杯に続き、アカペラコーラス、ビンゴゲーム等盛り沢山のプログラムで楽しく賑やかな時間を過ごしました。
  - 懇親会の後は、恒例の出席者全員による校歌斉唱、次回ブロック会議開催担当の旭川宮陵会山本事務局長の祝杯で終了となりました。
  - 記念撮影の後、札幌の夜景を一望できる28Fのラウンジでの二次会へ移行しさらに交流を深めました。
- 札幌宮陵会のホームページでは、ブロック会議等一連の様子を公開していますのでご参照下さい。
- また、当日は懇親会の冒頭で、故鈴木英司会長夫人へ狩野会長より「功労表彰」が伝達されたことを付加文させていただきました。
- 5月 第18回北海道ブロック会議開催
- 神奈川大学札幌宮陵会平成27年度総会・創立75周年記念講演会
- 7月 神奈川大学父母懇談会参加  
札幌宮陵会親睦ゴルフ大会
- 8月 夏のビール会

- ① 大学・宮陵会からの出席者(役職は当時)
  - ② 開催場所
  - ③ 参加人数
  - ④ 開催コメント
  - ⑤ 活動(年間予定)
- ※組織名称の神奈川大学・宮陵会は省略致しました

## 東北ブロック会(宮城県)

平成27年11月14日

- ① 理事長 正野 幸延  
副理事長 間中 晟  
専務理事 佐藤 武
- ② 仙石レオパレスホテル
- ③ 32名
- ④ 今年度の宮城県総会は、11月第2土曜日の開催となりました。
- ⑤ 総会は、今年も「校歌斉唱」で始まり、そのうち、本年度に亡くなられた会員の方々に黙とうを致しました。宮城県宮陵会竹谷副会長の開会挨拶から始まり、浅野会長挨拶後、議事に入りました。



- ① 高森幹事長進行の下「平成27年度事業・収支決算報告及び監査報告」「平成28年度事業計画・収支予算(案)」が承認されました。
- ② 15時より東北ブロック会議が引き続き執り行われ議長選出ののち、各県の活動等について発表がありました。特別講演として石巻市長工学博士の亀山紘さん(昭和41年応用化学卒)を予定しておりましたが緊急の公務が入り、残念ながら講演は次回以降に繰り越すこととなりました。
- ③ 東北ブロック会終了後、懇親会に入りましたが、今回新たな顔も見受けられ、旧交を深めました。
- ④ この楽しみを会員に行き渡るよう、お互いに声掛け合っており、合うことを確認し、最後に母校の「箱根駅伝サウンド権獲得」を目指し、応援歌を斉唱して盛会のうち

## 北陸ブロック会(石川県)

平成27年10月10日

- ① 常務理事 小林 孝吉  
副会長 宇野 峰雪  
ホテリ金沢(金沢駅前)
- ② 35名
- ③ 第19回神奈川大学宮陵会北陸ブロック会の次第。
- ④ 北陸ブロック会議・北陸3県の活動報告。来賓の岩手県宮陵会・宮澤俊次会長の挨拶。大学・宮陵会から現況報告。大学と宮陵会の維持発展に向けての意見交換。
- ⑤ 石川県宮陵会定期総会・活動報告・会計報告・規約改正・役員改選案を承認。
- ⑥ 記念講演会・演題「神大創立百周年へ向けた将来構想」、講師・小林孝吉常務理事。
- ⑦ 懇親会・参加56名。来賓挨拶のあと飲談。津軽三味線の演奏もあり食べて飲んで大いに語り、大抽選会で盛り上がる。また、岩手県の宮澤会長、神大のボランティア駅伝チャリテイラーズを続ける津軽三味線・永村さんなど東日本大震災と繋がり深く、会場で復興支援の義捐金を募ったところ31,600円の善意が集まり、宮澤さんを通して岩手県に寄付する。そして後半は、校歌・応援

- ① 理事長 正野 幸延  
秘書室 谷口 奈々子  
会長 大場 恵治  
専務理事 平能 孝一
- ② 近畿ブロック会(奈良県)
- ③ 平成27年10月3日
- ④ ☆県内会員名簿の精査  
☆若手役員・女性会員の取り込み検討
- ⑤ ☆当地での父母懇談会への参加  
☆暑気払いの納涼ビアパーティー開催(準会員(現役学生)への呼びかけ検討)
- ☆年末の役員会・懇親会の開催。





① 理事 正野 幸延

**四国ブロック会(愛媛県)**  
平成27年9月12日

- ・事務局長 根本 郁恵
- ・ホテル日航奈良 奈良会員7名
- ③ 27年度総会は近畿ブロック会議・近畿ブロック会との同時開催であったことから、奈良県総会は報告事項のみとし、会員全員両会に参加し、大学理事長、宮陵会会長からの話を熱心に聞き母校への思いを新たにされた。
- ④ 28年度総会をどういう形にするか、今後詰めていくことを確認した。
- ⑤ 総会 9月末・10月初

- ① 理事 正野 幸延
- ② 秘書室 関口 絢子
- ③ 会長 大場 憲治
- ④ ホテルセンチュリー21広島 来賓3名を含み94名
- ⑤ 大学より正野幸延理事長、秘書室関口絢子様、宮陵会より大場憲治会長のご出席を頂き、大学の近況、今後の計画やノーベル賞候補の先生の話、駅伝部の強化内容、会館建設等興味の湧く、また楽しい話をして頂きました。

**中国ブロック会(広島県)**  
平成27年11月28日

- ① 企画運営委員会の開催(年4回程度計画)
  - ② 神奈川大学後援会主催の父母懇談会への出席
  - ③ 一般社団法人神奈川大学宮陵会主催の「全国地域組織代表者会議」への出席
  - ④ 中国ブロック会議への出席
  - ⑤ 広島県宮陵会親睦ゴルフコンパ開催
- ・若年層対象の平成会、女性対象の女子会の結成

- ① 理事 正野 幸延
- ② 秘書室 馬場 忠志
- ③ 副会長 古川 勝彦
- ④ 専務理事 平能 孝一
- ⑤ 城山観光ホテル



- ① 理事 正野 幸延
- ② 秘書室長 馬場 忠志
- ③ 副会長 古川 勝彦
- ④ 専務理事 平能 孝一
- ⑤ 城山観光ホテル

- ① 常務理事 小林 孝吉
- ② 常務理事 吉井 蒼生夫
- ③ 事務局長 永和田 隆一
- ④ 会長 大場 憲治
- ⑤ 副会長 古川 勝彦



- ① 常務理事 小林 孝吉
- ② 常務理事 吉井 蒼生夫
- ③ 事務局長 永和田 隆一
- ④ 会長 大場 憲治
- ⑤ 副会長 古川 勝彦

- ① 常務理事 小林 孝吉
- ② 常務理事 吉井 蒼生夫
- ③ 事務局長 永和田 隆一
- ④ 会長 大場 憲治
- ⑤ 副会長 古川 勝彦

「第一回神奈川県ブロック会」を開催。

第一回神奈川県ブロック会当番担当役員

1. 磯子区 条 昭
2. 神奈川区 久米信行
3. 横浜西・中大江三雄
4. 藤沢 秋田琢次
5. 相模原 高橋一行

第1部 神奈川県ブロック会議  
出席者21名(事務局長 永和田隆一)

欠席者: 副会長 宇野峰雪、瀬谷・泉区 川口正寿、津久井 藤井保、茅ヶ崎・寒川 小坂谷義夫

第2部 記念講演会  
講師 理学部上村大輔 教授  
演題: 「生命のアイデアを、化学する」

第3部 懇親会  
1校歌斉唱、2挨拶・秋田会長、小林常務理事、大場会長、3乾杯

第4部 4閉会高橋会長  
第一回神奈川県ブロック会開催

反省会、兼 次年度地域組織担当への引継ぎ。

【案内地域組織名】

第一回当番地域組織 13名  
磯子区・条 昭、木村 仁、神奈川区・春原正三郎、久米信行、横浜西・中・大江三雄、小国 徹、葉師寺一正、藤沢・秋田琢次、間中 晟、佐藤 武、指旗 博、相模原・高橋一行、永和田隆一

次回28年度当番地域組織 10名  
南区・和田英雄、河崎泰秀、保土ヶ谷・旭区・山下 力、飯田泰弘、戸塚区・栄区・武笠健次、佐々木安則、箱根町・永峯唯夫、村上東司、平塚市・宮川文隆、黒部敏夫

- ① 専務理事 佐藤 武
- ② 和食 居酒屋 いちい
- ③ 18名 居酒屋 いちいにて、総会及び懇親会を開催
- ④ 総会では、佐藤専務理事より丁重に大学の現状報告があり、開催日が全日本箱根駅伝の当日と重なり、残念な結果を聞く事と相成り、来年の箱根に願いを込めての成果を祈りつつの総会を締めさせていただきます。
- ⑤ 昭和33年電気科卒の新しい役員が増え、来年の電氣も約束していただきました。今年度は、7名参加のゴルフも楽しみました。

- ① 事務部長 村川 浩幸
- ② ホテルグランテラス帯広 16名
- ③ 会員15名の参加を得て、7月17日に定例総会を開催しました。
- ④ 大学からは、村川学生生活支援部事務部長様のご臨席をいただきました。
- ⑤ 総会は、今年度は役員改選の年であり、野村会長以下新役員も無事決定し新体制の下、更なる同窓会活動の隆盛を決意し開会しました。



- ① 理事 久保 清治
- ② 管財部長 金丸 壽男
- ③ 室蘭市中央町 鳥居本店
- ④ 21名
- ⑤ 宮陵会から理事久保清治様、大学から管財部長金丸壽男様に出席していただき宮陵No.64で紹介されている元祖むろん焼き鳥の店鳥居本店で総会・懇親会を開催しました。総勢21名で毎年少しずつではありますが参加者も増えてい

- ① 事務部長 村川 浩幸
- ② ホテルグランテラス帯広 16名
- ③ 会員15名の参加を得て、7月17日に定例総会を開催しました。
- ④ 大学からは、村川学生生活支援部事務部長様のご臨席をいただきました。
- ⑤ 総会は、今年度は役員改選の年であり、野村会長以下新役員も無事決定し新体制の下、更なる同窓会活動の隆盛を決意し開会しました。

15年間支部長・会長を務めて昨年引退された門山廣文氏の功労表彰が久保理事から行われ長年のご苦労をねぎらいました。来賓のお二人からは神大の将来の変貌、グローバル化等大学の变化してゆく様子を話していただき、もう少し聞きたくしたのですが時間もなくなりました。懇親会では恒例の自己紹介が行われそれぞれ近況報告をし記念写真を撮って解散し2次会へと流れました。また皆さん地域組織のホームページの立ち上げに大変興味を持っていただき会員の増加・若返りに期待する等が聞かれ、イベントの案内や結果報告等いろいろ使えるねと楽しみにしております。

活動としては事務局に広報担当を置き、メール登録者向けに会員の日頃の活動の報告をしたり、月一度町内会広報にコラムを掲載されていくペンネーム「地虫さんこと(38年・法卒)」の街道重昭さんの「二ナルカの風」を宮陵会会員に向けて配信しております。

80歳に達して空閑水族館の案内ボランティアを始めた宮森康一さん(33歳)の情報は、地域で近所の子供たちに夏休ボランティアで勉強を教えている鳥山憲一さん(44歳)のことなどを配信しております。

開催イベントとして

- 1月4日 北海道ブロック協議会
- 5月30日 北海道ブロック協議会 出席 札幌
- 8月26日 親睦ゴルフコンパ
- 9月26日 室蘭ゴルフ倶楽部
- 10月24日 親睦パークゴルフ大会

室蘭宮陵会総会・懇親会



釧路総会

平成27年10月31日

- ① なし
- ② アクアホール
- ③ 19名
- ④

福島代表幹事の議事進行で総会を行い、平成26年度の収支決算を報告し会員の賛同を得て議事終了し、淀川一会長に総会挨拶をいただき、その後、川合隆俊副会長の乾杯の音頭で懇親会に入りました。出席者の中には久々の新入会員として、今年の春、転勤で釧路に着任した会員がいたり、また釧路の会として初めて女性会員の参加を得たりもした。懇親会ではゲーム等を行い、世を越えて青春を過ごした大学生活を思い起こしながら交流を深めました。最後に校歌斉唱を行った後、札幌顧問の一本締めで継続開催することを約束し総会、懇親会を終了しました。



2015年度 神奈川大学釧路宮陵会総会

苫小牧総会

平成27年9月26日

- ① 専務理事 佐藤 武
- ② グランドホテルニュー王子
- ③ 18名
- ④

来賓 佐藤 武様の出席を賜り、苫小牧宮陵会会員17名、総勢18名で苫小牧宮陵会総会を開催いたしました。土屋会長の挨拶で始まり、来賓の佐藤様から、大学の運動部の活躍、残念ながら法科大学院の学生募集停止報告及び大学の近況、また宮陵会会館の建設、事務局局長議事開催等の報告をいただいた後、

旭川総会

平成27年9月4日

- ① 学修進路支援部第二部事務部長 大塚 順子
- ② 旭川グランドホテル
- ③ 17名
- ④
- ⑤

本総会は年会費徴収が承認され懸念であった資金難が解決された記念すべき総会になった。参加者の高齢化が進み若い会員の参加が期待されるも結果に結びついていない。郵送やメールでタイムリーに情報を送ることが確認された。南北300km以上はなれている地域



苫小牧宮陵会総会

旭川総会

平成27年9月4日

- ① 学修進路支援部第二部事務部長 大塚 順子
- ② 旭川グランドホテル
- ③ 17名
- ④
- ⑤

本総会は年会費徴収が承認され懸念であった資金難が解決された記念すべき総会になった。参加者の高齢化が進み若い会員の参加が期待されるも結果に結びついていない。郵送やメールでタイムリーに情報を送ることが確認された。南北300km以上はなれている地域



神奈川大学旭川宮陵会総会

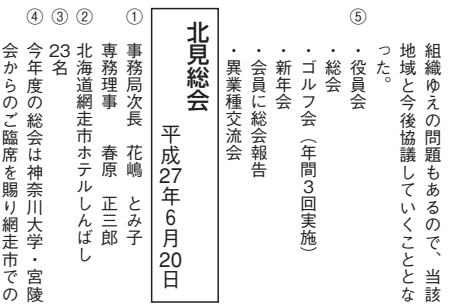
北見総会

平成27年6月20日

- ① 専務理事 花嶋 とみ子
- ② 専務理事 春原 正三郎
- ③ 北海道網走市ホテルしんぼし 23名
- ④
- ⑤

組織ゆえの問題もあるので、当該地域と今後協議していくこととなった。

- ・役員会
- ・総会
- ・ゴルフ会（年間3回実施）
- ・新年会
- ・会員に総会報告
- ・異業種交流会



北見総会

平成27年6月20日

- ① 専務理事 花嶋 とみ子
- ② 専務理事 春原 正三郎
- ③ 北海道網走市ホテルしんぼし 23名
- ④
- ⑤

組織ゆえの問題もあるので、当該地域と今後協議していくこととなった。

- ・役員会
- ・総会
- ・ゴルフ会（年間3回実施）
- ・新年会
- ・会員に総会報告
- ・異業種交流会



神奈川大学北見宮陵会総会

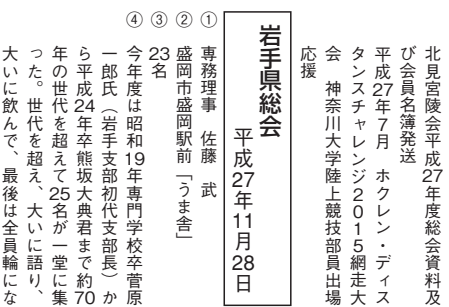
岩手県総会

平成27年11月28日

- ① 専務理事 佐藤 武
- ② 盛岡市盛岡駅前「うま舎」
- ③ 23名
- ④
- ⑤

北見宮陵会平成27年度総会資料及び会員名簿発送

平成27年7月 ホクレン・デイス タンスチャレンジ2015網走大会 神奈川大学陸上競技部員出場応援



岩手県総会

平成27年11月28日

- ① 専務理事 佐藤 武
- ② 盛岡市盛岡駅前「うま舎」
- ③ 23名
- ④
- ⑤

北見宮陵会平成27年度総会資料及び会員名簿発送

平成27年7月 ホクレン・デイス タンスチャレンジ2015網走大会 神奈川大学陸上競技部員出場応援



神奈川大学岩手県宮陵会総会

秋田県総会

平成27年5月16日

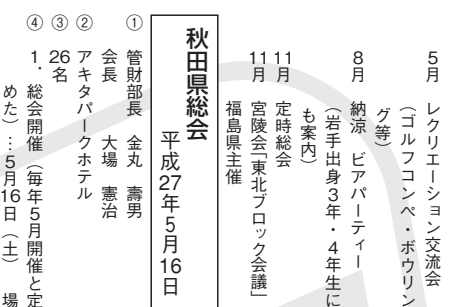
- ① 専務理事 佐藤 武
- ② 盛岡市盛岡駅前「うま舎」
- ③ 23名
- ④
- ⑤

レクリエーション交流会（ゴルフコンペ・ボウリング等）

8月 納涼 ビアパーティー（岩手出身3年・4年生にも案内）

11月 定時総会

11月 宮陵会東北ブロック会議 福島県主催



秋田県総会

平成27年5月16日

- ① 専務理事 佐藤 武
- ② 盛岡市盛岡駅前「うま舎」
- ③ 23名
- ④
- ⑤

レクリエーション交流会（ゴルフコンペ・ボウリング等）

8月 納涼 ビアパーティー（岩手出身3年・4年生にも案内）

11月 定時総会

11月 宮陵会東北ブロック会議 福島県主催



神奈川大学秋田県宮陵会総会

秋田県鹿角地区会

平成27年6月21日

- ① 秋田県宮陵会会長 伊藤 恵一
- ② 秋田県宮陵会幹事 齋藤 繁樹
- ③ 秋田県鹿角市 鹿角パークホテル 9名
- ④
- ⑤

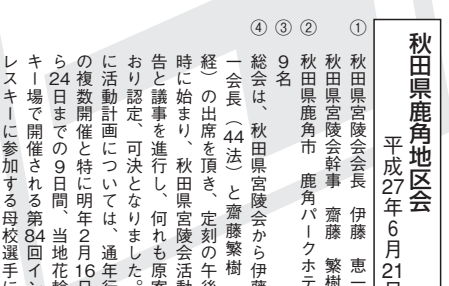
総会は、秋田県宮陵会から伊藤恵一（会長）と齋藤繁樹（51歳）の出席を頂き、定刻の午後4時に始まり、秋田県宮陵会活動報告と議事を進し、何れも原案どおり認定、可決となりました。特に活動計画については、通年行事の複数開催と特に明年2月16日から24日までの9日間、当地花輪スキー場で開催される第84回インカレスキーに参加する母校選手に対し、全面的支援を申し合わせ県宮陵会も応援を了承いたしました。

第84回全日本学生スキー選手権大会（インカレスキー）に参加する母校選手への全面的支援

・通年行事の複数開催

・合宿等の当地開催に対する要請とこれに対する支援

・神大の知名度アップへの積極的協力



秋田県宮陵会鹿角地区会総会

山形県総会

平成27年10月24日

- ① 内部監査室長 増子 義典
- ② 専務理事 春原 正三郎
- ③ 鶴岡商工会議所2F会議室
- ④ 18名
- ⑤

平成27年度総会は、庄内地区会が担当となり総勢18名の参加で開催され、大学及び宮陵会からも足労頂き、有意義な総会となりました。

世界一のクラゲ水族館に育て上げた前館長、村上龍男氏による講演





第47回 神奈川大学山形県宮陵会総会

はクラゲ飼育の想像を絶する苦勞話で、興味深く拝聴しました。懇親会も和やかなムードで進み、更なる発展を誓いお開きとなりました。

- 5 平成27年度は左記項目に重点を置き活動をして行く予定です。
1 県内四地区が独自に積極的な活動を行い、地区内の会員との交流を推進する。
2 大学・宮陵会から全国地区の情報収集し組織の活性化を図る。
3 大学からの課外活動等への協力依頼に対しては積極的な協力、行動する。
4 在校生及び保護者との交流を深め会員相互の協力を図る。

山形県庄内地区会

平成27年8月8日

- 1 なし
2 鶴岡市第一コミュニティセンター 予定18名(美12名)
3 組織(母体の)としては一番古い県内の会組織と自負していましたが、行事のマンネリ化と、新卒業生気質と思われるが、県総会と同様の現象をおこしています。201名のメンバーに総会案内を発送して、返信は90通あり、後はナシノツペテ。総会の席上、8月はあちらこちらの町で夏祭り等の行事があり、来年からは日程の変更等も考えてみよう等の意見も唯集まり会議をして、酒を飲み交わして雑談で懇親を深める旧態依然の形式も改めて考えなくてはと感じている。さて、来年の地区会はどうなっているか?形を変えても初めての試みになるから大した期待は出来ないだろうが...

山形県置賜地区会

平成27年7月26日

- 1 なし
2 山形県米沢市松川河川敷 11名
3 毎年恒例となりました置賜地区会ビアパーティーを今年も開催いたしました。当日は晴天に恵まれ、大変にぎやかで楽しい会となりました。また来年も引き続き開催する予定であります。
4 毎年7月頃 置賜地区会ビアパーティー
5 大学対抗ボウリング大会 ※忘年会、新年会を随時開催

山形県村上地区総会

平成27年8月27日

- 1 なし
2 12名
3 村上 村上地区会
4 5月 村上地区会
5 10月 山形県宮陵会

福島県総会

平成27年11月28日

- 1 学修進路支援部第二部事務部長 大塚 順子
2 専務理事 春原 正三郎
3 群山ビュートホテル 22名
4 役員改選では、藤田会長の退任が承認され、新会長には村上昌弘氏を選出され、それに伴い新事務局長には青木薫氏、新幹事には斎藤公



新潟県総会

平成27年11月14日

- 1 学長 石横 勝
2 副会長 宇野 峰雪
3 学修進路支援部第一部(教務部) 事務部次長 笠原 義和
4 総会 アオーレ長岡
5 懇親会 青木楼

平氏がそれぞれ選出された。また、次年度東北ブロック会議を群山市で開催することも決定した。平成28年11月、東北ブロック会議及び総会



千葉県総会

平成27年10月24日

- 1 人事部長 手戸 俊彰
2 副会長 間中 晟
3 バンディールホテル千葉 48名
4 大学から人事部長の手戸氏、宮陵会から間中氏を迎えての「千葉の集い」であった。まず始めに本会



会長の佐藤より挨拶があり、物故者4名の黙とうを行う。続いて、来賓者の紹介を行い、本会顧問の大槻士郎氏(S36経済)の音頭により乾杯宴会となる。事務局より本会の状況及び会計報告を行い、来賓の手戸氏より大学の状況、宮陵会間中氏より宮陵会の活動等のお話を頂く。又その後各卒業年度の方よりスピーチ、宮陵会理事永田晴彦氏(S58貿易)から大学のスポーツ活動の説明があった。本年箱根駅伝の予選会通過もあり、神大スポーツ活動の話題で盛り上がった。佐藤世司氏(S43法)の音頭により校歌及び応援コール(フレンドリー神大)を全員で行う。来年度の再会を誓い散会となった。

茨城県総会

平成27年6月13日

- 1 専務理事 佐藤 武
2 ホテルザスクエア 日立 25名
3 6月13日(土)開催地東北という事で、ホテルザスクエア 日立にて宮陵会総会を開催しました。各地区より25名の参加の中で総会、懇親会とお互いが懇親を深めさせて頂きました。本部からは佐藤武専務理事のご出席を頂き大学の近況報告を頂きました。
4 今回の県北開催は例年になく少人数の総会になったことが今後の課題として残りました。役員について話し合うテーマです。
5 余興として、星の鑑賞会、ペリー



ダンスと場を盛り上げ、出席された方は満足されたと思います。次回に向けてのテーマとして参加者へのアプローチ、また女性参加者の複数化へ試行錯誤してまいります。

栃木県総会

平成27年5月23日

- 1 事務局次長 勇 真一郎
2 専務理事 平能 孝一
3 宇都宮東武ホテルグランデ 30名
4 今年度は、会の創立50周年の節目の年であり、記念行事(ホームカミングデー参加・箱根駅伝応援等)を考えている。
5 また、昨年の叙勲(瑞宝単光章)を受賞した会員を紹介した。ホームページ立ち上げについて、本側側と足並みを揃えることとして、今回、初めて5名の女性会員の参加があった。



栃木県臨時総会

平成27年12月12日

- 1 なし
2 月あかり(宇都宮西口店) 22名
3 今年度前半の活動報告として、「父母懇親会への参加」「創立50周年記念事業(ホームカミングデー参加)」等を説明した。
4 また、ホームページ立ち上げについてサンプルを提示し、来年1月頃から本格稼働することを説明した。前回に続き、女性会員(3名)の参加があった。
5 上記役員会が終了後、忘年会に移行し会員の近況報告も行った。今後の予定
・3月 第2回ゴルフコンパ

群馬県総会

平成27年7月4日

- 1 情報システム推進部長 田島 和久
2 専務理事 春原 正三郎
3 エテルナ高崎5Fテイルレ 34名
4 群馬宮陵会は昨年10周年記念総会となりました。平成27年度は11年目に突入り、全員で「明るく、楽しく、元気よく」をモットーに頑張る所存です。会員皆様の御協力を宜しくお願い致します。
5 平成27年 5月17日 サークル活動 「親睦ゴルフコンペ」



- 7月 定期総会(懇親会)
- 8月 地方父母懇談会
- 10月 サークル活動
- 12月 「親睦ゴルフコンペ」
- 平成28年 役員会
- 2月 新年会
- 3月 役員会

**群馬東毛総会**  
平成27年7月4日

- ① 専務理事 佐藤 武
- ② 太田ランドホテル (群馬県太田市)
- ③ 19名
- ④ 新体制でスタートした1年も計画した事業計画をとおこりなく実行でき平成27年度の事業計画 予算、改選役員も全員の手で承認された。

・今総会にはご多忙の中、大学・宮陵会から佐藤武宮陵会専務理事のご来席により、宮陵会及び大学の近況等もご講話頂き大変有意義な総会となった。

・折しもワールドカップ女子サッカーでででしごジャバンの大活躍の最中であり総会の話題も盛り上がりの中で行われた。

・懇親会も和やかなうちに進み、歓談さらには会長のサククス演奏で盛り上がり最後に神奈川大学校歌の大合唱で閉会となった。

- ⑤ 4月 新年度第一回役員会
- 6月 第16回太田市 大学交流チャリティゴルフ大会
- 9月 群馬東毛宮陵会 平成27年度総会
- 9月 第二回役員会
- 10月 群馬東毛宮陵会 会員懇親ゴルフ大会



- 10/11(日) 神奈川大学 ホームカミングデー参加
- 12月 第20回太田大学ジャズフェスティバル(神大はカレッジサウンドオーケストラが参加)
- 1月 群馬東毛宮陵会 平成28年 新年会

**静岡西部総会**  
平成27年9月12日

- ① 大学施設部長 飯田 泰弘
- ② 副会長 宇野 峰雪
- ③ オークラクトシティホテル浜松 45F スカイバンケット
- ④ 35名

本年度は、宮陵会より宇野峰雪様、大学より飯田泰弘様をお迎えし総会、懇親会を開催致しました。講演会では、弁護士でもある宇野先生より、憲法についてのお話を頂き、安法法制が審議されていることもあり、参加者は熱心に聞き入っていました。

新年会でスタートし、年4回(5、6、7、9月)役員会を開催し、総会の打合せや、会の活性化について意見交換を行っています。

また、上記以外に女性部役員会を開催し、今後の女性部活性化について話し合っております。



**愛知みやも会総会**  
平成27年6月20日

- ① 財務部長 瀬田 高央
- ② 副会長 宇野 峰雪
- ③ 東京第一ホテル錦
- ④ 16名(当日3名欠席)

本年度は宮陵会より副会長宇野峰雪様、大学より財務部長瀬田高央様の出席を賜り、東京第一ホテル



錦にて開催しました。各議案の説明、報告の後承認されました。

会長より、当会が来年80周年を迎えること報告され、愛知県南部の委員の当会への関心協力を増加し、記念総会を盛大に開催したいとの計画を発表されました。それを受けて南部委員の親睦を計る為に三河地区懇親会を秋に開催するとの報告を受けました。

記念総会には、大学、宮陵会に多大なる協力要請を求償にお願いしました。その後、大学、宮陵会の現状報告をして頂き、記念撮影の後懇親会に入り、なごやかな雰囲気でお会合しました。

春季役員会  
春季ゴルフコンペ  
定時総会  
秋季ゴルフコンペ  
三河地区新規総会出席者増の為に懇親会

**愛知みやも会臨時総会**  
平成28年1月24日

- ① 愛知みやも会会長 多湖 秀明
- ② 愛知みやも会副会長 宮崎 雅博
- ③ 岡崎ニューグランドホテル
- ④ 15名

愛知みやも会の三河分科会として岡崎、豊橋周辺の在住者を中心に15名の参加者を得て徳川家康ゆかりの岡崎城となりの岡崎ニューグランドホテルの宴会場で和やかに開催致しました。

平成28年1月 愛知みやも会  
4月 三河分科会開催  
愛知みやも会  
春季ゴルフ大会

- 6月 愛知みやも会 総会(名古屋)
- 10月 愛知みやも会 秋期ゴルフ大会

**岐阜県総会**  
平成27年9月26日

- ① 資料編集室長 池原 治
- ② 専務理事 平能 孝一
- ③ 理事 多湖 秀明
- ④ 岐阜キャッスルイン
- ⑤ 21名

会長挨拶に続き大学、宮陵会ご来賓の方よりそれぞれ近況と今後についてご説明を頂きました。その後、収支報告、監査報告と進め、本年は役員改選期に当たるとため新役員を選出し、決定しました。会長に砥上忠久氏(S35機)が再任されました。写真撮影後懇親会に移り、歓談の中で全日本大学駅伝(伊勢路)出場、箱根駅伝予選会通過予想などの話で盛り上がりました。締で恒例となったウクレレ伴奏による校歌斉唱を行い、なごやかな雰囲気盛況のうちに終えることができました。

平成27年 9月26日 総会前に第一回役員会開催  
次年度活動計画と概略日程を決定  
12月初旬 東海ブロック愛知、岐阜、三重3県による意見交換会実施予定  
5月下旬 第二回役員会開催  
10月初旬 総会開催



**三重県総会**  
平成27年7月4日

- ① 内部監査室長 増子 義典
- ② 副会長 古川 勝彦
- ③ 津市羽所町700

④ ホテルグリーンパーク津 21名  
本年度の通常総会を、例年通り津駅前「ホテルグリーンパーク津」にて開催いたしました。神奈川大学からは、増子 義典様、また神奈川大学宮陵会からは、古川 勝彦様のご臨席を賜り、現在の大学・宮陵会の現状についてのお話を頂きました。

今回は昨年の反省を踏まえ、7月に開催いたしました。

結果的には、出席できる方、出来ない方が約半数の入れ替わりで前年度とほぼ同じ参加者数となりました。

出席者の皆さんは元気で、それぞれ歓談に楽しい時間を過ごされました。

- ◆目的  
・世代・地域を超えたネットワーク作り
- ◆目標  
・交流会出席者毎回20名
- ◆情報発信  
・神奈川大学三重県宮陵会HPでの情報発信と、メールの活用を推進する
- ⑤ ↓アドレス登録者にはメール送受信による情報交換を行う  
↓総会報告、交流会案内・報告はHP掲載とメール配信による
- ・第一回会員確認も兼ねて文章にて「総会案内」及び「MWS」を郵送する  
(平成27年)  
5月26日 第一回役員会(三役) 亀山市共同参画センターにて総会準備他  
7月4日 総会・懇親会(ホテルグリーンパーク津)  
8月2日 「神奈川大学後援会父母懇談会」(津都ホテル)  
8月下旬 第二回役員会・交流会準備  
10月10日 「全国地域組織代表者会議」(神奈川大学セレストホール)  
10月11日 ※神奈川大学ホームカミングデー  
11月1日 ※第47回 全日本大学駅伝対校選手権大会・沿道応援  
平成27年 後期 第14号  
平成27年 後期 MWSの発行  
平成27年 後期 第38回交流会



**大阪府総会**  
平成27年6月20日

- ① 研究支援部次長 田口 澄也
- ② 専務理事 平能 孝一
- ③ 大阪市北区 ハートンホールおよびラウンジ
- ④ 34名

今年度の総会は卒寿(昭和19年専断卒)の方から平成25年卒までの幅広い多くの方の出席に加えて多くの女性会員の出席もあり、例年になく雲間員の出席も多量に原案どおり承認され無事終えることが出来ました。

※今年度より新たにブロック会要領が宮陵会(本部)にて制定されたことを受け、近畿ブロック会を10月に「奈良で開催」することになり、他地域組織と共にブロック会を組織する大阪として非成功させるべく今年度の重点事業に掲げ、根来会長が内容について丁寧な説明を出席者に対してその趣旨と参加協力を呼びかけました。

なお、当日欠席者と年会費納入者に対しては総会報告と共に近畿ブロック会に関する事前予告と参加協力の資料を送付しました。

※第2部の講演会は当会員の元裁判所判事である高橋金次郎様に「裁判所でのよまやま話」のご講演をいただき、一般では知らないような領域での内容が大変好評でした。

※第3部の懇親会は女性会員をはじめ初参加や久々に出席された





方の自己紹介等もあり和気あいあいの中、盛会のうちに終えることが出来ました。

- ⑤ 1. 平成27年度総会  
平成27年6月20日(土)  
近畿ブロックに参加  
平成27年10月3日(土)  
平成28年2月6日(土) 予定  
4. 各種同好会の活動  
(1) ひろく旅する会  
国内旅行(ゴルフコンペも兼ねて検討)  
(2) スポーツ同好会  
会長杯ゴルフコンペの開催(年2回予定)  
5. 宮陵会関西倶楽部定例会の開催...毎月第4金曜日PM6時より  
6. 神奈川大学後援会主催の地区父母懇談会出席 平成27年7月4日 大阪第一ホテル  
◎年間を通じて、近畿地区内で開催される母校出場諸大会の応援参加  
(サッカー・シヨートトラックス・スピードスケート等)  
箱根駅伝応援の集い(大阪にて)

**和歌山総会**  
平成27年6月27日

- ① 事務局次長 勇 真一郎  
会長 大場 憲治  
ホテルグランヴィア和歌山  
27名  
本年度の総会は大学から勇事務局次長、宮陵会から大場会長をこ来



賓として出席いただきとともに、奈良県と兵庫県南支部から代表3名の方が出席してくださいました。地元和歌山県内からは数年前より参加下さった方々を含め22名の会員の出席となりました。

- ⑤ 1. 総会開催(年3〜5回)  
1. 総会開催  
1. 親睦ゴルフコンペ開催  
2. 新入会員勧誘(県内4ブロック)  
3. 新人会員勧誘(県内4ブロック)  
4. 神大各スポーツクラブ等への助成及び応援事業(当年はスビードスケートに神戸市内開催助成及び応援)  
5. 総会開催(年3〜5回)  
1. 総会開催  
1. 親睦ゴルフコンペ開催

**兵庫県総会**  
平成27年7月12日

- ① 事務局次長 佐藤 武  
専務理事 平能 孝一  
講師 勝又 章好  
神戸市シーサイドホテル舞子ビル  
26名  
今年度は、出来るだけ多くの会員の出席を促す為、総会のみの出欠、総会及び懇親会の出欠の2種類の回答が出来る案内状を送付しましたが、残念ながら出席者は昨年度より少ない21名の会員でした。ただ県北部但馬地区から1名の参加、又新しい会員2名の参加があり、これからも新会員の開拓

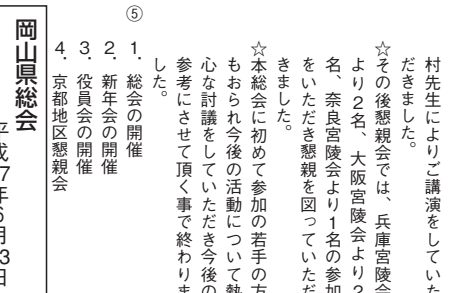


に力を入れたかと思っ居ります。

- ⑤ 1. 平塚事務部長 辻 洋一  
理学部化学科教授 上村 大輔  
副会長 宇野 峰雪  
京都新阪急ホテル  
25名  
☆総会で昨年度の事業報告・会計報告及び監査報告等議題はすべて承認されました。  
☆神奈川大学理学部化学科教授上

**京滋総会**  
平成27年6月21日

- ① 平塚事務部長 辻 洋一  
理学部化学科教授 上村 大輔  
副会長 宇野 峰雪  
京都新阪急ホテル  
25名  
☆総会で昨年度の事業報告・会計報告及び監査報告等議題はすべて承認されました。  
☆神奈川大学理学部化学科教授上



村先生によりご講演をさせていただきました。

- ⑤ 1. 図書館事務部長 堀江 美由紀  
専務理事 大場 憲治  
事務部長 春原 正三郎  
ホテルエクセル岡山  
35名  
今年度の総会では、大学・宮陵会からの来賓の方より、現状の大学の様子や今後の方向性についてお話をいただきました。  
新しく総会に参加された方のご紹介や、例年のゴルフ大会の表彰式が行われ、懇親会も盛況のものと無事に会が執り行われました。  
平成27年6月13日 岡山県宮陵会  
総会 計3回予定  
ゴルフ大会 計2回予定  
・同窓会向士の親睦とコミュニケーションを図る  
・中国ブロックの発展のための支援体制の強化を図る  
・大学本部との連携を強化する  
(受験生の増加に協力・運動部等課外活動への支援)

**岡山県総会**  
平成27年6月13日

- ① 財務部長 瀬田 高央  
副会長 間中 晟  
山口グランドホテル  
24名  
年度末の忙しいなかの開催に成りましたが、24名の参加を得て、生バンドの演奏もあり盛りあがった会になりました。  
本部と学校から2名の来賓を迎え、詳しくそれぞれの近況と将来展望を聞く事ができました。今年度は平成年度卒業の若い人もおられ

**防長(山口県)総会**  
平成28年2月20日



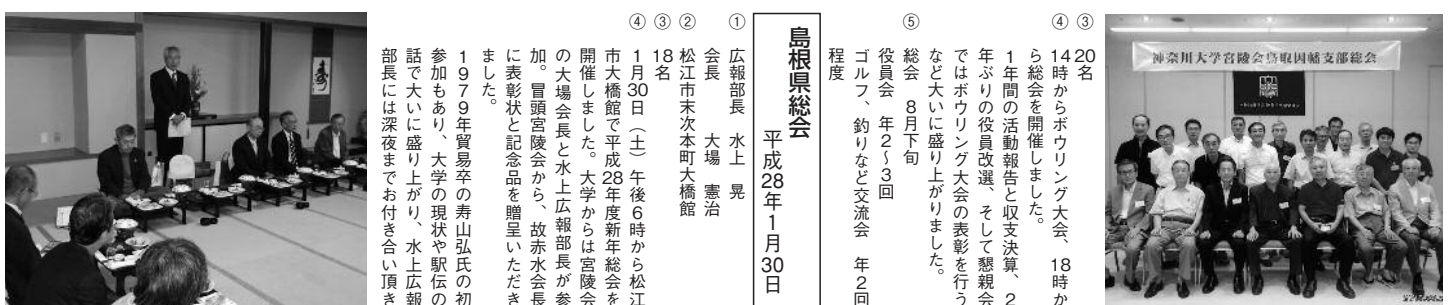
お互いの健康と今後の活躍を期待しました。

- ⑤ 1. 学修進路支援部第一部(教務部)事務部長 吉原 勇樹  
副会長 間中 晟  
米子ニューアーバンホテル  
22名  
本年度も大学、宮陵会よりお二人の来賓をお迎えし、第27回総会ならびに懇親会が開催されました。近年は山陰地区から母校へ進学する学生が少なくなっており、寂しい気持ちもありますが、定年後にUターンで故郷に帰ってこられるOBもおられますので、ぜひ本会に参加していただきたいと思っております。また今回で8回目を迎える特別講演では、瓶取集研究者「鳥橋博一氏(48年経済卒)」の「あたの知らない、ビンの世界」を拝聴しました。会場に展示された一品一品にまつわる興味深い講話でした。本年10月には箱根駅伝予選会の応援に有志一同で馳せ参じようと盛り上がったひと時でした。  
7月 総会・懇親会  
10月 箱根駅伝予選会への応援ツアー  
平成28年  
1月 新年互礼会  
5月 役員会及び会員増強活動

**鳥取伯耆総会**  
平成27年7月11日

- ① 事務局次長 吉原 勇樹  
副会長 間中 晟  
米子ニューアーバンホテル  
22名  
本年度も大学、宮陵会よりお二人の来賓をお迎えし、第27回総会ならびに懇親会が開催されました。近年は山陰地区から母校へ進学する学生が少なくなっており、寂しい気持ちもありますが、定年後にUターンで故郷に帰ってこられるOBもおられますので、ぜひ本会に参加していただきたいと思っております。また今回で8回目を迎える特別講演では、瓶取集研究者「鳥橋博一氏(48年経済卒)」の「あたの知らない、ビンの世界」を拝聴しました。会場に展示された一品一品にまつわる興味深い講話でした。本年10月には箱根駅伝予選会の応援に有志一同で馳せ参じようと盛り上がったひと時でした。  
7月 総会・懇親会  
10月 箱根駅伝予選会への応援ツアー  
平成28年  
1月 新年互礼会  
5月 役員会及び会員増強活動

**鳥取因幡総会**  
平成27年8月22日



14時からボウリング大会、18時から総会を開催しました。

- ⑤ 1. 広報部長 水上 晃  
会長 大場 憲治  
松江市末次本町大橋館  
18名  
1月30日(土)午後6時から松江市大橋館で平成28年度新年総会を開催しました。大学からは宮陵会の大場会長と水上広報部長が参加。冒頭宮陵会から、故赤水会長に表彰状と記念品を贈呈いただきました。  
1979年貿易卒の寿山弘氏の初参加もあり、大学の現状や駅伝の話で大いに盛り上がり、水上広報部長には深夜までお付き合い頂き

**鳥根県総会**  
平成28年1月30日

- ⑤ 1. 広報部長 水上 晃  
会長 大場 憲治  
松江市末次本町大橋館  
18名  
1月30日(土)午後6時から松江市大橋館で平成28年度新年総会を開催しました。大学からは宮陵会の大場会長と水上広報部長が参加。冒頭宮陵会から、故赤水会長に表彰状と記念品を贈呈いただきました。  
1979年貿易卒の寿山弘氏の初参加もあり、大学の現状や駅伝の話で大いに盛り上がり、水上広報部長には深夜までお付き合い頂き

⑤ 大学への熱い思いを語り合いました。  
未定です。

**香川県総会**

平成28年1月3日

- ① 副会長 古川 勝彦
- ② オークラホテル高松

④ 平成28年1月3日(日) 正午から香川県宮陵会総会を開催した。総会終了後、写真撮影を行い午後1時から懇親会を実施。箱根駅伝復路を会場大型スクリーンで応援観戦した。初めて参加した人や20年ぶりに参加された方もあったが、すぐに溶け込み神大グッズ争奪戦やカラオケ駅伝などを並行しながら会員相互の親睦と交流を深めあった。前年同様45名の参加者を数え、創立後初めての50名参加総会を視野に入れて今後取り組んでいきたい。

⑤ 平成28年

- 1月3日 総会・懇親会  
会報「神大レポート 第12号」を発行
- 2月 第70回香川丸亀国際ハーフマラソン大会応援
- 4月 役員会
- 5月8日 夏季親睦行事
- 5月9日 地方父母懇談会
- 6月 全国地域組織代表者会議
- 8月9日 2016日本学生トライアスロン選手権観音寺大会応援
- 10月11日 第22回四国ブロック会議(高知県主管)
- 12月 役員会



**愛媛県宇和島地区**

平成27年6月20日

- ① 愛媛地区 天野 誠司
- ② 愛媛地区 和中 俊介
- ③ 宇和島国際ホテル
- ④ 10名

⑤ 定刻午後4時より15分遅れの開催となりました。今回の地区会には愛媛支部より2名の方の参加があり、報告事項で、9月開催予定の四国ブロック会についての説明、報告がありました。約50分で閉会し、懇親会に移り、いつもの楽しい2時間半を過ごしました。

**高知県総会**

平成27年9月26日

- ① 広報部長 水上 晃
- ② 専務理事 春原 正三郎
- ③ ホテル日航高知 旭口イヤル
- ④ 28名

⑤ 文化講演会、地元企業人交住環境、奥田敏弘「迷走する太陽光発電」を演題に約45分間再生可能エネルギーについてわかりやすく話をいただいた。宮陵会有志による年2回のゴルフ大会の実施  
当日・他の有志を含め、懇親会の実施  
平成12年(前回)再度高知県宮陵会名簿作りの実施  
四国ブロック会平成28年9月17日(土)に決定



**福岡総会**

平成27年7月11日

① 研究支援部長 田口 澄也

⑤ 福岡、北九州、筑豊三地域対抗ゴルフコンペ  
於：西日本カントリークラブ(直方) 参加9名

④ 2月14日(日) 正午から恒例となった年に一度の総会を料亭、佐賀屋にて開催致しました。常に一人でも多くの参加者と努力しましたが今年は北九州宮陵会から4名、福岡宮陵会から2名の仲間が出席して頂き総勢20名となりましたが約3時間、箱根駅伝や病気の話題で大いに盛り上がり、2次会には借り切ったスナックに11名が参加し2時間、カラオケや楽しい語り時間に忘れ、6時前に来年の再会を約し散会致しました。



**筑豊総会**

平成28年2月14日

- ① 国際センター事務部長 松岡 博之
- ② 副会長 宇野 峰雪
- ③ 直方市古町 料亭、佐賀屋
- ④ 20名

⑤ 専務理事 平能 孝一  
ランドハイアット福岡 ザ・レソドローズ  
25名(福岡宮陵会16名)  
平成27年度福岡宮陵会総会では、今後の運営に関し貴重なご意見を頂き活発な議論の場となりました。ご意見に対しては真摯に受け止め今後益々会員の方が参加したくなる魅力的な会を目指して役員一同頑張りたいと思います。総会後の懇親会では、他の宮陵会の方々も交え賑やかな会となつた福岡宮陵会応援隊の演舞披露でさらに盛り上がった会となりました。



**北九州総会**

平成27年11月21日

- ① 専務理事 佐藤 武
- ② ホテルクラウンパレス小倉
- ③ 24名

⑤ 今年の出席者は、北九州宮陵会の会員14名、福岡宮陵会から6名から1名が初参加、来賓として1名の合計24名でした。近年、他地域との交流が盛んになってきています。福岡県の3地域の合同ゴルフコンペも恒例行事となつてきました。また、「神奈川大学福岡宮陵会応援隊」のヨサイ踊りもパワーアップして懇親会では大いに盛り上がりました。北九州からも1名がこの応援隊に参加して頑張っていました。



**佐賀県総会**

平成27年7月26日

- ① 学修進路支援部第一部(教務部)事務部長 笠原 義和
- ② 副会長 古川 勝彦
- ③ グラウンデはぐれ 11名(除、来賓)

⑤ 来賓として上記お二人に加え、津田滋九州ブロック長様のご臨席を賜り、宮陵会本部及び大学の最新情報、九州各県の情報等をご提供頂きました。議題であった予算、決算の議案は原案通り全会一致で承認可決された後、今回は、会員相互の人脉を活用することが、本会の活性化につながる一つの有効な方法といつて



**長崎総会**

平成28年1月30日

- ① 情報システム推進部長 田島 和久
- ② 副会長 間中 晟
- ③ 諫早市レストラン古都 16名

⑤ 本部からは、卒業生の2親等以内の子弟に対する入試制度、就職部と宮陵会の地域組織と連携を強化していきたい旨、及び運動部関係では女子サッカーが準備勝したとなどの報告がありました。本部からは、地域組織の高齢化に伴い、ホームページの活用により情報発信をはかり若い人を呼び込みたい。また、12月現在、30数件の地域会等のリンクがある旨説明がありました。会場のレストラン古都のオーナーであった昭和26年卒の古賀先輩が12月に亡くなり、献杯してから2時間あまり楽しかったです。



**佐世保総会**

平成28年2月12日

- ① 事務局長次長 勇 真一郎
- ② 副会長 宇野 峰雪
- ③ 佐世保第一ホテル 13名

⑤ 平成27年度、年間活動報告、収支





報告を行い、大学から事務局長次長より、箱根駅伝以外の各部活躍について、宮陵会副会長より80周年に伴って宮陵会会館建設について話を聞いた。今回は役員改正があり、新会長、新事務局長が選任された。

私の方から長崎県人会設立についてご紹介し、皆様に興味深く聞いて頂き、賑やかな宴でした。

**熊本県総会**  
平成28年2月27日

- ① 経営政策課長 田島 陸浩  
副会長 鶴屋百貨店東館7階  
カーネーションサロン
- ② カネーションサロン
- ③ 53名
- ④ 今回の定時総会は(学)神奈川大学、(社)神奈川大学宮陵会からの来賓に加え、高名治(九州ブロック会長・長崎県会長)様、北九州3名、福岡3名、鹿児島2名が参加しての開催となり、準会員の後藤喜多郎(校友課)様も駆けつけてくれました。



の歌」を合唱し、盛会のうちに終了しました。

**熊本県慶祝会**  
平成27年6月13日

- ① なし
- ② 雑魚屋 熊本東急REIホテル
- ③ 30名
- ④ 熊本県宮陵会平成27年度慶祝会第8回目となる今年の慶祝会は、古希1名、還暦1名の会員のお祝いをいたしました。



永和田隆一理事事務局長が大学の現状を報告、宮陵会本部の春原正三理事が全国同窓会の状況について話した。

**沖縄県臨時総会**  
平成27年11月14日

- ① 専務理事 平能 孝一
- ② ネストホテル那覇
- ③ 13人
- ④ 会長挨拶に始まり、平成8年九州ブロック会議沖縄県大会以来久しく総会を開催しなかった経緯とお詫びがあり、今は本部の全面的なご支援で臨時総会を開催することができた。



も)された会員数で採決することになった。

**同学会上海総会**  
平成27年11月28日

- ① 管財部長 金丸 壽男
- ② 副会長 古川 勝彦
- ③ 20名
- ④ 20代から60代までの日本人、中国人が所属しており、みな多方面で活躍しています。業種、職種、環境は違いますが同窓であることに変わりはない、いろいろな情報交換の場として本会を運営しています。



役員及び運営委員の設置について、出席者が半数(過半数未達)のため次回総会に持越しとなった。会長及び副会長は次回総会で続投となった。この中で過半数の出席は困難なため、出席(少数で

**同学会大連総会**  
平成27年12月5日

- ① 事務局長次長 勇 真一郎
- ② 経済学部教授 呉 春美
- ③ 副会長 間中 晟
- ④ 民航大廈(大連ロイヤルホテル)12名
- ⑤ 今年も講演会と懇親会の2部構成で開催しました。

春原専務理事様、辻平塚事務部長様を迎え、会員22名の参加のもと、廣澤事務局長司会により、総会が執り行われました。

まず余会長より挨拶があり、続いて辻部長様、春原専務理事様のご挨拶をいただきました。

議事には、27年度事業報告・決算報告・監査報告と進み、平成28年度の事業計画・予算計画を審議いたしました。

第二部の講演会では、「認知症サポーター養成講座」として、大塚千恵子講師より「正しく学ぶ認知症、平野知恵講師より「住宅介護(介護される側と進み「住宅介護(介護する側)」、さらに小竹一臣講師(磯子区会議員)より「遺言の考え方とその方法」という題で講演いただきました。

第三部の懇親会では、磯子駅前のサイゼリヤで和やかな雰囲気の中、会員相互の親睦意見交換が行われました。



- ① 平塚事務部長 辻 洋一
- ② 専務理事 春原 正三郎
- ③ 横浜市社会教育コーナー
- ④ 横浜市磯子区磯子3-6-11
- ⑤ 22名
- ⑥ 平成28年1月24日(日)午後2時より5時まで横浜市教育コーナーで磯子区宮陵会、平成27年度総会

**磯子区総会**  
平成28年1月24日

- ① 専務理事 春原 正三郎
- ② 横浜市社会教育コーナー
- ③ 横浜市磯子区磯子3-6-11
- ④ 22名
- ⑤ 平成28年1月24日(日)午後2時より5時まで横浜市教育コーナーで磯子区宮陵会、平成27年度総会



- ① 箱根駅伝応援
- ② 平成29年
- ③ 11月 定例会(杉田劇場)
- ④ 10月 ホームカミングデー出席
- ⑤ 9月 工場見学会(学生懇談会)
- ⑥ 8月 定例会(杉田劇場)
- ⑦ 7月 納涼会兼定例会
- ⑧ 6月 定例会(杉田劇場)
- ⑨ 5月 定例会(杉田劇場)
- ⑩ 4月 定例会(杉田劇場)
- ⑪ 3月 箱根親睦会兼定例会(神大保養所)
- ⑫ 2月 定例会
- ⑬ 1月 通常総会



### 神奈川区総会

平成27年11月29日

- ① 学生生活支援部長 村川 浩行  
副会長 宇野 峰雪
- ② 神奈川大学横浜キャンパス19号館  
LUXホール
- ③ 21名
- ④ 本年の総会は、幹事を中心とした  
総会となりましたが、例年と異なる  
点は若い世代の関心を引くもの  
であったと思います。総会費は支  
払わなくても年会費を納める若い  
世代が増えたことにあります。約  
3000に及ぶ卒業生に総会案内  
を送る意味が報われていること  
を実感できました。総会では決算・  
予算及び事業報告・事業計画が承  
認され、懇親会においては村川部  
長による詳細な課外活動報告、宇  
野副会長による宮陵会館建設の報  
告等をいただき盛会に終了するこ  
とができました。

⑤

- 平成27年  
6月2日 神奈川県ブロック会打  
合せ
- 6月20日 全日本大学対校駅伝予  
選会応援
- 9月12日 幹事会
- 10月10日 全国地域代表者（事務  
局長担当者）会議出席  
（久米）
- 10月11日 ホームカミングデー  
参加
- 10月17日 箱根駅伝予選会応援
- 10月18日 総会案内発送作業  
（6名）
- 10月27日 神奈川県ブロック会議  
打合せ出席  
（春原、久米）
- 10月31日 神奈川県ブロック会議  
10月31日・11月1日 神大フェス  
タ見学



### 南区臨時総会

平成27年4月18日

- ① なし
- ② 中区住吉町561パブ・セリーヌ
- ③ 11名
- ④ 前半  
・臨時総会を開催、空席の会長、  
幹事役、会計担当等を選出。会  
長兼会計：和田英雄、幹事役：  
河崎泰秀

・ブロック会についての報告及び  
意見を聞いた。  
・会計報告を行う。  
・理事の立候補の件で話し合いを  
行う。

⑤

- 後半  
親睦会とした。午後8時に散会。
- ・2、4、6、9月の第3土曜日  
に親睦会を開催。
- ・箱根駅伝の応援参加
- ・11月に総会を兼ねて忘年会を開  
催。  
・ホームカミングデーに南区宮陵  
会として参加。

### 南区総会

平成27年11月21日

- ① 教育支援センター 事務部長 旭 馨
- ② 副会長 古川 勝彦
- ③ 中区住吉町561パブ・セリーヌ
- ④ 南区宮陵会の会員の皆様は大半こ  
高齢者なので、総会に出席する方  
が少ないのではないかと心配して  
いましたが11名の方の出席返事が  
有りましたので安堵しました。一  
部の総会は滞りなく終了、引き  
続き二部の親睦会では打ち解けた  
雰囲気の中で会話が弾み、さらに  
カラオケでも盛り上がりました。

⑤

- 1. 1月2、3日  
箱根駅伝応援参加  
集合場所 保土ヶ谷区権太坂  
周辺
- 2. 4月 親睦会
- 3. 6月 定時総会出席
- 4. 10月 南区宮陵会総会

### 保土ヶ谷・旭区総会

平成27年6月20日

- ① 専務理事 佐藤 武
- ② 横浜キャンパス804会議室

11月29日 神奈川区宮陵会総会  
平成28年  
1月2日・3日 箱根駅伝応援



1号館8階ストツプオーバー

③

④ 定刻に始まり、先ずは昨年度など  
にご逝去された初代支部長をはじ  
め12名の会員の方々のご冥福を祈  
り黙祷をささげました。総会は、  
会長の挨拶に続き宮陵会本部から  
の来賓（佐藤、武専務理事）より  
挨拶を戴いた後、議長を選出して  
議案に取りました。昨年度は創立  
15周年記念誌の発行が出来たこ  
と、総会や駅伝応援等の活動報告  
がされました。その後決算報告、  
今年度の活動計画、予算共に満場  
一致で承認されました。そのあと  
に開催された懇親会も盛会のうち  
に終了となりました。

⑤

- ・役員会（2015・5・20）  
準備、2016・2・3 次年  
度総会の打合せ、その他適宜
- ・親睦会（2015・5・29）サ  
ツポロビールの会）参加、20  
15・11頃「箱根保養所」利用  
の親睦会
- ・学生活動への応援  
（2015・10・17 駅伝予選会応  
援、9・10月秋季リーグ戦応援  
等）
- ・会員数の拡大  
・保土ヶ谷・旭区宮陵会ホームペ  
ージの立ち上げ
- ・その他、大学行事、宮陵会本部  
行事等への参加

### 戸塚・栄区総会

平成27年5月16日

- ① 人事部長 手戸 俊彰
- ② 専務理事 平能 孝一
- ③ 神奈川大学23号館
- ④ 地下1階101機械工作センター



③

④ 14名  
大学より手戸人事部長、宮陵会よ  
り平能専務理事の御出席を頂き  
母校にて開催いたしました。審議  
事項は無事承認され、今年度の懇  
親会は横浜北宮陵会との合同で開  
催を行い、有意義な時間をすごす  
ことが出来ました。最後に今後も  
近隣の地域組織との交流を図り、  
活動を進めることを約束し終了し  
ました。

⑤

- (1) 箱根駅伝の応援
  - (2) 会報等の発行
  - (3) スポーツ・文化・地域・  
社会活動への貢献
  - (4) その他
- 横浜北総会  
平成27年5月16日
- ① 人事部長 手戸 俊彰
  - ② 専務理事 平能 孝一
  - ③ 神奈川大学横浜キャンパス16号館  
宮陵会談話室
  - ④ 17（会員15名）委任状18名
  - ⑤ 総会では平成26年度の事業報告  
会計並びに監査報告、平成27年度  
の事業計画及び収支予算等の議案  
はすべて承認されました。役員改  
選については、森会長の二期目の  
続投とその他役員の留任が決定し  
ました。会の更なる充実をはかる  
為に新たに幹事6名を増員しまし  
ました。
- ご来臨賜りました手戸部長より在  
学生および卒業生の多方面での活  
躍、大学の現状と創立100周年の活  
躍を見据えた将来構想や施設整備計  
画のお話がありました。平能専務  
理事からは宮陵会の各分野での活



③

④ 動状況や宮陵会館建設計画等の話  
題で期待感溢れました。終了後8  
階のストツプオーバーにて、合同  
懇親会が開催され、大変有意義な  
時間を過ごしました。

⑤ 1. 会員の増強と会の事業計画を  
具体化する為に、年4回の役  
員会と懇親会を開催する  
2. 会員相互の親睦の為に旅行  
ウォーキングその他趣味の会  
を実施する

⑤

- 3. 文化・教養講座の開催（神奈  
川大学教授による）
  - 4. 社会・地域貢献としての活動  
（鶴見川流域の清掃）
  - 5. 「東京箱根間往復大学駅伝大  
会」の応援
  - 6. 定時総会（第9回）の開催  
その他大学、宮陵会本部が開  
催する行事への積極的な参加
- 港南区総会  
平成27年4月11日
- ① 広報部長 水上 晃
  - ② 専務理事 平能 孝一
  - ③ 上野駅前 ミオカビル6階  
北海道
  - ④ 17名
  - ⑤ 庄子会長が議長となり議事が進め  
られました。
- 第一号議案の平成26年度事業報告  
を事務局長から説明、決算報告を  
会計担当の杉村副会長から説明、  
監査報告が八木田会計監事から報  
告され、原案どおり承認されまし  
た。



③

④ 事務局長から説明の後、満場一致で  
承認されました。会則の一部改正  
は、これまで幹事の役職名を監事  
に変更し人数を2名以内と規定し  
た改正です。役員は会計を杉村さ  
んから根本郁恵さんに変更し選任  
しました。第四号議案の平成27年  
度事業計画と予算案について事務  
局長から説明の後全員異議なく承  
認されました。

⑤ 4月11日（土）平成27年度定時  
総会  
4月26日（日）3泊4日  
春爛漫の古典校の里を放する会  
5月30日（土）  
大岡川清掃ボランティア活動  
8月2日（日）  
昼の時間帯に上大岡で納涼ビアバ  
ーテイ

⑤

- 10月17日（土）  
箱根駅伝予選会に応援ツアー  
10月31日（土）  
神奈川県ブロック会 イベント参加  
11月8日  
創立者米田吉盛先生の墓参り  
※雨天も行います  
12月12日（土）13日（日）予定  
忘年会 箱根保養所に  
平成28年度 1月2・3日  
箱根駅伝 沿道応援権太坂ポイント
- 相模原総会  
平成27年11月28日
- ① 副会長 間中 晟
  - ② 相模原市民会館
  - ③ 3階第一会議室
  - ④ 26名
  - ⑤ 高橋一行氏の進行により総会が開  
催された。
1. 会長挨拶  
会長 高橋 一行氏





**秦野市総会**  
平成27年5月30日

① 事務局長 城所 孝光  
② 『東光苑』 グランドホテル神奈中 2階  
③ 17名  
④ 平成27年度総会も以前と同様に、

1. 来賓挨拶  
宮陵会副会長 間中 晟氏
  2. 大学近況報告  
事務局 永和田 隆一
  3. 議長選出 慣例に基づき高橋 会長が議長として選出された。
  4. 総会議事
  5. 経過報告及び会計報告  
堀江事務局会計担当、別紙に 基づき説明があり、また石川 達会計監査担当から「適切で ある」旨の報告があり全会 致で承認された。質疑応答の 中で、会計年度（4月1日か ら3月31日）と総会開催時期 （11月下旬）にずれがあるこ とについて意見があり、本部 の意向も含め役員で検討する こととした。
- (2) 予算案・事業計画(案) について  
堀江事務局会計担当から、予 算、事業計画について別紙に 基づき説明があり、全会一致 で承認された。
- 閉会の辞  
副会長 村中 信夫氏
1. 箱根駅伝応援・新年会  
平成28年1月2日、3日  
箱根湯本駅前 応援ポイント  
新年会 箱根湯本駅上 カッパ天国
  2. 近隣宮陵会との交流
  3. 総会・懇親会
  4. その他  
会員からの提案を受けて、新 規の活動を行っていく。



**箱根町総会**  
平成27年6月24日

① 専務理事 佐藤 武  
② 箱根町湯本 ホテルおおかだ 11名  
③ 平成27年度総会を箱根町湯本ホテ ルおかだにて6月24日に開催いた しました。佐藤専務理事に出席を

1. 申上げます
  2. 神奈川大学秦野市宮陵会親睦 旅行(9月中旬)
  3. 神奈川大学湘南ひらつかキャ ンパス大学祭(平塚祭) 宮陵 会ブース出展支援(10月24日 25日)
  4. 第92回東京箱根間往復大学駅 伝競走沿道応援(1月2日、 3日)
  5. 交通の便がよい場所で開催しまし た。開催通知の方法は、参加率、 回答率上昇を期待し、往信は封 筒、返信はハガキを使用しまし た。回を重ねるごとに、出欠回答 が増え、出席者も微増し、充実し た実のある総会となりました。神 奈川大学、および横浜専門学校の 卒業生のうちご連絡をお届いた だいている諸先輩方は約900名 弱おられ、返信される葉書の通信 欄を読む限り、秦野市宮陵会に 対してのご支援がなお一層増してい るのを感じます。
- 今回の総会では、出席者の自己紹 介を行い、在学時代の懐かしい思 い出話や、現在ご活躍の近況をこ 報告いただきながら、親交を温 め、思い出に浸るひとときを共有 いたしました。
- 今後も、何卒ご支援賜りたくお願 い申し上げます。
1. 神奈川大学秦野市宮陵会総会 (5月30日)
  2. 神奈川大学秦野市宮陵会親睦 旅行(9月中旬)
  3. 神奈川大学湘南ひらつかキャ ンパス大学祭(平塚祭) 宮陵 会ブース出展支援(10月24日 25日)
  4. 第92回東京箱根間往復大学駅 伝競走沿道応援(1月2日、 3日)

**西多摩総会**  
平成27年10月4日

① 専務理事 春原 正三郎  
② 図書館事務部長 堀江 美由紀  
③ パレスホテル立川



- いただき大学の諸活動の状況報告 を聞かせていただきました。そし て心配な箱根火山の情報交換や諸 先輩方の貴重なお話をうかがい楽 しい時間は短く感じましたが、盛 況のうちにお開きになりました。
1. 箱根駅伝応援
  2. 箱根町宮陵会総会開催
- 平塚市総会**  
平成28年1月3日
- ① 専務部長 原田 浩行  
② 事務理事 佐藤 一武  
③ ホテルサンライフガーデン4F石 垣 22名
1. 箱根駅伝応援については、例年同様 に応援ポイントとなっている平塚 湘南海岸付近沿道にて1/2、 1/3の両日実施。
  2. 復路の応援終了後、ホテルマイク ロバスにて総会及び新年会懇親会 場であるホテルサンライフガーデ ンへ移動。副会長原田恵介氏の司 会進行で開会。宮川会長挨拶。続 いて宮陵会専務理事佐藤氏欠席の 為、大学側代表として原田氏より 挨拶、大学の現状等の説明があつ た。引続き黒部事務局長より役員 変更の件、事業計画(案)等の説 明、副会長兼会計より会計報告を 説明し、共に承認された。
  3. 総会終了後はゴルフスクリーン にて応援。にぎやかに懇親会を実 施。



**南足柄総会**  
平成27年6月13日

① 施設部長 飯田 泰弘  
② 専務理事 平能 孝一  
③ 南足柄市女性センター 16名  
④ 本年度は、会員拡大を図るため、 南足柄市他5町(大井町、開成

1. 神奈川大学と宮陵会発展のため の協力
  2. 一年一回の「総会と集い」を開催 駅伝予選会がある時に会員への 応援依頼
  3. 年4回以上の役員と有志による 定例会開催
  4. 年1回以上の会報発行
  5. 会員への上各種資料の発送
- 2階中華料理「瑞麟」 9名
1. 毎年、駅伝予選会の応援依頼を兼 ねて開催しました。出席者が減少 する中、返信者のコメント集を作 り、地域に多くの同窓生がいるこ とを知らせようと計画しました。
  2. 会合は、女性会員の参加もあり有 意義な話し合いの場を持つことが できました。
  3. 神奈川大学と宮陵会発展のため の協力
  4. 一年一回の「総会と集い」を開催 駅伝予選会がある時に会員への 応援依頼
  5. 年4回以上の役員と有志による 定例会開催
  6. 年1回以上の会報発行
  7. 会員への上各種資料の発送



**三浦半島総会**  
平成27年6月14日

① 資料編纂室長 池原 治  
② 副会長 間中 晟  
③ 横須賀セントラルホテル 5階要 会場

1. 総会及び新年会の開催(平成28 年1月) 記念講演会は地域貢献 の一環として一般市民可。
2. 広報活動の継続と支部同好会へ の支援。
3. 「ツインダイノベーション」と今 後も連携を、さらに若い卒業 生や現役学生との交流を図る。
4. 役員会の開催(4月、9月、12 月、3月の第2土曜日とし、場 所は、各地区の持ち回り) (必要に応じて臨時役員会を開 催)

- 町、中井町、松田町、山北町の) 卒業生に対し、南足柄宮陵会への 「加入のお願い」の通知を送付し たところ、現時点で十数人の新規 加入がありました。
- 引き続き、いろいろな方法で会員 拡大を図る考えでありますので、 お力添えをお願いいたします。
1. 会則に基づき、名簿の整理
  2. 会員拡大の推進
  3. 会員相互の親睦行事の計画
  4. 東京箱根間往復駅伝競走の応 援
  5. その他、必要に応じた事業を 行う。



**茅ヶ崎・寒川総会**  
平成28年1月24日

① 経営政策部次長 相良 秀生  
② 副会長 間中 晟  
③ 和風レストラン ちそう 39名  
④ 平成28年1月24日、神奈川大学よ り相良秀生様、宮陵会より間中晟 様の出席をいただき、総勢39名で 第7回総会及び懇親会を茅ヶ崎市 民文化会館内にある和風レストラ ンちそうで開催しました。

- 今回は大学紹介のDVDを上映し ながら、相良氏より母校の近況報 告をし、大学当局の池原治氏、宮陵 会の間中晟氏から祝辞をいただき、 川瀬元夫氏の発声で乾杯をし ました。今回は女性4人、平成の 若い卒業生も参加、楽しいひと時 を過ごし、最後に校歌を斉唱して 散会しました。
1. 親睦を深めながら母校の発展に 寄与し、会員増強への基盤づく りをはかる。
  2. (具体的には、ホームカミング デー、箱根駅伝の予選会及び本 選の応援、硬式野球部・サッカー 部・アメリカンフットボール 等の応援、大学祭、吹奏楽部の 定期演奏会等)
  3. 総会及び新年会の開催(平成28 年1月) 記念講演会は地域貢献 の一環として一般市民可。
  4. 広報活動の継続と支部同好会へ の支援。
  5. 「ツインダイノベーション」と今 後も連携を、さらに若い卒業 生や現役学生との交流を図る。
  6. 役員会の開催(4月、9月、12 月、3月の第2土曜日とし、場 所は、各地区の持ち回り) (必要に応じて臨時役員会を開 催)

告と箱根駅伝の結果等について説明を伺いました。  
 総会及び懇親会を開催すると共に神奈川大学運動部及び学生ボランティア活動を応援してまいります。

**三洋みやも会総会**  
 平成27年6月10日

- ① 専務理事 春原 正三郎
- ② 鳥どり日本橋店
- ③ 10名
- ④ 宮陵会から春原専務理事をお招きし、大学や宮陵会の近況をお伺いして改めて同窓の絆を深めた次第です。
- ⑤ なお、板頭会長より体調不良のため会長を退任したい旨申し出があり、総会に諮ったところ、皆様の総意により、幹事の小田嶋彰が会長を兼任することになりました。年に1度総会を開催



**神奈川大学学内総会**  
 平成27年6月3日

- ① 理事長 正野 幸延
- 常勤監事 西森 義博
- 会長 狩野 七郎
- 副会長 大場 憲治
- ② 神奈川大学横浜キャンパス1号館308会議室
- ③ 38名
- ④ 場所を横浜キャンパスに戻して総会・懇親会を開催した。(会員201名、委任状75名、出席38名)。
- 2014年度活動報告、会計報告ならびに監査、役員改選(案)、特別会員の承認、いずれも賛成多数で承認された。
- 2014年度総会において審議事項とした会則の一部改正について

て、会員より頂いた意見書と幹事会の回答を報告したうえで、本年度改めて審議を行い、付帯条件付賛成多数で可決した。

**川本工業総会**  
 平成27年11月27日

- ① 専務理事 春原 正三郎
- ② かながわ労働プラザ
- ③ 4階 第8会議室
- ④ 9階 味彩
- ⑤ 11人
- ⑥ 平成27年度定期総会を開催するにあたり、宮陵会本部より春原正三郎
- ⑦ 庶務・渡辺信也(校友課)、柴田啓介(人事課)、会計・小杉洋平(情報システム課)、監査・有田清秀(管財部管財課)、千葉想大(学部大学院事務課)の改選が承認された。
- ⑧ 総ての議案が承認され、総会は閉会となった。
- ⑨ その後、会場を8階804多目的会議室へと移し、懇親会を開催した。
- ⑩ 恒例のビンゴ大会では、年に一度の親睦をはかった。参加者56名と盛況に終わった。
- ⑪ ※2015年度予算(案)については、月額8000円徴収案について可決。
- ⑫ 2015年6月3日・2015年度学内宮陵会(於 神奈川大学横浜キャンパス1号館308会議室)
- ⑬ 2015年8月下旬
- ⑭ 第1回懇親会「納涼ファミリー野球観戦」(会員相互の親睦)
- ⑮ 2015年10月17日
- ⑯ 箱根駅伝予選会応援
- ⑰ 2015年10月下旬
- ⑱ 第2回懇親会「ボウリング大会等」
- ⑲ 2015年10月24日、25日
- ⑳ 平塚祭での本部活動支援(神大スポーツパネル展示等)
- ㉑ 2015年10月31日、11月1日
- ㉒ 神大フェスタ本部活動支援(神大スポーツパネル展示、模擬店等)
- ㉓ 2016年1月2・3日
- ㉔ 箱根駅伝(本線出場の際)応援重点ポイント東神奈川他
- ㉕ その他・HPの立ち上げ、会費や総会後の懇親会開催について検討継続、地域組織との連携強化

**社労士会総会**  
 平成27年10月24日

- ① 法学研究科長・教授 山崎 公士
- 法学部准教授 坂本 宏志
- 副会長 間中 晟
- ② ホテル横浜ガーデン
- ③ 28名
- ④ 今年度は5周年を記念して、過去大学内で開催していたが、学外での開催を行った。総会は、昨年度の事業報告、会計報告、役員変更を審議し終了した。研修会は、「直前対策マイナー及びストレスチェック制度の運用」について大野実、萩原くみこ会員の基調報告があった。ストレスチェック
- ⑤ 引き続き懇親会に移り、会食をしながら記念撮影等、親睦を深めた。締めには、神奈川大学校歌を全員で歌い、有意義な時間をすごした。
- ⑥ ・4月22日 宮陵会本部 訪問
- ⑦ ・6月6日 定期総会参加
- ⑧ ・9月17日 幹事会
- ⑨ ・10月11日 第21回 ホームカミングデー 参加
- ⑩ ・10月16日 幹事会
- ⑪ ・11月27日 支部定期総会開催
- ⑫ ・3月 懇親会
- ⑬ 幹事会



郎専務理事様をお迎えし、宮陵会の運営に関する丁寧なご報告を頂いた。

**川本工業総会**  
 平成27年11月27日

- ① 専務理事 春原 正三郎
- ② かながわ労働プラザ
- ③ 4階 第8会議室
- ④ 9階 味彩
- ⑤ 11人
- ⑥ 平成27年度定期総会を開催するにあたり、宮陵会本部より春原正三郎
- ⑦ 庶務・渡辺信也(校友課)、柴田啓介(人事課)、会計・小杉洋平(情報システム課)、監査・有田清秀(管財部管財課)、千葉想大(学部大学院事務課)の改選が承認された。
- ⑧ 総ての議案が承認され、総会は閉会となった。
- ⑨ その後、会場を8階804多目的会議室へと移し、懇親会を開催した。
- ⑩ 恒例のビンゴ大会では、年に一度の親睦をはかった。参加者56名と盛況に終わった。
- ⑪ ※2015年度予算(案)については、月額8000円徴収案について可決。
- ⑫ 2015年6月3日・2015年度学内宮陵会(於 神奈川大学横浜キャンパス1号館308会議室)
- ⑬ 2015年8月下旬
- ⑭ 第1回懇親会「納涼ファミリー野球観戦」(会員相互の親睦)
- ⑮ 2015年10月17日
- ⑯ 箱根駅伝予選会応援
- ⑰ 2015年10月下旬
- ⑱ 第2回懇親会「ボウリング大会等」
- ⑲ 2015年10月24日、25日
- ⑳ 平塚祭での本部活動支援(神大スポーツパネル展示等)
- ㉑ 2015年10月31日、11月1日
- ㉒ 神大フェスタ本部活動支援(神大スポーツパネル展示、模擬店等)
- ㉓ 2016年1月2・3日
- ㉔ 箱根駅伝(本線出場の際)応援重点ポイント東神奈川他
- ㉕ その他・HPの立ち上げ、会費や総会後の懇親会開催について検討継続、地域組織との連携強化





⑤ は平成27年12月、マイナンバーは平成28年1月の実施開始という大きな関心事でもあり、会員間で活発なディスカッションが交わされた。大野会員は、マイナンバー導入について、社労士代表として厚労省との折衝を重ねてきた。それらのお話を聞いたことは、参加者にとって大きな刺激となった。懇親会は、大学より山崎大学院法学研究科長、坂本法学部准教授、宮陵会より間中副会長の出席を頂いた。交流のある他大学社労士会より、今年度は明大(駿台会)、中大(白門会)、日大(桜門会)の代表者のご出席を頂いた。また、今年度より会計人宮陵会奥村幹事長のご出席を頂き、和やか、盛況のうちに催すことができた。

毎年、法学部と共同で開催している学生向け講演「新しい時代の社会保険労務士」いま私たちが伝えたいこと」を、横浜キャンパス11号館11講堂で12月3日に開催した。平成14年卒の若手社労士濱村友和会員「社労士という職業、人を幸せにする幸せ」、榮恭子会員「社労士という仕事を通じて、自分らしい生き方を創造していく」と題して講演した。最後に全国社労士連合会参与の大野実会員が「社会保険労務士を取り巻く状況、将来の展望」と題して総括した。今年は資格取得をめざす多くの学生が参加し、盛大なうちに終了した。今後は、宮陵会のお土産にも働きかけ、土業に対する学生向け講演会の充実をはかっていきたい。また他大学社労士OB会との交流もより一層盛んに行っている。

**三十路会総会**  
平成27年10月11日

① 専務理事 春原 正三郎  
② 神奈川大学20号館110教室  
③ 8名  
④ 先ず、宮陵会会長を渡辺徳平氏に続き、5期にわたり狩野七郎氏が我が三十路会から選出されました事に感謝し、その労にむくいるため元婦人部長宮本益代さんから花束を贈りました。

宮陵会長の大締として宮陵会館の建設を大学側と折衝、決定されました。此れは大きな成果です。(念願がかないました)。

本部からは春原専務理事に御多忙の処御参加願ひ先に開催された全国地域組織総会のお話を伺いました。又体育会水泳部女子部が全日本水泳選手権大会に於いて総合3位に連続入賞し5年連続シード校となった事は特筆にあたいする校とて創部85周年に良い記念となりました。(水泳部OB会顧問として大変嬉しい年でした)。

⑤

第1回平成28年度  
新春食事会(1月27日(水))  
第2回平成28年4月  
花見食事会  
第3回平成28年7月  
暑気払い(暑さに負けずの意気  
で)  
第4回平成28年10月  
ホームカミングデー  
(20号館で総  
会、役員改選その他)



**珊瑚の会総会**  
平成28年3月5日

① 専務理事 平能 孝一  
② 神奈川大学横浜キャンパス19号館  
ラックスホール

③ 35名  
④ 第25回記念総会は大学側のご配慮により本校入試中にも関わらず会場を拝借し、宮陵会よりは専務理事平能孝一氏のご出席をいただき、27年度の活動及び会計報告が行われ、その他の議題は次期役員選出の件で、後日幹事会に委ねることになりました。

今回は当大学が東日本大震災で「KUボランティア駅伝」として活動を継続している学生4名に短い時間ではありましたが、その思いを、又活動内容を話していたいただき我々一同は非常に感銘し、心から拍手を送り懇親会も彼らと一緒に楽しいひと時を過ごし、名残惜しみながら再会を誓って散会。

5月 箱根仙石原保養所へ一泊旅行  
8月 浅草寄席観笑会及び暑気払い  
9月 幹事会  
10月 神大ホームカミングデー参加  
12月 幹事会の次回総会打合せ及び忘年会  
平成29年  
3月 珊瑚の会 第26回総会  
その他スポーツ(駅伝・野球・サッカー等)有志で応援

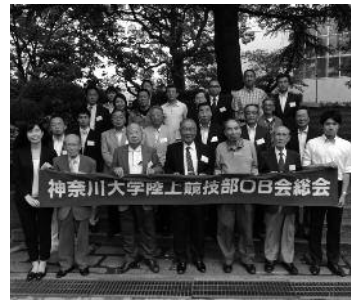
⑤

平成27年5月23日  
陸上競技部OB会総会



**陸上競技部OB会総会**  
平成27年5月23日

① 専務理事 佐藤 武  
② 神奈川大学横浜キャンパス1号館  
804会議室  
③ 20名  
④ 平成27年度陸上競技部OB総会はOB20名の出席で開催されました。



当日は、今後の活動内容や現役側からの報告に対し活発な意見交換が行われました。

総会終了後、一般社団法人神奈川大学宮陵会事務理事 佐藤 武氏、陸上競技部現役員1177名を迎え、懇親会を行いました。一般社団法人神奈川大学宮陵会事務理事 佐藤 武氏をはじめ来賓の皆様から現役員に向けて激励のお言葉を頂戴しました。総勢100名を超える参加者で、最後には全体で校歌斉唱をし、OB・学生との交流を持つことができました。

### バスケットボール部OB会総会 平成27年7月11日

- ① 副会長 古川 勝彦  
神奈川大学横浜キャンパス16号館第2会議室
- ② 平成27年度総会は高田敏明幹事長の開会の辞、船渡幸彦会長の挨拶。宮陵会から古川勝彦副会長が出席され挨拶及び船渡会長の功労者表彰をしていただいた。
- ③ 平成26年度の事業報告及び収支決算の承認、平成27年度事業計画及び収支予算の承認がなされ、役員改選では船渡名誉会長、紺野政弘会長、高田副会長、打田一夫幹事長の体制となった。
- ④ 報告事項として、現役の上半期の活躍が報告された。



その他(主な活動) 28年7月(創部65周年)を目標に「神奈川大学バスケットボール部の歴史」(仮称)を刊行するために資料収集と編集作業を進めることが決まった。

### 空手部OB会総会 平成27年6月27日

- ① 学生生活支援部部長 村川 浩幸  
後援会会長 西脇 幸二  
専務理事 平能 孝一
- ② 1号館8Fストップオーバー
- ③ 40名(祝賀会:79名)
- ④ 創部75周年の記念行事としてOB会員・大学・宮陵会・後援会・体育会各OB会より多数の皆様に参加して頂き盛大に祝賀会も出来た総会となりました。また祝賀会には初めて学生部員の父兄も4名参加された事が組織の意義を拡大できたと思います。
- ⑤ 年4回の幹事会  
・現役空手部員へのバックアップ(学生・指導者への交通費援助他)(大会応援)  
・公募制推薦入学獲得の高校へのプロモート活動  
・ホームページの管理  
・年1回の会報発行



### 柔道部OB・OG会総会 平成27年12月5日

- ① 専務理事 春原 正三郎  
神奈川大学17号館215教室  
会員16名 準会員15名
- ② 平成27年度定期総会を上記の通り開催し、27年度活動報告、決算報告、28年度活動計画および収支予算計画について討議を行い、事務局原案にて承認を得た。
- ③ 1月~12月 役員会(毎月開催)
- ④ 5月 会報発行
- ⑤ 7月 新入部員歓迎会  
8月 合宿壮行会  
10月 地区総会報告  
11月 王座決定戦  
12月 総会および納会



### レスリング部OB会総会 平成27年11月7日

- ① 専務理事 春原 正三郎  
神奈川大学湘南ひらつかキャンパス1号館201号室
- ② 21名
- ③ 神奈川大学レスリング部OB会が新体制となり、開催場所も横浜キャンパスから平塚キャンパスに移り3年。
- ④ レスリング部現役生の活躍等もあり、OB総会への若い参加者も増えてきた。
- ⑤ 参加者が増え、積極的な意見が飛び交い、充実した内容となった。
- ・1月 役員打合せ(OB会報)
- ・2月 OB会報発行
- ・3月 卒業生送別会・記念品



### ラグビー部OB会総会 平成27年5月2日

- ① 名誉教授 斎藤 直樹  
専務理事 宇久田 進治  
神奈川大学中山キャンパス66名
- ② 62回目になるラグビー部OB会総会は、神奈川大学宮陵会から専務理事の宇久田進治様、神奈川大学名誉教授の斎藤直樹様の出席を頂き開催された。開会に先立ち物故会員に1分間の黙祷がさげられた。総会については、議事案件を審議し、総て承認された。
- ③ グランドでは、OB・現役の集合写真の撮影後、恒例である現役とOB・現役混成チームによる試合







**卓球部OB会総会(卓友会)**  
平成27年11月14日

- ① 専務理事 春原 正三郎
- ② 大学19号館ラックホール
- ③ 68名(内12名は準会員、2名来賓)
- ④ 本年度の総会は、神奈川大学宮陵会から大変お忙しい中、春原専務理事にご出席いただき開催されました。また、監督・コーチの携帯(スマホ)を活用したネットワークによる呼びかけで若手OBのかつてない多数参加を得られました。総会では、役員の変更を行い、会長は西川豊司氏(昭39年

- ⑤ を行い、激しいプレーに大変盛り上がった。
- 懇親会は、ミーティングルームにてS35大澤顧問の発声が始まり、OB・現役とも和気あいあいのなか、懇親を深めた。新入部員を含む現役部員の紹介を行い、OB諸氏より激励の挨拶を頂き、最後にS63柳下氏の万歳三唱で全行事を無事終了した。
1. 年数回の役員会を開催し、会の運営全般を協議し実行する。
2. 会報は、年1回、会員名簿は、2年に1回、偶数年に発行する。
3. 会費・寄付金の徴収活動には督促活動を含め、力を入れている。
4. 現役部の維持支援体制を継続し、試合の観戦応援をする中で会員の連帯感を醸成する。さらに地区OB会開催を推進する。
5. 未連絡会員の確認活動を継続し、会員の移動情報を把握し、住所不明会員の発掘活動をする。

**学士山岳会総会**  
平成27年6月27日  
専務理事 佐藤 武  
神奈川大学箱根保養所

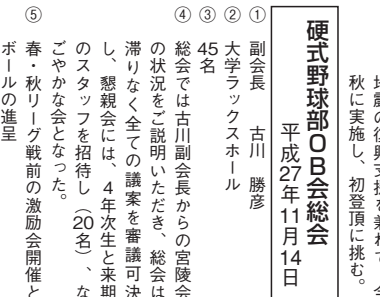


- ① 副会長 古川 勝彦
- ② 江ノ島ヨットハーバー 35名
- ③ 当日は、札幌、長野、大阪等の全国からOBが集まり総会を開催し、その後クルージングと食事で交流を強めました。
- ④ 6月 新入部員歓迎会
- ⑤ 9月 OB総会
- 12月 納会
- 1月 箱根駅伝応援
- 2月 卒業生追出しコンパ

**ヨット部OB会総会**  
平成27年9月6日

- ① 副会長 古川 勝彦
  - ② 江ノ島ヨットハーバー 35名
  - ③ 当日は、札幌、長野、大阪等の全国からOBが集まり総会を開催し、その後クルージングと食事で交流を強めました。
  - ④ 6月 新入部員歓迎会
  - ⑤ 9月 OB総会
  - 12月 納会
  - 1月 箱根駅伝応援
  - 2月 卒業生追出しコンパ
7. 定例総会の開催
  6. 卓球部の活動に対する支援金の支出
  5. 関東リーグの「応援&懇親の会」の開催
  4. 親睦ゴルフ大会の開催(ゴルフに参加しない人も含めた懇親会を開催)
  3. 会員への総会の状況報告
  2. 会員の現住所把握の継続
  1. 近隣高校招待試合の継続(OB会創設50周年記念事業の継続)

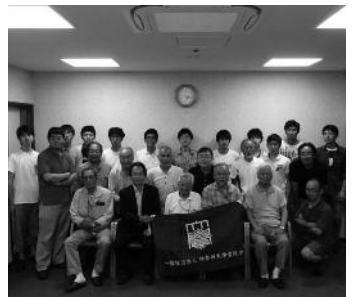
**硬式野球部OB会総会**  
平成27年11月14日



- ① 副会長 古川 勝彦
- ② 大学ラックホール 45名
- ③ 総会では古川副会長からの宮陵会の状況をご説明いただき、総会は滞りなく全ての議案を審議可決し、懇親会には、4年次生と来期のスタッフを招待し(20名)、なごやかな会となった。
- ④ 春・秋リーグ戦前の激励会開催とボールの進呈
- ⑤ リーグ戦の応援
- 4年次生の送別懇親会(全日本出場時は、支援金の進呈をした。)
- 親睦ゴルフ大会の開催

**硬式野球部OB会総会**  
平成27年11月14日

- ① 副会長 古川 勝彦
  - ② 大学ラックホール 45名
  - ③ 総会では古川副会長からの宮陵会の状況をご説明いただき、総会は滞りなく全ての議案を審議可決し、懇親会には、4年次生と来期のスタッフを招待し(20名)、なごやかな会となった。
  - ④ 春・秋リーグ戦前の激励会開催とボールの進呈
  - ⑤ リーグ戦の応援
  - 4年次生の送別懇親会(全日本出場時は、支援金の進呈をした。)
  - 親睦ゴルフ大会の開催
- 24名
  - ④ 去る6月27日、箱根保養所にて第14回定期総会を開催した。大桶谷周辺の活発な火山活動で観光客の集客力が落ち込んでいるとはいえ、週末の箱根は流石に賑やかである。現役学生も多数参加し、保養所の利用はいい機会となった。
  - ⑤ 今年度の主な活動は、大きく分けて3つ
  1. スポーツライミングを主体とした現役学生の強化サポートをし、ΣoΣoをはじめ主な国際大会及び国内大会への参戦を支援し、上位の成績を目指す。
  2. 山岳部本来の活動として、年間を通して現役部員のアルパイン合宿を応援し、「G&G計画」達成のための会員の総合力アップを図る。
  3. 今春計画していたヒマラヤ未踏峰登頂計画を、ネパール大地震の復興支援を兼ねて、今秋に実施し、初登頂に挑む。



**写真研究部OB会総会**  
平成27年6月13日

- ① 理事 会田 彰  
神奈川大学箱根保養所
- ② OB 13名 学生 4名
- ③ 平成27年度は、例年のとおり箱根保養所での開催。会員が全国に散らばるため、一カ所に集まっていた総会は限られた方になってしまいました。それでも、札幌・函館・浜松・磐田・名古屋などからの参加者を得ての13名。現役学生4名も加わって、午後4時から会議。終了後は定例の保養所前にて記念撮影。卒業年次順の自己紹介などで盛り上がった懇親会の後は、2次会で大盛況。学生たちは夜の仙石原撮影など、楽しめる総会でした。
- ④ 1. 総会は、毎年6月に開催。  
2. 12月に「横浜四大学連合写真展」にOB組織として協賛出品を続けています。他大学の写真部学生ともOBの状況について話が聞けて有意義です。  
3. 独自の「SNS」を開設して、会員の写真掲載の場として、また役員会議の場として、コミュニケーションに利用しています。  
4. 外部へ向けてのHPも開設しており、メルアドも常時受付中。



**吹奏楽部OB会総会**  
平成27年10月11日

① 専務理事 春原 正三郎

**神奈川大学20号館**  
16名

- ④ ③ ② このところの総会を開催してこたわらせての総会を開催しています。毎年全国大会（コンクール）の結果が出ているのが、今年は10月24日全国大会なので、結果が出ておらず、もうひとつ盛り上がり欠けてしまったようです。  
2016年1月4日（月）  
第51回定期演奏会 みなとみらいホール  
6月10日（金）  
サマーコンサート みなとみらいホール  
現役の応援をしています。



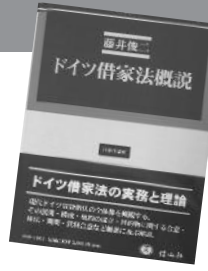
**男子リンクロス部OB会総会**  
平成27年7月18日

- ① 専務理事 平能 孝一
- ② 1部 811教室
- ③ 2部 ラックス
- ④ 102名
- ⑤ 以下の通り進化した。  
・平能専務理事ご挨拶  
・第一号議案 本部役員の承認  
・第二号議案 年間スケジュールの承認  
・第三号議案 2014年度決算承認  
・第四号議案 2015年予算承認  
・学生からの活動報告  
・2014年横浜ダービー総括  
7月 OB総会兼現役生壮行会  
8〜11月 リーグ戦応援  
12月 OB戦  
5月 横浜ダービー  
（横浜国大との対抗戦）


**横浜信用金庫総会**  
平成27年3月4日

- ① 専務理事 春原正三郎  
ブリーズホテルリゾート&スパ  
50名
- ② 我々職員の間には在籍店舗や同期等たくさん繋がりがあるかと思えますが、その中で「同じ大学の同窓生という仲間の繋がりがあっても良いのでは？」という趣旨により本会が設立されました。今回が17年目を迎え、より深い関係を築かねばと思っております。
- ③ ④ ⑤ 毎年秋ごろ 総会開催及び懇親会

**卒業生の「出版図書」紹介**



「ドイツ借家法概説」  
信山社  
5,000円(税別)  
藤井 俊二  
(昭和46年・法学部卒業)



窪野隆弘童話集「みみの誕生」  
桂書房  
1,500円(税別)  
窪野 隆弘  
(昭和46年・経済学部卒業)





Ⓜ メタセコイア並木



▼ 時計塔



▼ 23号館

# 秋



▼ 16号館前



Ⓜ 11号館前



Ⓜ 6号館教室



Ⓜ 1号館

# 大

ス四季彩

# 景

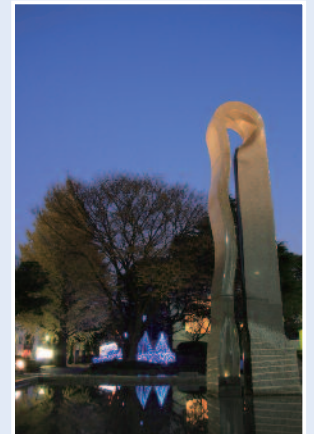
Ⓜ 湘南ひらつかキャンパス



▼ 1号館前



▼ 23号館前



▼ モニュメント



Ⓜ クラブ室棟と陸上競技場



Ⓜ 2号館と富士山

# 冬



▼ 東屋



Ⓜ 1号館





Y 1号館



H バスターミナル



H 桜並木



H 正門



H 土屋の杜遊歩道とテニスコート



Y 16号館

# 春



Y 神大橋

# 神

キャンパ

# 百

Y 横浜キャンパス



H 11号館



H 4号館(厚生棟)

# 夏



Y 総合グラウンドと23号館



Y 23号館前



Y 銀杏並木



H 1号館



H 2号館